

洋紙六十年史表解

紙業新聞社編

585.02-Sh297



585.02
129

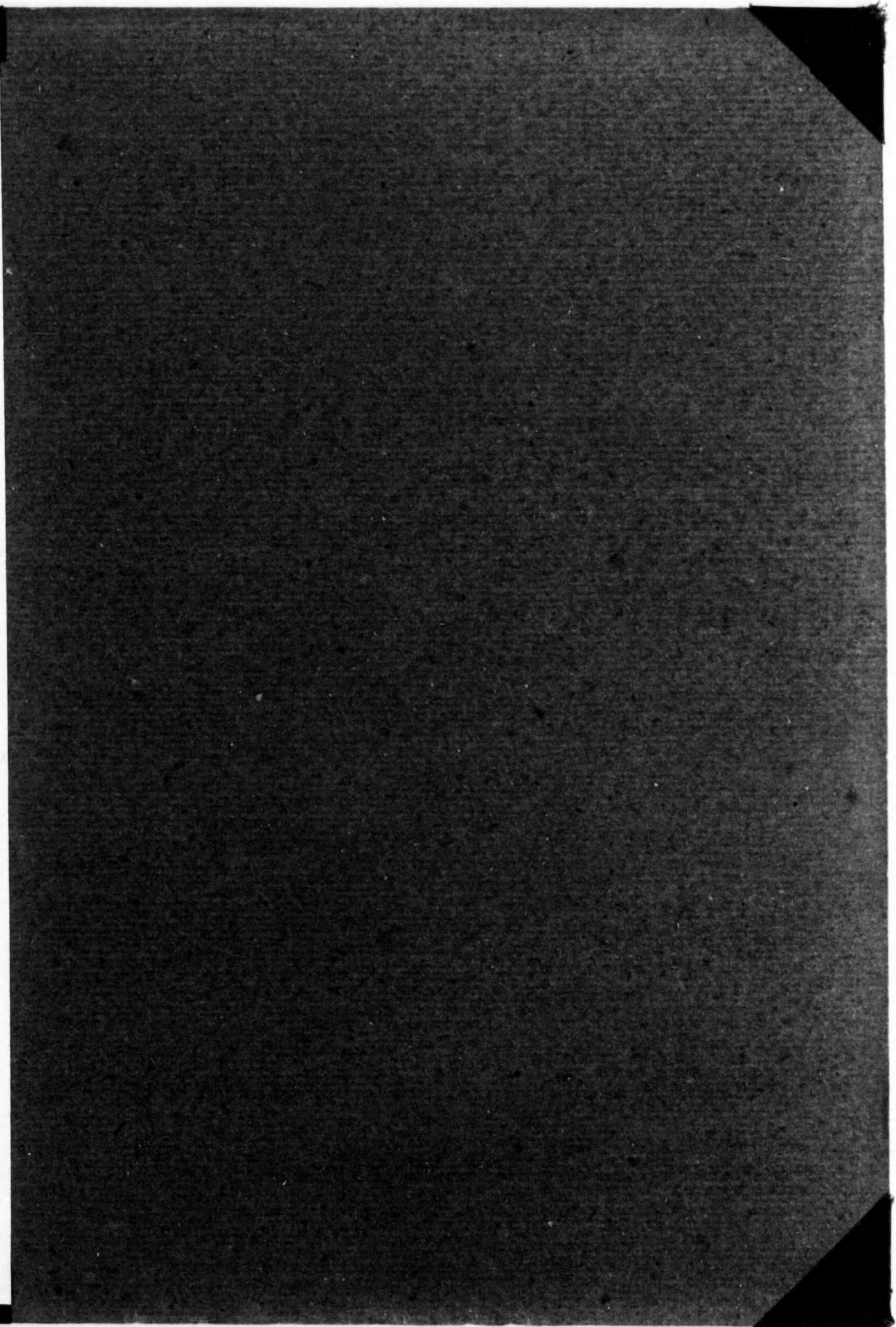


始



洋紙六十年史表解

紙業新聞社編纂



585.02

SH29

紙業新聞社編纂



洋紙六十年史表解



洋紙六十年史表解 (一)

年號	紙業界記事	社會記事
明治四年	<p>四月 日本に於ける紙業關係の第一歩、大阪の商人百武安兵衛、洋式機械製紙業を大阪に興さんと企圖し商社組立の件を通商局に出願し、大藏省より其認可を得たり。</p>	<p>廢藩置縣○郵便を始む ○官制改革 散髮脱刀を許す○清國と修交條約を結ぶ○大使派遣○琉球の農民生蕃に殺さる 學制頒布○東京横濱間鐵道施設○禮服制定○曆法改正</p>
明治五年	<p>二月 舊廣島藩主淺野長勳侯、家臣に洋式製紙工場の建設を命ず。 九月 百武安兵衛が英商マツケンジに注文せる、製紙機械類は、大阪府廳が其契約主となり、十一月以内に神戸到着の約定を締結せり。 十一月 三井組、小野組、島田組の計畫に係る資本金十五萬圓の製紙會社設立の願書、紙幣寮に提出さる。</p>	<p>徵兵令頒布○征韓論敗れ西郷隆盛維新の重臣半ば野に下る○岩倉大使歸朝○ロシアヒバ汗國を降す</p>
明治六年	<p>二月 前記製紙會社、設立の認可を得、社名は單に抄紙會社と稱せり、是現在の王子製紙株式會社の前身なり。 十月 前年大阪府の名義にて契約したる製紙機械到着したるも百武等其代金を支拂ふ能はざりし爲め府が一時公金を以て立替へたり。 十一月 京都府知事榎村正直氏、御下賜金を以て近郊梅津村に洋式製紙工場建設に着手す(社名を、パピール・フアブリック)と稱す。</p>	

洋紙六十年史表解



洋紙六十年史表解



明治七年	會社數一 運轉工場數一 抄紙機一 (六〇吋)	製造量 壹、〇〇封度	四月 後藤象次郎氏、竹内綱氏等の經營に係る、蓬萊社は眞に大阪府と交渉し百武の機械を引受けしをもつて大阪中之島玉江町に煉瓦建の製紙工場建設に着手す。 六月 淺野家の經營に係る日本橋區蠟燭町の有恒社製紙工場、諸機械の試運轉を爲す。 九月 抄紙會社、王子村に工場地を選定、其建築に着手す、現今の王子製紙これなり。	民選議院設立の建白○ 佐賀の亂○臺灣征伐○ 郵便爲替規則及電信條令發布
明治八年	會社數二 運轉工場數二 抄紙機二 (一八〇吋)	製造量 壹、〇〇封度	一月 神戸米商ウオルシュ・ホール商會が主となり三ノ宮にて襪襦バルブ及洋紙の製造を計畫す。 二月 大川平三郎氏紙圖工として抄紙會社に入る。 四月 紙幣寮に抄紙局(後の印刷局抄紙部)を置く。 六月 抄紙會社第一工場竣工し、八月より操業開始す。 十月 小野寺正敬氏米國より歸朝す▼大阪蓬萊社の製紙工場(當時大阪紙砂所製造所と稱す)開業す。 十一月 林徳左衛門氏、製紙工場を三田小山町に建設三田製紙所と稱す。	元老院、大審院を置く ○千島、樺太の交換○ 始めて地方長官會議を召集○江華島事件
明治九年	會社數三 運轉工場數三 抄紙機三 (一九八吋)	製造量 八、五〇封度	一月 京都梅津のパビール・フアブリック會社開業式を擧ぐ。 二月 英米人の企業に屬する神戸三ノ宮の日本製紙會社、工場の建築を鹿島岩吉に命ず。▼梅津製紙の製品を、樺村京都府知事の命により、中井三郎兵衛氏、大森治良兵衛氏外二名、都合四名にて販賣に任ず、我國洋紙販賣商の始めなり。 三月 紙幣寮抄紙局竣工す。 四月 明治天皇、抄紙局及抄紙會社へ御臨幸遊ばさる。	○朝鮮と修交條約を結ぶ○佩刀の禁○熊本秋月、菟の亂○大阪、京都間鐵道開通

明治一〇年	會社數三 運轉工場數四 抄紙機 (二三六吋)	製造量 一、三、六、三三	五月 皇太后、皇后兩陛下、抄紙局及抄紙會社へ行啓▼抄紙會社を製紙會社と改む。 七月 眞島襄一郎氏、中之島製紙工場を獨力にて引受け眞島(大阪)製紙所と稱す、(現王子製紙在勤眞島重役の親) 八月 國內製西洋紙を無税にて輸出許可の布告あり。 十月 佐久間貞一氏、東京市牛込區岩戸町久貝正路氏の邸内に試験所を設け、稻葉を以て手漉板紙を製造す。	西南の役○第一回内國勸業博覽會開かる○イギリス皇帝印度王と稱す○露土戰役
明治一一年	會社數三 運轉工場數五 抄紙機五 (三三二吋)	製造量 一、四〇七、六五五	一月 紙幣寮を印刷局、抄紙局を抄紙部と改稱、得能良介氏を局長に任ず 二月 明治天皇、十六日、大阪眞島製紙所へ、十八日、梅津パビール・フアブリックへ御臨幸遊ばさる。 四月 二十二日付東京日々新聞紙上に、神戸三ノ宮の日本製紙會社賣却の廣告掲載さる。 五月 村田一郎氏米國より歸朝三田製紙所支配人に任ず。 六月 印刷局抄紙部は、蠟燭町の有恒社工場及職工全部を引受け、長網抄紙機の操縦を實驗、伊太利より受注の石版用紙抄造に成功。 七月 米人ウオルシュ兄弟、神戸三ノ宮工場の經營に任ず。 三月 印刷局抄紙部に於て始めて稻葉バルブを使用す。 五月 今春落成の神戸製紙所、初めて其製造に係る襪襦バルブを三田製紙所に試賣す。 六月 ジョン・ジー・ウオルシュ氏、製紙機械注文の爲め米國へ出張す。 十一月 抄紙部、三田製紙所及職工を借受け圓網抄紙機の運轉及抄紙を試験す。	○大久保利通公辭刺さる

明治 二年	會社數三 運轉工場數五 抄紙機五 (三三二吋)	製造量 一、六七、〇五	四月 九日印刷局抄紙部第一號抄紙機の運轉を開始す、翌十日、明治天皇再 び臨幸あらせられ超へて廿八日には皇太后、皇后兩宮行啓あらせ給ふ 五月 横濱居留地ウオルシュ・ホール商會、初めて神戸製紙所の製品の賣 捌に任ず。 七月 大川平三郎氏、製紙實習の命を受けて初めて米國へ渡る。 十月 小野寺正敬氏ウオルシュ氏の聘に應じ神戸製紙所に入り監工となる	府縣會の開設○琉球を 廢し沖繩縣を置く○大 正天皇御降誕○鼻刑を 處す
明治 三年	會社數六 運轉工場數五 抄紙機五 (三三二吋)	製造量 三、〇四、六七 販賣量 三、〇三、六二 販賣率 一〇八・三	八月 京都府梅津、バビール・フアブリツク商會を三萬圓並に十年賦にて 四千圓宛拂込の契約の下に磯野小右衛門氏に拂下ぐ、爾後梅津又は磯 野製紙場と稱す。 十月 眞島襄一郎氏、林徳左衛門氏より三田製紙所を買受く▼大川平三郎 氏米國より歸朝、王子製紙會社副支配人に昇任す。 十二月 トーマス・ウオルシュ氏の提議により製紙所聯合會(今の日本製紙 聯合會)成立す、即ち王子製紙會社、神戸製紙所、有恒社、眞島製紙 所、三田製紙所の五社が會員たり。	刑法治罪法發布○國會 開設の請願
明治 四年	會社數六 運轉工場數五 抄紙機五 (三三二吋)	製造量 三、六六、三五 販賣量 三、六七、四六 販賣率 九一・四	一月 京都の磯野製紙場聯合會に加入す。 十一月 東京堀留町の和紙問屋服部源三郎氏、洋紙の販賣を始め、今の株式 會社服部紙店之なり。 十二月 三田製紙所火災に遭ひ全燒、竟に再建を見ず。 大森治良兵衛氏、神戸製紙所の紙を販賣す。	國會開設の大詔下る○ 第二回勸業博覽會
明治 五年	會社數五 運轉工場數五 抄紙機五 (三三二吋)	製造量 四、六〇、九九 販賣量 三、六四、〇六	二月 二見昇氏、神戸製紙所支配人に轉ず、今の神戸二見商會の創立者、 板紙界の恩人なり。 三月 京都の中井三郎兵衛氏、王子製紙會社の製品販賣を特約す。	軍人に勸諭下賜○朝鮮 京城の變○伊藤博文各 國の憲法及諸制度觀察 の爲め歐洲に赴く

明治 六年	會社數五 運轉工場數五 抄紙機五 (三三二吋)	製造量 四、六〇、三三 販賣量 四、三三、〇一 販賣率 九二・一	六月 印刷局抄紙部、第二號抄紙機を運轉開始す。 八月 大阪中之島製紙所、十五萬圓にて住友家の引受くる所となり大阪製 紙所と改稱、岡本健三郎氏を社長に擧ぐ、後樺太工業に買収さる、後 昭和の三社合併後閉鎖となる。 十二月 大阪製紙所、下郷傳平、前川文平、秋田彌左衛門諸氏等の買収する 所となる▼印刷局長得能良介氏卒去。 一月 東京小津商店に於て洋紙販賣所をつくる、今の京橋小島洋紙店は、 この洋紙販賣所に發してゐる。	日本銀行開業さる
明治 七年	會社數五 運轉工場數五 抄紙機五 (三三二吋)	製造量 五、二四、五九 販賣量 四、九三、七三 販賣率 九三・八	五月 印刷局長心得一川研三氏局長に任ぜらる。 六月 印刷局抄紙部、第三號抄紙機を設備す。 七月 製紙聯合會、大阪製紙所及梅津製紙所の脱退を承認に決す。 十一月 東京柏原孫左衛門氏、洋紙店を開き神戸製紙所の一手販賣店となる 即ち西は大森洋紙店、東は柏原洋紙店に販賣することとなつた。 十二月 大阪製紙所、大阪製紙會社と改稱。	官報發行○鐵道馬車創 始
明治 八年	會社數五 運轉工場數五 抄紙機五 (三三二吋)	製造量 五、〇三、五四 販賣量 四、七、五六 販賣率 八三・一	三月 王子製紙會社、有恒社、神戸製紙所、大阪製紙會社、梅津製紙所の 各代表者連署し印刷局より普通印刷紙の發賣を廢止せんことを時の大 藏卿伯爵松方正義へ陳情せしも故なくして却下さる。 四月 三井物産、印刷局抄造の局紙十年間一手賣捌の命を受く。 六月 大阪日朝新聞、始めて蒸氣に依り印刷機械を運轉す。	朝鮮京城の變○五等爵 の制度○關東の強震○ 清佛戰爭
明治 九年	會社數五 運轉工場數五 抄紙機五 (三三二吋)	製造量 六、四三、四三 販賣量 六、〇三、三三	三月 大阪製紙會社、株主總會の決議を経て全部の財産を下郷傳平氏の所 有に移し、是より名稱を下郷製紙所と改め佐藤教三氏に庶務を馬場金 太郎氏に工務を擔當せしむ。	京城條約○天津條約○ 伊藤博文公文津に渡り 日清の通約條件を締結 す○内鮮制度創設○郵 便會社起る

<p>明治 二〇年</p> <p>會社數 五 運轉工場數 五 抄紙機 五 (三三二吋)</p>	<p>販賣率 九四</p>	<p>十月 佐久間貞一氏、沼間守一、鈴木良輔、田口卯吉等の諸氏と共に埼玉縣新座郡片山村に資本金一萬圓の板紙會社を組織、稻藁を原料として操業に着手す、之東京板紙會社の前身にして我國同業の始めとす。</p> <p>十一月 東京本所の岡本商店洋半紙を賣る。</p>
<p>明治 二二年</p> <p>會社數 五 運轉工場數 五 抄紙機 五 (四〇六吋)</p>	<p>製造量 六、七、八、〇 販賣量 七、四、三、五、六 販賣率 一〇九・五</p>	<p>一月 東京洋紙商組合設立認可さる、初代組合長に岡田來吉氏當選。</p> <p>三月 製紙會社、資本金を五十萬圓に増資、王子第二工場を建設す。</p> <p>七月 東京板紙會社、資本金を十七萬圓に増加す。</p> <p>八月 富士製紙會社の創立發企人安田善次郎、川村傳衛、林徳左衛門、原亮三郎、杉村甚兵衛、乙部鼎、森村市太郎、河瀬秀治、小林吟次郎、村田一郎神鞭知常の諸氏會合して設立を決議す。</p> <p>十月 東京板紙會社、南千住町に新工場の建築を始む。</p> <p>十一月 資本金二十五萬圓の富士製紙會社、設立認可されたるを以て株主總會開催、取締役に社長河瀬秀治、副社長村田一郎、原亮三郎、安田善次郎、川村傳衛、検査役に松尾儀助、乙部鼎の諸氏を選任す。</p> <p>十二月 東京の洋紙商川上正助、菊地辰三、白井練一、柴茂八、印刷業山田俊藏等の諸氏、一製紙會社創設の意思あり、小室信夫氏を創立委員長に推し北千住三河島の地に工場建設方東京府に出願す</p> <p>四日市製紙會社設立認可さる、資本金十五萬圓、理事長八卷道成氏工場は四日市濱町の四日市工業會社工場をその儘繼承、當社後年静岡芝川に移され、富士芝川工場と稱せしが後王子製紙芝川工場として現存す</p> <p>一月 富士製紙會社、本社を東京市京橋區三十間堀一丁目一番地に工場を静岡縣富士郡鷹岡村入山瀬に置く、現に王子製紙富士第一工場。</p>
<p>市制、町村制發布○樞密院を置く○高島炭礦事件○國粹主義起る○</p>		

<p>明治 二二年</p> <p>會社數 五 運轉工場數 六 抄紙機 七 (四九〇吋)</p>	<p>製造量 六、七、八、〇 販賣量 七、〇、一、二、三、四 販賣率 一〇三・四</p>	<p>販賣率 九五・二</p> <p>二月 小室信夫氏等の出願に係る工場建設の件府知事より許可さる。</p> <p>三月 神戸製紙所福時今の長網抄紙機を米國ライス・パトソン社に發注す</p> <p>六月 東京板紙會社の千住工場建築落成す、板紙機は英國パトソン社製幅八十五吋長網。</p> <p>四月 四日市製紙會社資本金を二十萬圓に増加、技師を米國に派遣す。</p> <p>四月 小室信夫氏等、東京府より許可済の工場地を放棄、更に之を小倉附近に建設せんとし福岡縣に出願、許可を得たるを以て是に資本金十五萬圓の有限責任千壽製紙會社を設立、本社を京橋區本村木町十三番地に工場を福岡縣企救郡西紫村篠崎中島に置く、取締役に小室信夫、藤本文策、中村直次郎、梶井幾三郎、豊永長吉、の諸氏選任さる。</p> <p>五月 神戸製紙所の第二號長網抄紙機運轉を開始す。</p> <p>六月 印刷局抄紙部、第四號抄紙機(米國ライス・パトソン製八十六吋長網)を設備す。</p> <p>八月 印刷局、工場なる名稱を廢し抄紙部を置き中村祐興氏を部長に任命す</p> <p>十月 四日市製紙、米國製幅八十四吋長網新抄紙機の運轉を開始す。</p> <p>十一月 大倉孫兵衛氏、洋紙商を日本橋西河岸に始め大倉洋紙店と稱す。</p> <p>十二月 製紙會社遠江氣田工場開業、創めて亞硫酸バルブを製造す、設計は大川平三郎氏、抄紙機は英國ユニオン會社製七十二吋圓網。</p>
<p>明治 二三年</p> <p>會社數 六 運轉工場數 八 抄紙機 一〇 (七二二吋)</p>	<p>製造量 一四、八、六、六、元 販賣量 三、九、三、〇、〇、三 販賣率 八六・六</p>	<p>一月 富士製紙會社の入山瀬工場開業す、米國八十四吋長網抄紙機、七十吋圓網抄紙機並に碎木バルブ、亞硫酸バルブ製造設備あり。</p> <p>三月 製紙會社第二工場開業す、抄紙機は英國製八十四吋長網。</p> <p>四月 四日市製紙會社、製紙所聯合會に加入す。</p> <p>帝國憲法並に皇室典範發布○大正天皇皇太子に立ち給ふ○大隈外相要職を辭す</p> <p>日露兩國間に初めて對等條約成立</p> <p>訴訟法發布○教育勅語御下賜○第一回帝國議會召集○第三回內閣勸業博覽會○東海道鐵道全通</p>

明治 二四年	會社數七 轉運工場數一〇 抄紙機一一 (八二二吋)	製造量 八、八、八〇二 販賣量 一七、四九、二六 販賣率 九六・二	五月 富士製紙會社、製紙所聯合會に加入す▼大阪阿部市郎兵衛氏一族西野新田に於て製紙工場建築に着手す、名稱阿部製紙所、資本金二十萬圓▼製紙所聯合會、神戸二見昇氏の起案に係る改正條規二十六條並に職工雇入規約等を決議す。 十月 各製紙會社、製紙所連署して再び印刷局抄造印刷用紙發賣の件大藏大臣に對し敬願せし結果政府は爾後該紙の發賣を停止す。 十一月 千壽製紙會社、天長節を選び英國製百吋長網抄紙機を試運轉す。 月不詳 大阪の山田茂兵衛氏、名古屋の伊藤氏、東京の川島庄之助氏、富士製紙の特約販賣店となる。 山田氏は山田洋紙店今の大坂富士洋紙店の前身、伊藤氏は名古屋万常紙店の前身、川島氏は川島洋紙店の社長である。	大津事變○北陸水害○濃尾震災○議會解散○シベリヤ鐵道起工
明治 二五年	會社數七 運轉工場數一〇 抄紙機一二 (九一九吋)	製造量 一四、八、六九二 販賣量 二四、六、七、八六 販賣率 九九・三	一月 千壽製紙會社營業を開始す▼製紙會社、富士、有恒、四日市、千壽五社の重役連署にて貴衆兩院に輸入洋紙稅額改正の請願書を提出す。 三月 富士製紙會社、自製の碎木バルブを用ひて新聞用紙を抄造す、我國に於ける木質バルブの創始なり。 四月 千壽製紙會社、製紙所聯合會に加入す。 七月 富士製紙會社河瀬秀治氏社長を辭し村田一郎氏之に代る。 八月 阿部製紙所開業す、抄紙機は米國ユニオン會社製八十六吋長網。 四月 製紙所聯合會、協定紙價確保の爲め破約者に制裁を設くるの具體案に就き再三會議を開けるも終に成立に至らず。 五月 製紙會社第一工場に据附けの七八吋抄紙機を撤し新たに米國ブラツク・クローソン社製九十八吋長網機を設置す▼有恒社、連年の損失に鑑み一大改革を試み工場を久保順太郎氏に委ぬ。	第二回總選舉○第三回帝國議會

明治 二六年	會社數九 運轉工場數一一 抄紙機一三 (一、〇〇五吋)	製造量 三、〇、一、二、五 販賣量 三、四、三、四、五 販賣率 九七・九	一月 河部製紙所並に明治十七年に退會の磯野製紙所及下郷製紙所、製紙所聯合會に加入す。 三月 四日市製紙會社、整理を斷行す、即ち資本金二十萬圓を三萬圓に切下げ更に六萬九千圓を増募、總資本金を九萬九千圓となす。 四月 本所の紙屋岡本彌兵衛氏、富士製紙會社の製品販賣を開始す。 七月 商法實施に因り製紙會社は王子製紙株式會社と改稱し富士、千壽四日市の三社も亦有限責任を株式會社と改む。 十二月 富士製紙會社入山瀨工場の増設機(米國製八十六吋長網、第三號)運轉を開始す。	郡司成忠の千鳥移任○福島安正シベリヤ騎馬旅行より歸る
明治 二七年	會社數九 運轉工場數一一 抄紙機一三 (一、〇〇五吋)	製造量 三、六、五、八〇〇 販賣量 三、五、〇、二、三 販賣率 九四・八	一月 富士製紙、資本金一百萬圓に変更。 二月 印刷局抄紙部初めて機械漉紙に漉込を施す。 三月 一日、各製紙會社、販賣業者と協商の結果各社の製品一封度に付五厘の値上を實行す、三日、在京四會社、十二販賣業者を兩國龜清樓に招く 四月 眞島製一郎氏兵庫縣川邊郡小田村常光寺(神崎驛附近)に工場開設、眞島製紙所と稱す、幅七十二吋の圓網式抄紙機二臺▼今の王子製紙神崎工場の前身なり、千壽製紙會社、資本金を三十五萬圓に変更す。 十月 小野寺正敬氏、神戸製紙會社を辭し東京板紙會社に入り取締役に擧げらる。▼千壽製紙所、更に五十萬圓を増資す。	東學黨の亂○日英改正條約成立○明治大帝大婚二十五年(銀婚式)の祝典を舉行せらる○十月玉歩を廣島に進め給ひ師團司令部を以て大本營と定め給ふ○明治二十七八年戰役始まる(豊島沖の海戰、平壤陥落、黄海の海戰)
明治 二八年	會社數九 運轉工場數一一 抄紙機一四 (一、一〇三吋)	製造量 三、〇、五、五 販賣量 三、四、三、五 販賣率 一〇〇・二	三月 日本板紙販賣會社日本橋小舟町一丁目に設立、東京板紙を代表して中井商店の鶴岡勝輔氏、島田延太郎兩氏が、富士製紙を代表して服部紙店の大飯儀三氏が夫々社員となる。 十月 眞島製紙所、組織を合資會社に変更。	臺灣平定○四月十七日下關春帆樓上の媾和談判(我全權伊藤博文、陸奥宗光、清國全權李鴻章)

<p>明治 二九年</p> <p>會社數九 運轉工場數一一 抄紙機一四 (一、一〇三吋)</p> <p>輸入額(圓) 印刷料紙 三、七、六九 唐紙 三、三、三三 其他の紙 四、七、四七</p>	<p>製造量 製紙用バルブ 三、三、三三 印刷料紙 三、七、六九 唐紙 三、三、三三 其他の紙 四、七、四七</p> <p>販賣量 三、三、三三 九七、八 七三、四六 三、五、五〇</p> <p>販賣率 九七、八 七三、四六 三、五、五〇</p>	<p>十一月 王子製紙氣田工場に於ける第二號抄紙機(七十八吋長網)運轉を開始す。(前年王子工場据附のもの)</p> <p>一月 富士製紙、資本金を一百五十萬圓に變更、静岡縣大宮町附近に於て第二、第三工場を増設に決す。</p> <p>二月 王子製紙、資本金を一百十萬圓に變更す。</p> <p>三月 阿部製紙所、工場大擴張の議を決す、尋で阿部市三郎氏を歐米に派遣英國にて百六吋(長網)獨逸にて八十吋(長網)及九十六吋(長網ヤンキー)各一臺の購求を約す(六月)東肥製紙株式會社、資本金一百萬圓)設立、工場は熊本縣八代郡上松求麻村、王子製紙專務取締役谷敬三氏辭任、大川平三郎藤山雷太兩氏專務に就任。</p> <p>七月 東京板紙、資本金を五十萬圓に變更、米國製百十吋の長網機一臺を増設して印刷用紙の抄造を計畫す。</p> <p>十二月 千壽製紙、資本金を一百萬圓に變更、第二號抄紙機を増設を計畫す</p>
<p>明治 三〇年</p> <p>會社數九 運轉工場數一一 抄紙機一七 (一、四三七吋)</p> <p>輸入額(圓) 製紙用バルブ 三、三、三三 印刷料紙 三、七、六九 唐紙 三、三、三三 其他の紙 四、七、四七</p>	<p>製造量 製紙用バルブ 三、三、三三 印刷料紙 三、七、六九 唐紙 三、三、三三 其他の紙 四、七、四七</p> <p>販賣量 三、三、三三 九七、八 七三、四六 三、五、五〇</p> <p>販賣率 九七、八 七三、四六 三、五、五〇</p> <p>四月 王子製紙、資本金を百六十五萬圓に變更。</p> <p>五月 阿部製紙所焼く。</p> <p>六月 西成製紙合資會社(資本金十七萬圓)成立と同時に板紙製造を開始す</p> <p>七月 富士製紙、資本金を二百三十萬圓に變更、山本留次氏、小石川區久堅町に合資會社博進社洋紙店を開業。</p> <p>八月 四日市製紙四日市工場全焼す、神戸製紙の主管ジョン・ジョウオル</p>	<p>○因濱小山六之助李鴻章を狙撃○遼東還附○英露ハミール境界を定む</p> <p>日清改正條約○標準專賣法公布○恐るべきペスト菌輸入し世間を騒がす○日本銀行落成し初めてエレベータを使用す○六月十五日午後八時三陸大海嘯</p> <p>皇太后崩御○足尾銅山の鐵毒流れ込み、渡民瀬川沿岸の一帶の農村之に憫む、田中正造起し閣下に直訴す○金貨本位制に改む○重要輸出品同業組合公布</p>

<p>明治 三二年</p> <p>會社數一〇 運轉工場數一四 抄紙機二二 (一、九三六吋)</p> <p>製紙用バルブ 三、三、三三 印刷料紙 三、七、六九 唐紙 三、三、三三 其他の紙 四、七、四七</p>	<p>製造量 製紙用バルブ 三、三、三三 印刷料紙 三、七、六九 唐紙 三、三、三三 其他の紙 四、七、四七</p> <p>販賣量 三、三、三三 九七、八 七三、四六 三、五、五〇</p> <p>販賣率 九七、八 七三、四六 三、五、五〇</p>	<p>四月 神戸製紙會社三ノ宮工場、岩崎久彌男の所有に移り合資會社神戸製紙所(資本金五十萬圓)と稱す。</p> <p>六月 千壽製紙社長小室信夫氏病歿、合資會社眞島製紙所、組織を變更して大阪製紙株式會社、資本金四十六萬圓)となし圓網抄紙機六十四吋二臺の増設に着手す、社長野田吉兵衛氏、副社長眞島襄一郎氏。</p> <p>七月 阿部製紙所の再築落成、營業を開始す。</p> <p>八月 王子製紙社長藤澤榮一、取締役大川平三郎氏等辭任す、爾後藤山雷太氏專務取締役たり、大川平三郎氏、技師職工を引具して王子を去る</p> <p>九月 藤原銀次郎氏、王子製紙支配人となる。</p> <p>十月 印刷局抄紙部長中村祐興氏退官、技師佐伯勝太郎氏抄紙部長に任官</p> <p>十一月 官報局を印刷局に合併、東京板紙社長佐久間貞一氏病歿し取締役の小野寺、鈴木兩氏社務を督す。</p> <p>十二月 四日市製紙芝川工場落成、新聞用の抄造を開始す、抄紙機は米國製九十八吋長網、亞硫酸バルブ並に碎木バルブの設備装置、九州熊本東肥製紙松求麻工場竣工、抄紙機は米國バグレイ社製百吋長網二臺。</p>
<p>製紙用バルブ 三、三、三三 印刷料紙 三、七、六九 唐紙 三、三、三三 其他の紙 四、七、四七</p>	<p>元帥府設置○日露協約○日佛改正條約實施○初めて勸業債券發行さる○民法施行○第五、第六回總選舉○東京市黨部三十祭○萬國郵便條約公布○紅葉山人の「金色夜叉」麗花生の「不如歸」等の新小説勃興す</p>	

明治三二年	會社數一 運轉工場數一六 抄紙機二六 (二、二七六吋)	製造量 三、四六、四九 販賣量 三、九四、八四 販賣率 (一〇〇・八)	輸入額(圓) 三六、三三 製紙用バルブ 七、四、四四 印刷料紙 三、三、三九 包裝及マツチ用紙 四九、三三 紙 二、八、六三	一月 王子製紙中部工場(靜岡縣磐田郡佐久間村)開業、専ら新聞用紙を抄造、抄紙機は米國製九十八吋長網二臺。 二月 大阪製紙、製紙所聯合會に加入。 三月 藤原銀次郎、久保順太郎、村田一郎、山田俊藏、鈴木良輔の五氏各社を代表連署して印刷局製紙工場を民業に移すの請願書を貴衆兩院に提出 五月 舊三田製紙所主林徳左衛門氏病歿、製紙所聯合會、日本製紙所組合と改稱、規約三十六條を定む。 六月 上海に新設の華章造紙公司(資本金四十五萬圓)の浦東工場建築に着手、大川平三郎に設計一切を委託。 七月 東肥製紙の工場全焼。 十月 日本製紙所組合假事務所を日本橋區坂本町三十番地に置く。 十一月 東肥製紙、日本製紙所組合に加入。 十二月 富士製紙、洋連史紙販路擴張の爲め一社員を支那及香港に派遣。	○自働車始めて我國に來る○郵便切手貯命制施行○四月、北清事變○海軍大演習○五月十日、皇太子御成婚○立憲政友會成立○私製ハガキを許す○ロシア滿洲を占領す
明治三三年	會社數一 運轉工場數一六 抄紙機二六 (二、二七六吋)	製造量 六、七、六、四 販賣量 六、九、九、四 販賣率 (一〇四・八)	輸入額(圓) 四四、三三 製紙用バルブ 四、五、三三 印刷料紙 二、〇、八、四 筆記用紙 二、五、三九 包裝及マツチ用紙 七、五、二〇	二月 日本製紙所組合報告第一號を發行。 四月 中井商店主三良兵衛氏の長男中井三之助氏、同店大阪支店長谷野彌吉氏、パリー博覽會並に歐米紙業視察のため出發。 五月 日本製紙所組合事務報告の發行を廢し本月より印刷雜誌に之を掲載 十月 新聞用紙共販問題に付き當業者は京橋區三十間堀平野にて協議す。 十二月 印刷局抄紙部第五號抄紙機(米國ブラック・クロソン社製作、百十吋長網)運轉開始(月不詳)北海道釧路に前田製紙合資會社(資本金十五萬圓)設立釧路工場の前身。	○四月、今上天皇陛下御降臨○伊庭想太郎、東京市會議員長屋亭を市會參事會室に刺す○愛國婦人會生る
明治三四年	會社數一 運轉工場數一六 抄紙機二六 (二、二七九吋)	製造量 八、九、七、五三 販賣量 八、三、〇、九 販賣率 九四・七	輸入額(圓) 二五、五九 製紙用バルブ 八、四、四三 印刷料紙 一、〇、五、一四 筆記用紙 一、〇、五、一四 包裝及マツチ用紙 三、二、二九 紙 三、〇、五九	三月 東肥製紙、火災後の修築竣り再び營業を開始。 四月 阿部製紙所、組織變更し阿部製紙合資會社と稱す、技術顧問に大川平三郎、小野寺正敬兩氏を支配人に二見昇、事務長に松本行政諸氏を任命 五月 富士製紙第二工場、増設の第三及第四抄紙機 百吋ハーパー式長網)の運轉を開始し主として支那輸出向の洋連史紙を抄造。 六月 合資會社神戸製紙所、高砂町の新工場落成し米國ホーン社製百十三吋長網抄紙機を運轉、同時に神戸三ノ宮工場を撤廢し七十八吋圓網及八十二吋長網を新工場に移轉、支配人植田豊橋、副支配人宮川百太郎技師長米人エム・ゼー・シェー、今の三菱製紙が高砂工場の前身。 七月 華章造紙公司營業を開始す、抄紙機は米國製薄紙用長網九十八吋二臺主として洋連史紙を抄造。 十一月 王子、富士、四日市三製紙會社の出資に係る共同洋紙合資會社(資本金十五萬圓)設立、三社製新聞用紙の一手販賣を目的とし業務擔當社員に岡田來吉氏を選任。	○陸軍分捕事件○教科書事件○日英同盟條約成立○第七回總選舉○澳白獨英和西支の七ヶ國と輸入税率改定○歩兵第五聯隊八甲田山に雪中行軍をなし多くの將卒雪に倒る○秩父宮殿下御降臨
明治三五年	會社數一 運轉工場數一六 抄紙機二六 (二、二七九吋)	製造量 一、三、九、九、四 販賣量 一、三、六、〇、七 販賣率 (八六・九)	輸入額(圓) 三三、〇、五、八 製紙用バルブ 三、三、〇、五、八 印刷料紙 一、四、〇、一、八 筆記用紙 一、四、〇、一、八	四月 王子製紙事務取締役藤山雷太氏辭職し、會社は東京市街鐵道會社の事業に移り取締役朝吹英二氏に就任す。 五月 富士製紙、前田製紙合資會社の紙料製造事業に参加、新たに北海紙料株式會社を組織す。 七月 鈴木梅四郎氏(三井銀行神戸支店長)王子製紙事務に就任、朝吹氏専務を辭す。 八月 日本製紙所組合、内閣總理、農商務、逓信三大臣へ印刷局抄紙業廢止の件を建議。 九月 支那關稅改訂議定の件、調印を了る、勅令第百十九號を以てバルブ及印刷料紙の輸入稅改正案頒布。	

明治三二年	會社數一 運轉工場數一六 抄紙機二六 (二、二七六吋)	製造量 三、四六、四九 販賣量 三、九四、八四 販賣率 (一〇〇・八)	輸入額(圓) 三六、三三 製紙用バルブ 七、四、四四 印刷料紙 三、三、三九 包裝及マツチ用紙 四九、三三 紙 二、八、六三	一月 王子製紙中部工場(靜岡縣磐田郡佐久間村)開業、専ら新聞用紙を抄造、抄紙機は米國製九十八吋長網二臺。 二月 大阪製紙、製紙所聯合會に加入。 三月 藤原銀次郎、久保順太郎、村田一郎、山田俊藏、鈴木良輔の五氏各社を代表連署して印刷局製紙工場を民業に移すの請願書を貴衆兩院に提出 五月 舊三田製紙所主林徳左衛門氏病歿、製紙所聯合會、日本製紙所組合と改稱、規約三十六條を定む。 六月 上海に新設の華章造紙公司(資本金四十五萬圓)の浦東工場建築に着手、大川平三郎に設計一切を委託。 七月 東肥製紙の工場全焼。 十月 日本製紙所組合假事務所を日本橋區坂本町三十番地に置く。 十一月 東肥製紙、日本製紙所組合に加入。 十二月 富士製紙、洋連史紙販路擴張の爲め一社員を支那及香港に派遣。	○自働車始めて我國に來る○郵便切手貯命制施行○四月、北清事變○海軍大演習○五月十日、皇太子御成婚○立憲政友會成立○私製ハガキを許す○ロシア滿洲を占領す
明治三三年	會社數一 運轉工場數一六 抄紙機二六 (二、二七六吋)	製造量 六、七、六、四 販賣量 六、九、九、四 販賣率 (一〇四・八)	輸入額(圓) 四四、三三 製紙用バルブ 四、五、三三 印刷料紙 二、〇、八、四 筆記用紙 二、五、三九 包裝及マツチ用紙 七、五、二〇	二月 日本製紙所組合報告第一號を發行。 四月 中井商店主三良兵衛氏の長男中井三之助氏、同店大阪支店長谷野彌吉氏、パリー博覽會並に歐米紙業視察のため出發。 五月 日本製紙所組合事務報告の發行を廢し本月より印刷雜誌に之を掲載 十月 新聞用紙共販問題に付き當業者は京橋區三十間堀平野にて協議す。 十二月 印刷局抄紙部第五號抄紙機(米國ブラック・クロソン社製作、百十吋長網)運轉開始(月不詳)北海道釧路に前田製紙合資會社(資本金十五萬圓)設立釧路工場の前身。	○四月、今上天皇陛下御降臨○伊庭想太郎、東京市會議員長屋亭を市會參事會室に刺す○愛國婦人會生る
明治三四年	會社數一 運轉工場數一六 抄紙機二六 (二、二七九吋)	製造量 八、九、七、五三 販賣量 八、三、〇、九 販賣率 九四・七	輸入額(圓) 二五、五九 製紙用バルブ 八、四、四三 印刷料紙 一、〇、五、一四 筆記用紙 一、〇、五、一四 包裝及マツチ用紙 三、二、二九 紙 三、〇、五九	三月 東肥製紙、火災後の修築竣り再び營業を開始。 四月 阿部製紙所、組織變更し阿部製紙合資會社と稱す、技術顧問に大川平三郎、小野寺正敬兩氏を支配人に二見昇、事務長に松本行政諸氏を任命 五月 富士製紙第二工場、増設の第三及第四抄紙機 百吋ハーパー式長網)の運轉を開始し主として支那輸出向の洋連史紙を抄造。 六月 合資會社神戸製紙所、高砂町の新工場落成し米國ホーン社製百十三吋長網抄紙機を運轉、同時に神戸三ノ宮工場を撤廢し七十八吋圓網及八十二吋長網を新工場に移轉、支配人植田豊橋、副支配人宮川百太郎技師長米人エム・ゼー・シェー、今の三菱製紙が高砂工場の前身。 七月 華章造紙公司營業を開始す、抄紙機は米國製薄紙用長網九十八吋二臺主として洋連史紙を抄造。 十一月 王子、富士、四日市三製紙會社の出資に係る共同洋紙合資會社(資本金十五萬圓)設立、三社製新聞用紙の一手販賣を目的とし業務擔當社員に岡田來吉氏を選任。	○陸軍分捕事件○教科書事件○日英同盟條約成立○第七回總選舉○澳白獨英和西支の七ヶ國と輸入税率改定○歩兵第五聯隊八甲田山に雪中行軍をなし多くの將卒雪に倒る○秩父宮殿下御降臨
明治三五年	會社數一 運轉工場數一六 抄紙機二六 (二、二七九吋)	製造量 一、三、九、九、四 販賣量 一、三、六、〇、七 販賣率 (八六・九)	輸入額(圓) 三三、〇、五、八 製紙用バルブ 三、三、〇、五、八 印刷料紙 一、四、〇、一、八 筆記用紙 一、四、〇、一、八	四月 王子製紙事務取締役藤山雷太氏辭職し、會社は東京市街鐵道會社の事業に移り取締役朝吹英二氏に就任す。 五月 富士製紙、前田製紙合資會社の紙料製造事業に参加、新たに北海紙料株式會社を組織す。 七月 鈴木梅四郎氏(三井銀行神戸支店長)王子製紙事務に就任、朝吹氏専務を辭す。 八月 日本製紙所組合、内閣總理、農商務、逓信三大臣へ印刷局抄紙業廢止の件を建議。 九月 支那關稅改訂議定の件、調印を了る、勅令第百十九號を以てバルブ及印刷料紙の輸入稅改正案頒布。	

明治三六年	會社數一二 運轉工場數一六 抄紙機三四 (二、九九九吋)	製造量 三三、五、〇六六 販賣量 二一、四、五、五九六 販賣率 (一、一五・三) 輸入額(圓) 六、七、三、三三 印刷料紙 九、九、七、五	七月 熊本の東肥製紙の負債四十一萬圓を引受け九州製紙株式會社成立、取締役(社長)に大川平三郎氏、田中榮八郎氏、大谷、玉城、山内、城野、監査役長谷川、住江志垣▼王子製紙、整理の爲め資本金を四分の一に減じ五十萬圓となしたるも直ちに百五十萬圓を増資して二百萬圓となす▼印刷局抄紙部において文部省國定教科書用紙の見本を抄造。 九月 九州製紙、日本製紙所組合に加入。	ロシアの滿洲撤兵宣言 ○良子女王(皇后陛下) 御降臨○小學令を改定して國定教科書制度を布く○第八回總選舉○標章製造官營計畫を發表○學生服村操、華嚴瀧に授け○パナマ運河起工
明治三七年	會社數一二 運轉工場數一六 抄紙機三五 (三、一〇四吋)	製造量 三六、二、六、〇九 販賣量 二四、七、〇、二五 販賣率 一、一五・五 輸入額(圓) 八、五、五、五九 印刷料紙 九、五、九、九六 筆記用紙 一、五、八、〇〇	一月 東京板紙第一工場出火。 五月 日本製紙所組合、總理大臣其他へ煙草用紙に關する陳情書を提出。 六月 神戸製紙所、名稱を合資會社三菱製紙所と改む、當時の出資者は岩崎、寺四、瓜生、莊の諸氏。 八月 千壽製紙、支拂停止の悲境に陥りたる結果中井、中溝、蜂須賀の三氏を整理委員に選ぶ。 九月 阿部製紙合資會社解散し新設の日本製紙株式會社(資本金五十萬圓)其事業を繼承す、社長阿部市郎兵衛氏隠退し阿部市太郎、同彦太郎、同秀次郎の三氏取締役に宮川彦兵衛、阿部市藏兩氏監査役に就任す。 十月 三菱製紙所高砂工場の第四號(後年の第二號)抄紙機幅百五吋長網運轉を開始。	明治三十七、八年職役 ○日露協約成る○運送船常陸丸對馬海峽に沈没す○第九回總選舉○標章專賣法公布○三越デパートを始む○旅順攻撃、二〇三高地占領
明治三八年	會社數一二 運轉工場數一六 抄紙機三五 (三、一〇四吋)	製造量 三三、四、三、八四 販賣量 二二、四、四、九六	四月 王子製紙、陸軍火藥製造所より排出せる硫酸の爲めに製紙機械に及ぼしたる損害賠償を陸軍大臣に上申。 五月 上海近郊龍華に於る奏辦龍章造紙公司(資本金六十萬兩)昨年来王子運轉を開始。	ポーツマス條約締結○日英同盟の擴張○陸軍に統監府を置く○日本海海戦○東京焼打事件

(一四)

明治三九年	會社數一二 運轉工場數一七 抄紙機三九 (三、四六二吋)	製造量 三三、四、三、八四 販賣量 三三、四、三、三二 販賣率 九、九・二 輸入額(圓) 一、七、四、〇〇 印刷料紙 二、二、七、〇、五三 筆記用紙 四、七、八、六六 圖書用紙 一、五、一、六 包装及マツチ用紙 六、八、九、六 煙草用紙 三、三、九、六 唐紙 三、九、一、〇一	三月 本年は日清戦役後の會社勃興期に際し我業界も亦多忙期に入りぬ▼改正關稅定率法公布、印刷料紙の輸入税は一リム四十五封度未満のもの毎百斤に付一圓、同以上のもの一圓九十五錢となる▼利根製紙株式會社(資本金五十萬圓)成立、本會社は船水武五郎氏の發企及設計に屬し高田、淺野、會根、松尾等の諸氏事實上の株主となり工場を群馬縣利根郡水上村大穴に經營、包装用紙の製造を始む。 四月 印刷局抄紙部長佐伯勝太郎氏、歐米製紙業視察を命ぜらる▼富士製紙工場の改造並北海道に工場設置の件を決議し資本金を四百六十萬圓に變更▼日本製紙所組合京都圓山ホテルに於て春季總會を開き名稱を日本製紙聯合會と改稱幹事に王子、富士、九州の三製紙會社を選挙す 五月 磯野製紙場、組織變更して梅津製紙株式會社(資本金三十萬圓)と稱し社長に磯野直吉氏就任す、尋で内國製紙長綱幅九十吋機一臺を増設。 六月 東洋製紙株式會社(資本金三十五萬圓)創立す、取締役(會長)井上保次郎、(専務)中村久兵衛、宗像祐太郎、監査役山田寅次郎、榊原正修工場敷地大阪府西成郡豊崎村北長柄、製品巻煙草用紙▼藤防抄紙株式會社(資本金五十萬圓)創立す、工場山口縣玖珂郡和木村、製品和紙 七月 富士製紙、北海紙料株式會社を買収、第四工場と命名▼宮内省、内藏頭の名義にて富士製紙の株式二千五百株買収、帝室御財産に加ふ。	振替貯金開始○鐵道國有公布○三十七、八年職役陸軍軍服式舉行○關稅定率法改正○南滿洲鐵道株式會社設立○年賀郵便取扱始まる
-------	---------------------------------------	---	--	---

(一五)

模造日本紙 及チツシュ 一、九三三六	模造羊皮紙 一、四、九三三	其他の紙 三、四、三六一	板紙 三、四、四九九
--------------------------	------------------	-----------------	---------------

八月 富士製紙、北海道江別工場の建設に着手。

九月 日本製紙聯合會「紙業雜誌」を創刊

十月 下郷製紙所、組織變更、中之島製紙株式會社と稱す、資本金三十萬圓取締役(社長)下郷傳平、(專務)下郷寅太郎、藤井善助、山中喜七郎、監査役阿部房次郎、北川喜平、支配人馬場金太郎、中央製紙株式會社創立す、資本金五十萬圓、取締役(會長)澁澤篤二、(專務)大川平三郎、菅井鯉、小西安兵衛、加藤彦兵衛、森本善七、監査役田中榮八郎、中井三之助、間鷺郎、工場岐阜縣中津町、王子製紙資本金四百萬圓増加し新資本金六百萬圓とす

十二月 富士製紙專務取締役川瀬秀治氏辭任、淺野家經營の有恒社、市區改正に因り工場を閉鎖せるを以て、岡田、久保の兩氏、機械を譲受け新たに株式會社有恒社(資本金二十萬圓)を組織、工場を南葛飾郡龜戸町高貝洲に置く、取締役久保順太郎、岡田來吉、市原求、監査役吉村鐵之助、前田兼七、富士製紙、臨時株主總會開催、新工場の擴張及新設、日本製紙會社との合併、並に資本金一千萬圓に變更の件決議す。

▼四日市製紙、第二號抄紙機米國ベロイト社製八十四吋長網の運轉を開始。

明治
四〇年

製造量 一、四、六、七、四〇〇	販賣量 一、四、八、九、六、五	販賣率 九九・七	輸入額(圓) 一、六、九、七、七〇	印刷料紙 三、四、七、二二	筆記用紙 三、三、〇、一一	圖書用紙 三、三、〇、一一	包裝及燐寸用紙 三、三、〇、一一	煙草用紙 二、七、〇、三三	唐紙 三、〇、二、七	模造日本紙 及チツシュ 一、〇、八、五、九、三三	模造羊皮紙 三、〇、〇、六八	其他の紙 四、三、四、七六
--------------------	--------------------	-------------	----------------------	------------------	------------------	------------------	---------------------	------------------	---------------	--------------------------------	-------------------	------------------

會社數 一一一
運轉工場數 七一
抄紙機 四〇
(三、五六一吋)

一月 千壽製紙重役間の暗闘、同社取締役稻井永敏、山田俊藏、田村英二の三氏辭任、三原經國、秋山賢三郎、濱田辨治郎の三氏就任す、四日市製紙、芝川の電力事業新設の爲め現在資本金七十萬圓を二百五十萬圓に變更の件決議す、但し實行に至らず。

二月 杉山喬、岩原謙三の兩氏、王子製紙取締役に就任、東京板紙、現在資本金五十萬圓を一百五十萬圓に變更、岡山製紙會社創立す、資本金五十萬圓、板紙工場を岡山市七日市船入に建築、同時に廣島にある伊藤製紙所買収に決す、富士製紙、日本製紙を合併し資本金一千萬圓に變更、得能通昌氏印刷局長を辭し山中政亮氏後任を命ぜらる。

三月 印刷局抄紙部分工場新設の爲め王子村下十條に敷地一萬一千二百二十九坪を購入、三ヶ年繼續事業として着工す(之後年の王子十條工場)王子製紙の新舊株式、東京株式取引所の延取引に附せらる。

四月 九州製紙、資本金十八萬圓を一躍百萬圓に變更す。

五月 長岡市に北越製紙株式會社創立す、資本金七十五萬圓、稻葉を原料として板紙製造を目的とす、取締役(專務)田村文四郎、(常務)覺張治平、大橋新太郎外四名、監査役山本留次外二名

六月 富士製紙、新海榮太郎、色川誠一、山岡清直、島甲子二の四氏を常務取締役に、阿部房次郎氏を監査役に選ぶ、在大阪市の東洋製紙、資本金七十萬圓に増資す。ライスベーパーの需要愈々増加。

七月 中華民國の龍章造紙公司、米國ベロイト社製薄葉紙用百吋長網機二臺運轉を開始す、靜岡縣富士郡地方出水あり富士、四日市兩製紙會社工場若干の損害を蒙る。

八月 東京洋紙商同業組合解散し、新規に東京紙商同業組合を組織、會長

明治 四一年	會社數 一一 運轉工場數 一八 抄紙機 四八 (四三三時)	製造量 一、四〇、三三九 販賣量 一、三〇、九三三 販賣率 九八 輸入量(圓) 一、八、四八四 印刷料紙 二、四九、六五五	紙 一〇、九三	<p>に引續き岡田來吉氏を選ぶ▼利根製紙會社、營業開始す。抄紙機は獨逸製幅七十九吋長網、製品は褐色包装用紙▼隅田川其他枝川汎濫し東京板紙、王子製紙、印刷局抄紙部の各工場、一時運轉を休止す。</p> <p>九月 九州製紙の第三抄紙機内地製九十八吋長網ヤンキー、運轉開始す。</p> <p>十月 東京板紙常務取締役小野寺正敬氏病歿す。板紙界の偉大な功勞者。</p> <p>十一月 四日市製紙、本年一月決議の増資額を變更、七十五萬圓増資して百五十萬圓となす▼印刷局抄紙部、第三號機(圓網)をブセイ、ジョンヌ社製長網式に改造、第二號機と共に他室に移す。</p> <p>十二月 印刷局長山中政亮氏病歿、神野勝之助氏同局長に任ぜらる▼東海紙料株式會社創立す。資本金百萬圓、大倉喜八郎氏と富士製紙との共同事業にして大井川上流の大倉家所有林より紙料材を搬出、工場を島田驛に設け碎木パルプの製造を行ふ。</p>	<p>新刑法發布○關稅定率法改正○第十回總選舉○戌申詔書下る○アメリカ合衆國と外交文書交換○指紋法實施</p>
二月	臺灣に於て竹材パルプ會社設立の計畫興る。				
四月	東洋製紙淀川工場開業す、製品は卷煙草用紙、抄紙機は瑞典エツンヤイ・ウイス社製七十三吋長網。現王子製紙淀川工場のこと▼大阪製紙、資本金十五萬圓を増加、六十一萬圓に變更の件決議す。但し實行に至らず▼富士製紙加島工場(東海道富士驛)開業す、抄紙機はブラツク・クロイソン社製圓網式板紙用一臺。現在の王子製紙富士第三工場▼四日市製紙、奈良縣吉野郡上北山村の共有大藁ヶ原山の森林八千町を買収す。				
五月	大阪製紙工場据附けのブラツク・クロイソン社製八十八吋長網ヤンキー運轉を開始▼利根製紙、開業後成績不良の爲め重役一同引責辭任				

筆記用紙 一、九、四九五 圖書用紙 三、七九 包裝及燐寸用紙 三、九、八八六 煙草用紙 一、三、二六二 唐紙 四、九五 模造日本紙 及チツシュ 八、六、三三三 模造羊皮紙 三、四〇三 其他の紙 四、八、三九二 紙 一、五、七五七	<p>の結果、臨時總會にて取締役に須藤嘉吉、船水武五郎兩氏再選、近藤千吉氏新選、監査役に高田慎蔵、曾根寛治氏再選す▼山陽板紙株式會社(岡山縣西大寺町)開業す、抄紙機は三十八吋圓網▼中央製紙中津工場營業開始す、抄紙機は幅九十吋チツシュ長網、ハーパー式長網、外に亞硫酸パルプの設備あり。後樺太工業に合併し、今は王子製紙中津工場と稱す▼王子製紙、社長鈴木梅五郎氏の時き新聞紙製造の目的にて北海道苫小牧工場、建築工事に着手。</p> <p>七月 王子製紙の臨時總會に於いて前山久吉氏、常務取締役に新任、朝吹英二氏取締役會長に就任▼富士製紙第二工場(大宮)、第一號機百吋ハーパー式長網を江別工場に移轉後、其跡に八十六吋通常長網を据附け運轉開始す。</p> <p>八月 富士製紙の釧路に於ける天寧工場休止す。</p> <p>九月 富士製紙北海道金山の碎木パルプ工場竣工。後三社合併前に閉鎖す▼富士製紙、在横濱英國チャータード銀行より百五十萬圓を借入る▼九州製紙の第四號機内地製九十八吋長網運轉を開始▼暫く休業中なりし株式會社有恒社龜戸工場、操業再開、抄紙機はソ聯アンフアースト社製作の六十吋長網抄紙機。</p> <p>十月 富士製紙社長村田一郎氏取締役を辭し小野金六氏に代る▼三菱製紙所技師藤野鶴造氏米獨に遊學すること二年にして歸朝す▼大谷登喜雄氏、北濱銀行を代表して梅津製紙常務取締役に就任す▼北越製紙長岡工場開業す、抄紙機はブラツク・クロイソン社製八十四吋圓網、板紙抄造▼岡山製紙、稻葉板紙の製造を開始す、抄紙機はブラツク・クロイソン社製圓網九十二吋▼木會興業株式會社創立す、資本金六十萬</p>
--	--

明治 四二年	會社數 一二	製造量 一七、四四、六六 販賣量 一六、九一、六九 販賣率 九八・六	運輸工場數 一九 抄紙機 四九 (四、三三吋)	輸入額(圓) 製紙用パルプ 一、五〇、五 印刷料紙 二、六九、六二 筆記用紙 四、五三三	製造量 一七、四四、六六 販賣量 一六、九一、六九 販賣率 九八・六	運輸工場數 一九 抄紙機 四九 (四、三三吋)	輸入額(圓) 製紙用パルプ 一、五〇、五 印刷料紙 二、六九、六二 筆記用紙 四、五三三	一月 新潟縣下の北越製紙の長岡板紙工場焼失、翌月復舊せり。 二月 富士製紙入山瀬第一工場の板紙機を加島工場に移し、其跡へ八十六時ハーバー式抄紙機を据え運輸開始す▼千住町中組の下野製紙(淺草紙製造)工場全焼。 三月 印刷局抄紙部十條分工場、建設工事に着手す。 四月 中央製紙(中津川工場)第三號抄紙機(英國ベントレイ・ヂヤクソン社製百吋長網ヤンキー)の運輸を開始。 五月 利根製紙の解散終了、同社工場財産は高田商會の所有に移る▼蜂須賀侯落札にかかる九州の千壽製紙工場を小倉製紙所と改稱す。所主萩弘、事務統理露木龜太郎、主事山田伊三郎、技師長西郷正義の諸氏。 六月 大阪製紙、整理の爲め現在資本金四十六萬圓を二十萬圓に変更▼三菱製紙所、林内庄に三菱建築場を置き工場の建築に着手▼河東田經濟	伊藤公訪露の途中、ハルビンにて安重招のため暗殺さる○陸軍大演習○自由劇場起り新劇運動始る○東京市内に高架鐵道始めて出来る
-----------	-----------	---	-------------------------------------	--	---	-------------------------------------	--	---	--

明治 四三年	會社數 一一	製造量 一七、九一、二三 販賣量 一七、六〇、八〇 販賣率 一〇一・六	運輸工場數 二〇 抄紙機 五四 (四、六吋)	輸入量(圓) 製紙用パルプ 三、一六、四三 印刷料紙 三、四六、八五 筆記用紙 三、六、四三 圖書用紙 二、二、四三 包装及燐寸用紙 四、五、八五	製造量 一七、九一、二三 販賣量 一七、六〇、八〇 販賣率 一〇一・六	運輸工場數 二〇 抄紙機 五四 (四、六吋)	輸入量(圓) 製紙用パルプ 三、一六、四三 印刷料紙 三、四六、八五 筆記用紙 三、六、四三 圖書用紙 二、二、四三 包装及燐寸用紙 四、五、八五	一月 高知縣伊野町の土佐紙合資會社、資本金七十萬圓の株式會社に組織變更▼大阪製紙所社長野田吉兵衛氏病歿。 二月 富士製紙常務取締役河東田經濟氏、専務に就任。 三月 樺太敷香地方幌内川沿岸の凍苔地帯に堆積するツンドラを製紙原料に利用せんと計畫あり。 四月 博進社々長山本留次氏、歐米視察旅行の途に就く。 五月 印刷局抄紙部十條分工場竣工、操業を開始す、今の王子製紙十條工場)抄紙機は英國ゼームス・パートラム社製幅十六吋長網、製品は郵便はがき用紙▼大阪製紙所解散を決議、之が營業を繼續して野田製紙所設立す▼大阪の東洋製紙取締役社長井上保次郎氏病歿。 六月 九州製紙、中央製紙社長大川平三郎氏渡米の途につく▼工試技師丸澤常哉、同技手森嘉吉兩氏、亞硫酸法稻藁紙料製造試驗報告を發表▼静岡縣下の東海紙料會社新工場落成、碎木パルプの製造を始む▼三菱製紙所高砂工場に新設の第五號機(後の第四號)米國製ハーバー式八十	日露新協約成立○韓國併合○改正關稅定率法公布○日本博覽會○第六號潜水艇沈没し佐久間艦長以下全員殉職す○帝國在郷軍人發會式を東京九段階行社に舉行す。
-----------	-----------	--	------------------------------------	---	--	------------------------------------	---	---	---

<p>明治 四四年</p> <p>會社數 一一</p> <p>運轉工場數 二〇</p> <p>抄紙機 五五 (五、〇八吋)</p>	<p>板紙 二九、六〇</p>	<p>製造量 三六、三三、二四</p> <p>販賣量 三五、四一、三五</p> <p>販賣率 九八・八</p> <p>輸入額(圓) 製紙用バルブ 二、七五、五八</p> <p>印刷料紙 二、三三、七五</p> <p>筆記用紙 三六、七五</p> <p>圖書用紙 三六、七五</p> <p>包裝及燐寸用紙 三六、七五</p>	<p>八月 北海道に於ける富士製紙江別工場にて、モンド瓦斯機關による碎木バルブ製造を開始。</p> <p>九月 王子製紙小牧工場營業を開始す、抄紙機は米國バグレイ社製百四十二吋長網二臺同百吋二臺、製品は主として新聞用紙、外に偉大なる碎木及亞硫酸バルブの設備あり。</p> <p>十月 東京地方豪雨に襲はれ十條の印刷局抄紙部、王子製紙王子工場、千住の東京板紙、鶴戸の有恒社の四工場浸水して一時休轉す。</p>
		<p>一月 富士製紙江別工場の亞硫酸バルブ蒸餾破製す。</p> <p>四月 靜岡縣下の王子製紙中部工場、技師長秋山信護氏、天龍川にて乗舟轉覆し溺死、工場現在廢止。</p> <p>五月 王子製紙小牧工場の開業式舉行に代へ札幌、室蘭にて關係官民を招待す。</p> <p>六月 三菱製紙所の臺灣に於ける林内庄に於ける竹バルブ工場開業し三菱臺灣製紙所と稱す。高砂工場の第二號機七八吋圓網を移設し亞硫酸バルブの抄造に充つ。</p> <p>七月 共同洋紙合資會社業務擔當社員岡田來吉氏辭職し、津田興二氏之に代る。</p> <p>九月 臺灣全島を襲ひし大暴風雨の爲め林内庄の三菱バルブ工場多大の損害を蒙る。株式會社共同板紙販賣所成立す、資本金十五萬圓、本店を東京、支店を大阪に置き富士製紙、東京板紙、北越製紙、西成製紙、岡山製紙、美作製紙七會社の共同販賣機關として舊日本洋紙合資會社</p>	<p>貧民救濟の資金を下賜 ○恩賜財團濟生會の成立 ○所澤に始めて陸軍飛行場設置さる○日英同盟の改訂、對英、米、獨、諸、瑞典、瑞西通商航海條約公布○帝國劇場開設○日本婦人の開放、女權の擴張を叫ぶ青年社なるもの起る</p>

<p>明治 四五年 (大正元年)</p> <p>會社數 一一</p> <p>運轉工場數 二〇</p> <p>抄紙機 五六 (五、一七吋)</p>	<p>煙草用紙 二〇、二</p> <p>唐紙 五、一七</p> <p>模造日本紙及チツシユ 一、三六、六六</p>	<p>製造量 二五、三三、三三</p> <p>販賣量 二五、〇三、八五</p> <p>販賣率 一〇一・四</p> <p>輸入額(圓) 製紙用バルブ 四、三九、八六</p> <p>印刷料紙 二、九六、六三</p> <p>筆記用紙 四、五、二四</p> <p>圖書用紙 一四、七、〇</p>	<p>日佛、日丁通商航海條約公布○第十一回總選舉○追濱に始めて海軍飛行場設置さる○明治天皇崩御○乃木大将殉死○大正天皇踐祚○自動車タクシー始まる○ゴルフの渡米○ジゴマ(フランスの名産)の流行</p>
		<p>の營業をそのまゝ繼承す。</p> <p>十月 王子製紙取締役朝吹、高橋、松山、郷、鈴木、前山、鹿島、岩原の八氏辭職し、後任には(會長)三井得右衛門、(專務)藤原銀次郎、大橋新太郎、鹿島岩吉、飯田義一、小野友次郎の六氏選ばる。士佐紙工業會社、築地加藤工場製幅四十八吋特殊長網機を運轉、和紙の抄造を試む。王子製紙小牧工場の木材バルブ蒸餾室より發火し屋根及第三、四階の木材部分を燒失して鎮火す。富士製紙江別工場に於けるモンド瓦斯發生機より生ずるコールドターを原料とし硫酸アンモニアを採取精製する機械設備成る。</p> <p>一月 木會興業、中央線信州の、須原驛附近に於て工場敷地を買收、下旬より土工に着手。岡山製紙廣島分工場、板紙より和紙の製造に轉ず。</p> <p>二月 大阪菱三商會開店す、三菱製紙所、多年關西一手販賣を托せる大森治郎兵衛氏との契約を解除し副支配人會根増吉氏をして本商會を經營せしめ合資會社に組織變更す。王子製紙取締役鹿島岩吉氏病歿。大阪紙商同業組合設立。靜岡縣にて全國製紙共進會開かれ總裁平田東助子主宰のもとに褒賞授與式を舉ぐ。臺灣林内庄の三菱製紙所復舊したれば、莊、岩崎氏等渡臺して開業式を舉ぐ。大阪の製紙原料商小林庄次郎氏が上海にて大清銀行より購入せる新抄紙機(英國ゼームス・バートラム社製九十七吋長網)大阪に到着す。田村志一氏等の設立に係る東京市日本橋本町一丁目の日本紙器製造所、紙製品の發賣を開始。現日本紙業株式會社の前身。共同洋紙合資會社業務擔當社員津田氏退任し岡田氏再び無限責任の代表社員となる。</p>	

<p>唐紙 四、三三三 模造日本紙 及チツシュ 一、二五八、二四 模造羊皮紙 一八、五〇二 其他の紙 四三、四三三 板紙 四三、三三六</p>	<p>五月 高島菊次郎氏、王子製紙主事に任ぜらる。▼下院議員選舉に王子製紙前専務鈴木梅四郎氏は東京より、富士製紙倉庫課長兒玉亮太郎氏は和歌山縣郡部より出馬、共に衆議院議員に當選す。</p> <p>六月 樺太ツンドラ板紙株式會社創立す、資本金二十萬圓、取締役(社長)杉山義雄(専務)入江鷹之助、北山一郎、千原胤義、橋本梅太郎、支配人杉山慶之丞の諸氏。</p> <p>七月 富士製紙社長小野金六氏六月の定時株主總會の席上取締役及監査役の總辭職を發表したれば廿日臨時總會を開き改選の結果、取締役に(社長)原六郎、(専務)原口要(常務)山岡清直、菊地長四郎、阿部房次郎、森村市左衛門、山中隣之助、町田徳之助の八氏、監査役に菊地晋二、衣笠光遠、楊井清八の三氏當選せり。▼蜂須賀侯爵家の九州の小倉製紙所、株式組織となし資本金を百萬圓と改む、取締役(社長)萩原弘(常務)露木龜太郎、萩原三、大倉文二、杉浦甲子郎、監査役小田重次郎、川崎榮助の諸氏。▼日本バルブ株式會社創立、資本金五十萬圓、靜岡縣の千頭山御料林より毎年約四萬尺の針葉樹の拂下げをうけ寸又川の水力を利用し碎木バルブの製造をなすを主目的とす、取締役河瀬秀治、横河規一、松永正名、渡邊登三郎、武田巖藏の諸氏。▼香川縣產甘蔗糖搾糖の製紙用バルブ試驗成績を靜岡縣工業試驗場より發表。</p> <p>八月 東京板紙増設機ブラック・クロソン社製幅七十四吋運轉開始。▼王子製紙中部工場より王子工場へ移設の米國製幅九十八吋長網運轉開始。</p> <p>十月 東京板紙第一工場機關室より發火、同抄紙室の木材並に倉庫を焼く。▼三菱製紙所植田支配人三菱合資會社本店に轉じ田原豊氏新に支配人に就任。</p>
---	---

<p>大正二年 會社數 一二 運轉工場數 二〇 抄紙機 五七 (五、二六吋)</p>	<p>製造量 二五、八五、八三 販賣量 二五、八五、八三 販賣率 九九・九</p> <p>輸入(額圓) 製紙用バルブ 四、六〇、四七 印刷料紙 三、五五、二五 圖書用紙 四七、二九 吸取紙 二九、二六 濾紙 一〇、三六</p> <p>一月 富士製紙北海道釧路天草の亞硫酸バルブ工場の機械室より發火、工場及倉庫全焼す。</p> <p>三月 大阪市に於て帝國製紙株式會社創立す、資本金八十萬圓、取締役(社長)金澤仁作、榊原正彦、平野復男、磯野良吉、猪飼史郎、監査役井上周、和田保太郎、工場地北區善源寺町。今の王子製紙都島工場の前身。▼小山十一郎氏福岡縣工業技師に任ぜらる。▼妹尾製紙所(大阪府西成郡豐崎本庄)稍葉板紙の抄造を開始す。▼獨逸シレシア洲ワルムブルンのフュルネル鐵工會社長フュルネル氏來朝し數ヶ月に亘り全國の大製紙工場を訪問。</p> <p>五月 前印刷局長得能通昌氏病歿。</p> <p>六月 三井合資會社、樺太大泊に於て亞硫酸バルブ工場の建設に着手、王子製紙技師長高田直屹氏本工事を督す。樺太材のバルブ製造の始なり。▼愛媛縣人寺屋政篤氏等朝鮮洛東江の蘆を以てバルブを製造すべく龜浦に朝鮮紙料製造所を設く。▼田島志一氏の日本紙器製造所を資本金五</p>
--	--

大正の政變○東京市電
機打事件○支那共和國
起る○翻譯劇流行す

包裝及燐寸用紙 八〇、四元 煙草用紙 八九三 唐紙 六七、四六 模造日本紙 七六、五五 及チツシュ 二〇九、八九二 模造羊皮紙 四〇、四四 其他の紙 三三、六九 板紙 三三、六九	<p>十萬圓の日本紙器製造株式會社となす、創立委員長星野錫氏、社長に田島氏専務取締役に就任す▼富士製紙取締役森村市左衛門氏辭任の補欠選舉より同社技師廣瀬好之助氏選ばれる。</p> <p>七月 東海紙料會社資本金百萬圓中八萬圓を減す▼九州製紙松求麻工場、碎木バルブ機二臺を設置す▼王子製紙、正金、三井銀行の仲介にて英國某銀行より低利資金二百萬圓を借入る▼宇摩製紙株式會社(愛媛縣宇摩郡川之江町)創立す、資本金八萬圓、社長藤田唯二郎、機械渡和紙瑞典製幅四十吋長網抄紙機設置▼博田製紙株式會社工場(福岡市外西堅糟村)稻藁板紙の抄造を開始す。</p> <p>八月 三菱製紙所高砂工場にて初めて圓網抄紙機(加藤製六十五吋)を運轉模造和紙を抄造▼和歌山縣東牟婁郡新宮町に於ける熊野製紙合資會社(大阪の森井惣兵衛氏兄弟經營)の工場竣工し洋紙の製造を開始す▼四日市、九州、中央、木曾興業等の共同事業として計畫中なる樺太林産株式會社(資本金百二十萬圓)第一着手事業として泊居に亞硫酸バルブ工場を計畫す▼岡山製紙板紙工場蒸餾より發火、建物を焼く。</p> <p>九月 富士製紙北海道の江別工場第三號抄紙室屋根裏より發火、第一第二抄紙室及ビーター室の燃質物を焼く▼王子町の合資會社豐王製紙所、舊利根製紙の抄紙機(獨逸ゴルツェルン・グリム社製幅七十八吋)及附屬機械類を高田商會より購入す▼共同板紙販賣所、規約の勵行、價格の値下斷行に決す、但し十一月に至り一切の制限を廢し、自由競争に委せらる。</p> <p>十月 兵庫縣加古郡の有志者により計畫されたる資本金二十萬圓の加古製紙株式會社創立す▼鹿田唯二郎、寺尾政篤兩氏の合資事業たる蘆バル</p>
--	--

大正三年 會社數 一一二 運轉工場數 二〇 抄紙機 六二 (五、七、五、五吋)	製造量 三七、六四、四 販賣量 三八、四七、九、八 販賣率 九七 輸入額(圓) 四、五七、三三 製紙用バルブ	<p>十一月 高崎市の井上得三郎氏等、稻藁板紙事業を計畫す(高崎板紙の前身)▼加古川製紙(社長多木元三郎)別府製紙所の買収並に加古川町に本工場建設の件決議す▼舊永進社の板紙機械を引受けたる大阪板紙株式會社(資本金十萬圓)工場敷地を西成郡神島村に定む▼從來手漉和紙を專業とせる福井市の西野製紙所、當春來第二工場を設け本月より加藤工場製圓網ヤンキー五十吋機にて洋紙の製造を開始す。</p> <p>十二月 樺太工業株式會社(樺太林産會社の改稱)創立樺太泊居に本社を置き同島材利用の目的、資本金二百萬圓、取締役(社長)大川平三郎(専務)田中榮八郎、小西安兵衛、重盛信近、阿部房次郎、岡崎久二郎、下郷寅太郎、監査役北川與平、伊藤長次郎、井上靜雄、熊澤一衛、長谷川太郎吉▼製紙界にて相當名ある眞島襄一郎氏逝去▼富士製紙前取締役新海榮太郎氏一派、新株の拂込減額に關して機を飛ばし且つ臨時株主總會の招集を要求したるも徒勞に終る。</p> <p>一月 小池國三氏、樺太に於てバルブ事業を起す眞の計畫を發表す▼支那漢口の製紙局、事業を再會することとなり手漉設備を我國より購入するに決す。</p> <p>二月 高崎板紙創立す、資本金八萬圓、社長井上保三郎、常務取締役荒木仙十郎、青木勘之助、小島彌一郎▼英國エディンバラ市ゼームス・パーラム父子會社重役技師ジョン・ホワイト氏來朝、全國諸大製紙工場を訪問す▼上野公園に開かれし大正博覽會に加藤工場の製作に係る幅十八吋半のヤンキー式抄紙機出陳さる▼京橋區新着町に大川田中事務</p>	鹿兒島縣櫻島爆發噴火 〇東京停車場竣工 〇昭憲皇太后崩御 〇關稅定率法改正櫻島大爆發 〇歐洲大戰始まる 〇青島陥落 〇ドイツ領南洋諸島占領
---	--	--	---

印刷料紙 二、五、九、壹	筆記用紙 三、九、九、九	圖書用紙 二、四、六、〇	吸取紙 一、八、五、六	濾紙 三、四、〇	包裝及燐寸用紙 六、三、六、三	唐紙 五、五、二	模造日本紙 及チツシユ 七、八、〇、七	模造羊皮紙 一、八、〇、六	板紙 三、七、三、三	其他の紙 一、四、九、六、四
所を設け九州製紙、中央製紙、木曾興業、樺太工業諸會社の出張所に充つ▼大邱製紙會社工場(朝鮮慶尙北道大邱驛)全焼す。	三月 名古屋板紙製造株式會社新川工場落成し營業を開始す現に中井己治郎氏社長の新川製紙所	五月 樺太工業、泊居工場の建築に着手、新井要之助氏監督に任ず▼關西の稻藪板紙業八會社、市價の低落に鑑み休業減産を協定す▼輸入せる、化學的、バルブにて抄造せる紙類を輸出したる場合、バルブ百斤に付、二十七錢の割戻税を受くる旨の勅令公布さる。	六月 印刷局長神野勝之助氏、大藏省理財局長に轉じ仙一誠氏印刷局長に任ぜらる▼千住町中組の下野製紙分工場機關室より發火、全焼す▼九州の小倉製紙所資本金を増加して百五十萬圓となす。	七月 王子製紙第八十一回定時株主總會に於て現在資本金六百萬圓を一千二百萬圓に増加の件決議す。	八月 山口縣玖珂郡の藝防抄紙所、土佐紙株式會社に併合さる▼北越板紙株式會社創立す、資本金廿五萬圓、専務取締役に田村文四郎氏、常務取締役に覺張治平氏▼東海道及東京附近に暴風雨の襲來あり、王子町の印刷局抄紙部、下十條分工場、千住町の東京板紙工場浸水し兩三日間操業を休止す。	九月 北海道の王子製紙苫小牧工場に増設の米國バグレイ社製百四十二吋高速力長網抄紙機第五號運轉を開始す▼宮城縣相馬郡中村町の相馬抄紙株式會社(資本金八萬圓)明治四十三年創立、社長山田茂三郎氏三萬六千圓を増資し林常助氏を技師に聘用す。	十月 高崎板紙工場落成、營業を開始す▼木曾興業支配人鈴木實氏取締役に			

大正四年	會社數 一二	運轉工場數 二〇	抄紙機 六五	(五、八、六、九吋)	製造量 三、七、五、八、七	販賣量 三、八、五、〇、五、六	販賣率 一〇二・九	輸入額(圓) 五、九、四、八、五	製紙用バルブ
一月 ウラジホストツク地方に於て開戦以來紙類の輸入杜絶し我が國の供給を仰ぐに至る。	二月 土佐紙會社工場第三號圓網抄紙機の乾燥筒破裂し職工即死、輕傷各一名、隣接の第二號機に大損害を與ふ▼日本郵船、歐洲日本間のバルブ運賃一噸に對し二志六片の引上げ方認可を得▼獨逸製アニン染料の缺乏を告げし爲め色紙の製造に困難を生ず▼四日市製紙取締役重盛信近氏、三重縣郡部より衆議院議員に當選す。	三月 朝鮮魚浦に於ける寺尾政篤氏等の蘆バルブ事業は、鈴木商店(神戸)	四月	十一月 帝國製紙會社(大阪市北區善源寺町)開業、抄紙機は英國ゼームス・パートル社製長網九十七吋、獨逸フェルネル社製長網九十三吋、現王子製紙都島工場の前身▼樺太大泊に於て三井合資會社の經營に係る三井樺太紙料工場落成。樺太より初めて亞硫酸バルブを供給す(現王子製紙大泊工場)▼小倉製紙所に増設の英國ゼームス・パートル社製百十二吋長網機(第三號)運轉を開始す▼京都の梅津製紙工場に増設の英國パートル社製七十四吋長網機(第三號)運轉を開始す。	十二月 富士製紙第五十一回定時總會に於て取締役九名を五名と改正す、即ち原六郎、原口要、廣瀬好之助氏等重任し之に新任の窪田四郎、任期中の高山直純二氏を加ふ▼岡山製紙、損失填補の爲め資本金五萬圓を削減したりしも更に半減して五十萬圓とし二十五圓拂込二株を一株に合せ全額拂込済となす。	日支交渉○大體恩赦○教育振興詔勅下る○第十二回總選舉行はる、大隈首相の車窓演説は有名○大正天皇即位			

印刷料紙 一、二、三、四、五	筆記用紙 二、三、四、五	圖畫用紙 四、五、六、七	吸取紙 四、五、六、七	濾紙 一、二、三、四、五	包裝及罎寸用紙 四、五、六、七	唐紙 四、五、六、七	模造日本紙 及チツシユ 一、二、三、四、五	模造羊皮紙 一、二、三、四、五	其他の紙 一、二、三、四、五	板紙 一、二、三、四、五
五月 東洋製紙の巻煙草用紙に對し諸外國より註文幅狭す▼獨逸汽艇の商船爆沈によりバルブ其他原料の損害を蒙るもの續出す。	六月 京都の梅津製紙、曩に北濱銀行破綻の關係にて辭職せる事務取締役大谷登喜雄氏の後任として(社長)磯野良吉、同直吉、(支配人)淺野次郎三氏を取締役に選舉す▼金澤市の金澤製紙、再び板紙の製造を開始す▼諸外國より我が印刷用紙の供給を望むもの續出し洋紙類の輸出著増す。	七月 栗屋龍藏氏等の發企にて創立されたる大阪板紙會社、工場を尼ヶ崎に建設したるを以て尼ヶ崎板紙株式會社と改名、營業を開始す▼王子製紙、三井樟太紙斯工場並に附屬の木材、電氣事業を譲受け爾後大泊工場と稱す▼小笠原菊次郎氏、王子製紙取締役に選舉せられ尋で常務に就任す▼土佐紙同業組合製紙試驗場技師横川博恵氏、開戦以來輸入を絶てるパーチメント紙の製造に成功、モスリン工場等に好評を博す	八月 合資會社三菱製紙所、華章造紙廠を買収す、九十吋長網薄紙機及同幅ヤンキー機各一臺、工場長高橋練逸氏▼東京、大阪、名古屋三市に於ける諸大製紙會社特約販賣店、大正會を組織す▼當時製紙會社は、王子、富士、有恒社、中之島、梅津、三菱、四日市、北越、九州、中央、樟工、東洋、木會興業、熊野の十四會社であつた。特約販賣店(大正會員)は東京にては中井、大倉、博進、服部、岡本、川嶋、柏原の七店、大阪にては中井、博進、山田、大森、菱三の五店、名古屋にては中井、万常の二店、京都は中井、大森等で要するに東京、大阪、名古屋の十商店であつた。▼中井商店は東京を本店として、大阪、名							

古屋、京都に支店を置き、中井三郎兵衛氏の宰する所、中井三之助氏、鶴岡勝輔氏、谷野彌吉氏、乾茂氏、中井巳治郎氏、澤本彌平氏、岡本經紀氏、西川忠三郎氏、關根國之助氏、赤松市雄氏、隅野卯之吉氏等が重立ちたる人物▼大倉洋紙店は大倉文二氏之を經營し、大倉邦彦氏、横田清櫻氏、折居忠三氏、菅野和三郎氏、谷本正雄氏、齋藤喜市氏等重立ちたる人▼博進社洋紙店、山本留次氏之を經營し、中村孝吉氏、富谷氏、吉野氏、須佐敢氏、大島久吉氏等主なる人物▼服部紙店、服部源三郎氏陣頭に起ち、大藏儀藏氏、高梨長太郎氏、大藏兼藏氏、西澤榮藏氏、服部修二氏、中根氏等、主なる人物▼岡本商店は、岡本彌兵衛氏を長として、中嶋三郎氏、岡本秀三氏、岡本與四郎氏、岡本正五郎氏等主なる人▼川嶋洋紙店は、元氣な川嶋氏采配をふり、國貞善一氏、金子貞次氏等活躍してゐた▼柏原洋紙店は、三菱製紙の委託販賣店として柏原孫左衛門を社長として角田吉次郎氏、山中氏、北山氏等主なる人であつた▼大阪では中井、山田、大森、菱三と四店、營業は中井が大半占め、大森、山田の順であつた▼山田洋紙店は藤岡貞治郎氏を筆頭として、菊原敬次氏、雨宮親重氏が主なる人物▲大森洋紙店は京都の大森治良兵衛氏、治三郎兩氏によつて經營され、高田丑之助氏、大森長四郎氏等重立ちたる人▼菱三商會では曾根氏、入江氏、三品氏等主なる人物であつた▼名古屋でも中井商店が洋紙販賣の大部分を引きうけ、中井巳治郎氏のもとに、山田惣一郎氏、棚橋昌雄氏等活躍してゐた▼万常紙店は富士製紙特約販賣店として、伊藤常七氏、宮林仁作氏等重立ちたる人▲京都では中井商店隆々として輝き、乾茂氏のもとに田中國三郎氏、山本新太郎氏、森田讓吉氏等主なる人物であつた▼

		<p>大森商店も盛んに活躍し、角倉氏、田原氏等活躍してゐた。</p> <p>九月 樺太工業泊居工場、亞硫酸パルプの製造を開始す▼印刷局抄紙課長 國谷誠之助氏、依願免本官、同技師中村恒氏(現北越製紙市川工場長)之に代る、尙國谷氏は小倉製紙所技師長となり尋で取締役となる</p> <p>十月 三菱製紙所の経営により華章造紙廠、運轉を開始▼北越板紙工場完成し、幅六十七吋長網機を運轉、稻葉板紙の抄造を始む▼加賀製紙株式會社創立す、資本金二十萬圓、社長横山俊次郎、工場野々市驛附近板紙製造。現社長中島徳太郎氏。</p> <p>十一月 樺太落合に日本化學紙料株式會社創立す、資本金三百萬圓、取締役(社長)小池國三、塚越丘二郎、有阪秀造、亞硫酸パルプ製造及附隨業を目的とす。後年の富士製紙落合工場、現に王子製紙落合工場。</p> <p>十二月 兵庫縣神崎驛附近の野田製紙所、富士製紙の買収する所となり同社神崎工場として營業を繼承す。現在の王子製紙神崎工場▼王子製紙、樺太、豊原町に亞硫酸パルプ工場を建設、豊原工場と稱す▼大谷登喜雄氏、東京板紙常務取締役に擧げらる▼穴水要七、高橋貞三郎、高山直純の三氏取締役に推選さる▼岡山製紙廣島分工場(舊伊藤製紙)長網機の新設を計畫す。</p>	<p>日露新協約締結○裕仁親王(今上陛下)立太式を行はせらる△島入スミスの來朝一時青年間に流行つたオールパツクはこの時スミスの鬻した髪の刈方である○簡易生命保險法公布さる</p>
--	--	--	---

<p>大正五年</p>	<p>會社數 一二 運轉工場數 一三 抄紙機 六九 (六、四八吋)</p>	<p>製遺量 四、四六、六、六 販賣量 三、六〇、三、三、五 販賣率 九八・一 輸入額(圓) 九、〇七、七、九 製紙用パルプ 五、〇七、七、九 印刷料紙 二、〇七、七、九 筆記用紙 五、六、七、九 圖書用紙 三、六、七、九 吸取紙 三、六、七、九 濾紙 三、六、七、九 包裝及備寸用紙 三、六、七、九 唐紙 三、六、七、九 模造日本紙 三、六、七、九 模造羊皮紙 三、六、七、九 其他の紙 三、六、七、九 板紙 三、六、七、九</p>	<p>一月 東京板紙取締役鈴木良輔氏常務を辭し取締役大谷登喜雄氏常務に互選さる▼大阪帝國製紙の株式全部王子製紙の買収する所となる、社長藤原銀次郎、常務坂内孫六、高島菊次郎、高田直屹、監査役廣瀬彌三郎、小笠原菊次郎現、王子都島工場▼北越製紙新聞用紙の抄造に従事▼瑞典政府、政府の許可を経ざれば化學的パルプの輸出を禁止する旨發表。</p> <p>二月 樺太紙料株式會社(資本金三百萬圓)創立總會を開き取締役に大川平三郎、田中榮八郎、小西安兵衛、岡崎久次郎、重盛信近、監査役に長谷川太郎吉、熊澤一衛の諸氏を選挙▼西野製紙所、組織變更して資本金百萬圓の株式會社とす、取締役社長西野市兵衛氏▼帝國製紙、全財産を王子製紙に譲渡せしを以て同社は之を大阪工場と稱す▼王子製紙、樺太第二工場として豊原に亞硫酸パルプ工場を建設するに決す▼三菱臺灣製紙所、大正三年一月より操業を休止せるが工場閉鎖を其妨へ具申す▼紙價昂騰防止の方法として十一月製紙會社は東京、大阪、名古屋、京都の第一流紙商十六名と連署にて本年二、三、四の三ヶ月を期限とし洋紙類の最高價格を公表す▼土佐、伊豫、東京各紙商同業組合及大阪紙問屋三番組、連名にて和紙値上廣告を日刊諸新聞に掲載す▼上海、大連等より我が國輸出洋紙約一千四百捆、神戸へ逆輸入せらる▼司法省では昨年来全國の裁判所より紙屑を蒐集し宮城、静岡、高知の三監獄にて紙漉作業を試みたる結果が良好なるに鑑み他の監獄にも及ぼすべく之が調査に着手す。</p> <p>三月 三菱製紙所、數年前東京府下南葛飾郡金町驛附近に約十萬二千七百</p>	<p>今泉製紙株式會社 静岡縣富士郡今泉村今泉、資本金總額五拾五萬圓、專務取締役社長</p>
-------------	---	---	---	--

<p>今泉製紙岩淵分工場 静岡縣原郡富士川町、資本金六拾萬圓、生産品ライスペーパー抄紙機圓網式二台、</p> <p>興津川製紙株式會社 静岡縣原郡興津町谷津、資本金總額五萬圓、取締役社長藤川文右衛門氏、飯田省一氏、増田彦次郎氏、飯田勝五郎氏、浦田健次郎氏、山下貞三氏の諸氏重役</p> <p>清水製紙株式會社 駿東郡清水村八幡資本金三拾五萬圓、取締役社長岡野喜太郎氏、岩崎重雄氏、關本眞吉氏、石井政市氏、堀内省吾氏、堀野力蔵氏、佐野熊次郎氏、杉山善作氏、川島延太郎氏の諸氏重役</p> <p>旭製紙株式會社 静岡縣原郡蒲原町、資本金總額拾萬圓、社長宇佐美興作氏、事務取締役高柳政三郎氏、抄紙機圓網式五〇吋一台五拾八條抄紙機三二台</p> <p>駿陽製紙株式會社 静岡縣富士郡原田村、資本金三十萬圓、社長佐野熊次郎、事務取締役小澤精作、抄紙機二台、生産品コッピ紙、原動力電動機二台、實馬力二五五馬力、使用職工百人</p>	<p>坪の土地を買収し一大製紙工場建設の計畫中なりしが本月より工事に着手す(現に三菱製紙株式會社中川工場)▼樺太工業、新設の樺太紙料を合併、資本金を五百萬圓となす社長大川平三郎氏</p> <p>四月 相馬抄紙破産の結果瑞典製の小型長網抄紙機は東洋製紙の買収する所となる▼板紙共同販賣所、解散の決議をなす</p> <p>五月 大倉文二氏、田中治之助氏等の發起にて帝國金網製造場(山田喜助氏經營)を買収し東京金網株式會社を設立工場を淀橋區角筈に建設するに決す、今日日本金網と合併して日本金網株式會社と稱す▼大隈内閣施政方針の一たる官業整理調査の決議による印刷局抄紙部十條分工場の拂下は入札の結果百三十五萬七千八百圓を以て王子製紙に落札す▼麻布區飯倉徳川侯爵邸の南榮文庫にて紙に關する講演及展覽會を開く</p> <p>六月 岡本利平氏、資本金一十萬圓の鳴鶴江製紙株式會社を創立し工場を新義州に建設せんと計畫したるも終に成功せず▼合資會社服部紙店、資本金を倍加すると同時に高梨長太郎氏が代表社員となる</p> <p>七月 堀越壽助氏、印刷局抄紙部十條分工場の工場長に任ぜらる、堀越壽助氏は現日本金網株式會社社長▼三菱製紙所高砂工場の幅七十五吋圓網機(西山鐵工所製作)の増設工事竣工す▼四日市製紙、現在資本金百五十萬圓を二百五十萬圓に變更の件決議す▼露國及濠洲より新聞及印刷用紙の取引申込あり</p> <p>八月 大川、澁澤、馬越三氏等發起にて釧路に一大製紙會社創立の議あり▼柏原洋紙店、資本金百萬圓の合資會社となす</p> <p>九月 東洋製紙、幅七十二吋長網機(佐藤鐵工所製)の運轉を開始す</p> <p>十月 柏原孫左衛門氏病没▼熊本縣坂本の九州製紙、資本金百五十萬圓に</p>	<p>堀野力蔵氏、後藤百右衛門氏、村松嘉十郎氏、井出敬太郎氏、太田鐵十郎氏、川島延太郎氏、本田敬義の諸氏、取締役、監査役</p> <p>吉永製紙株式會社 静岡縣富士郡吉永村比奈、資本金總額四萬圓、事務取締役清水嘉作氏、取締役古澤要氏、齋藤米作氏、渡邊佳彦氏、保科治太郎氏、蓬生孫八氏、鈴木彌作氏、杉澤宇三郎氏の諸氏重役</p> <p>株式會社高野製紙所 本社福井縣第二、第三工場、静岡縣駿東郡長泉村本宿、第三工場同村下長窪、資本金總額六十萬圓也、社長高野次郎氏、高野興三郎氏</p>
---	---	---

<p>原田製紙株式會社 静岡縣富士郡原田村、資本金三十萬圓、取締役社長堀内半三郎氏、事務取締役小澤勝左衛門氏、取締役渡邊眞幸氏、渡邊和七氏、清水常太郎氏の諸氏重役、石出兼太郎氏、佐野熊次郎氏、佐野喜久藏氏</p> <p>駿富製紙株式會社 静岡縣富士郡今泉村、資本金五十萬圓、取締役社長佐野嘉久藏氏、取締役井出源策氏、川嶋福太郎氏、川嶋悅郎氏、佐々廣作氏、六所國四郎氏、鈴木信太郎氏、生産品コッピ紙、擦紙</p> <p>風津川水力紙株式會社 静岡縣原郡小島村小島、社長田中耕一郎氏、事務藤川文右衛門、資本金拾五萬圓、生産品濃還元擦紙</p>	<p>増資の件決議す▼九州製紙、月島鐵工所製長網(第五號)及深川鐵工所製長網ヤンキー(第六號)各百吋の運轉を開始す▼西野製紙所、加藤鐵工所製七十二吋長網機(印刷用紙)の運轉を開始す▼熊野製紙、足田鐵工所製八十六吋長網機の運轉を開始す▼滿洲製紙合資會社創立す、資本金十五萬圓、本社を大連、工場を營口に設け高粱製紙を營み杉浦製幅六十吋圓網機を据附く(後年の松浦製紙株式會社)▼紀州新宮の熊野製紙、日本製紙聯合會に加入す</p> <p>十一月 ▼富士製紙、旭川電氣株式會社を合併し資本金五十萬圓増加の件決議す▼高崎板紙、資本金を十六萬圓に増資す</p> <p>十二月 北海道興業株式會社創立す、資本金七百五十萬圓、取締役(社長)大川平三郎、(事務)田中榮八郎、長谷川太郎吉、熊澤一衛、岡崎久次郎、藤田好三郎、下郷寅太郎、(監査役)小西安兵衛、山内平次郎、渡邊甚吉、阿部房次郎、伊藤長次郎、製紙用バルブ工場を釧路に建設す▼東海紙料株式會社、大倉組の經營に移る▼九月及十一月を以て締切りたる諸製紙會社の決算、各々著しき好成績を示す▼露國政府の依頼に係る大麻製紙二十八萬キログラムの洋紙抄造完了、年末に至り製品全部を引渡す▼東海紙料、資本金五十萬圓を増加、總額を百四十二萬圓とす▼合資會社服部紙店代表社員大儀儀三氏病歿</p>	<p>熊谷平次郎氏の諸氏、抄紙機第二工場丸網三臺、第三工場丸網一臺、生産品地券紙、ボール紙、吸取紙、鳥ノ子紙、教科書用紙、色紙類</p> <p>東海製紙株式會社 静岡縣富士郡岩松村松岡、資本金三十五萬圓、社長堀内省吾氏、支配人益田稔氏、抄紙機丸網、長網各一臺、生産品和洋紙、標準用紙</p>
---	---	---

<p>大正六年</p> <p>會社數 一二</p> <p>製 造 量 四萬、九萬、八六</p> <p>運轉工場數 二四</p> <p>販 賣 量 一〇九、〇九、七〇</p>	<p>一月 中之島製紙、現在資本金三十萬圓を百萬圓に變更、昨年下期の決算に於て、年五十割の配當を決議す▼株式會社博進社、資本金を倍加して二百萬圓となし中野武營氏が取締役に加はり監査役大橋新太郎氏が相談役に轉す▼富士製紙、現在資本金千五十萬圓を二千百萬圓に變更の</p>	<p>ロシヤ革命○アメリカ參戰○日米共同宣言○第三回極東オリンピック大會東京で挙行</p>
---	--	---

抄紙機	販賣率
岳南製紙株式會社 静岡縣富士郡今泉村、資本金十二萬五千圓、生産品コ ツビー紙、元結原 紙、手漉和紙、抄 紙機ヤンキー式、 チツユ式一臺 佐野熊ナフ キン工場 静岡縣富士郡吉原 町、工場主佐野熊 次郎氏、生産品紙 ナフキン 大正工業 株式會社 静岡縣富士郡富士 根村、社長秋山忠 平、生産品紙燃糸 綿糸加工	一〇〇・九 輸入額(圓) 製紙用バルブ 二、〇〇七四 印刷料紙 九六、二四 筆記用紙 三、七九三 圖書用紙 六、六四 吸取紙 五、〇四 濾紙 三、〇七 包裝及寸機用紙 九、〇〇三 唐紙 四、五三 模造日本紙 及チツシュ 二八、二七 模造羊皮紙 四、四三 其他の紙 三、八六 紙 三、三九
〇第十三回總選舉 洲大戦は世界の經濟金 融市場を不安ならしめ 政府は金、銀、貨幣又 は地金の輸出を禁止す 〇米騒動事件 補助貨 幣不足のため小額紙幣 發行さる△チャップリ ン紙の流行	六月 東京紙料株式會社は遠山友柳子爵を委員長に擧げ資本金を百萬圓とし權限及紙屑の取引にて年十割の配當を發表し、にプレミアム附株式募集に成功す 七月 日本フェルト株式會社創立す、資本金百萬圓にして製紙用毛布の製織を目的とし、取締役(社長) 田中榮八郎、大川平三郎、藤原銀次郎、田原豊、穴水要七、諸井恒平、日下吉平、塚口慶次郎、監査役山本留次、熊澤一衛の諸氏 八月 千住町飛地に在る西川製紙所全焼す 九月 三菱製紙高砂工場に増設の瑞典製四十寸長網機運轉を開始す

大正會の沿革

大正會の沿革	製紙販賣區域
日本製紙聯合會加入製紙會社の製品を販賣する全國主なる洋紙販賣店は大正四年八月廿五日、東京丸の内中央亭に會合し、大正會なる一つの協議團體を組織した、當時の會員十一名(博進、服部、大倉、岡本、大森、柏原、川崎、中井、山田、万常)其後大正十一年十月大森洋紙店は脱退し、大正十二年三月合資會社三商會、十三年十一月株式會社大同洋紙店、同十五年十二月合資會社丸大洋紙店の三洋紙店は加入し、昭和四年十月、山出洋紙店解散し後編の富士洋紙店の加入したる等會員の増減ありて昭和の今日に繼續す。會員十二名左の如し。	日本製紙聯合會に加入、製紙會社の製品は新聞用紙の一種に限り共同洋紙株式會社なる一の販賣機關を設け、各地新社の需用に便じ(北越製紙會社は之
販賣店 特約製紙會社 資本金 中井商店 王子、富 明治九年 百萬圓 服部商店 富士、北 明治十四 百萬圓 柏原商店 三 明治十七 百萬圓 大倉洋紙 富士、王子、 明治廿二 二百萬圓 日製、北越 年十一月	製紙販賣區域 日本製紙聯合會に加入、製紙會社の製品は新聞用紙の一種に限り共同洋紙株式會社なる一の販賣機關を設け、各地新社の需用に便じ(北越製紙會社は之

富士洋紙 店 富士 明治廿三 年二月 萬圓	博進社 王子、富士 北越 明治三十 年七月 萬圓	萬常紙店 富士 明治十二 年十月 萬圓	川島洋紙 富士 明治卅年 九月 百圓	岡本商店 王子、北越、日紙 明治四十 年四月 百圓	菱三商會 三菱 明治四十 年五月 百圓	大同洋紙 王子、富士 日本紙業 大正十三 年十一月 三百萬圓	九大洋紙 北越 大正十一 年十月 萬圓
--------------------------------------	---	---------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	---	---------------------------------

日本製紙聯合會加入製紙會社は第一流の洋紙販賣店を網羅し、販賣機關となせり。而して是等販賣店は全國貨物集散の都市に本店又は支店を設け、亦一、二の販賣店は天津、上海に出張所を設くるものあり。

現在會員の内にて洋紙を販賣したる嚆矢は明治九年一日京都府營の梅津パピール、フアブリック、製品を取扱ひたる中井商店とし、爾來昭和の今日に至り熾んに洋紙を販賣せり。明治十二年に万常、十四年に服部、十七年に柏原、十九年に岡本、廿二年に大倉、廿三年に山田(後の富士洋紙店)、三十五年に博進社、川島紙店洋紙を扱ふ四十五年に菱三の設立あり、以上十販賣店は明治時代に屬し、大正時代設立の大岡洋紙店及九大洋紙店とす。

十一月 合資會社三菱製紙所の營業を繼承して三菱製紙株式會社(資本金二百五十萬圓)創立す。取締役(會長)木村久壽彌太、(專務)田原豊、高橋謙逸、監査役桐島像一、大山五郎の諸氏就任。熊野製紙、更に亞硫酸パルプ設備を完成し蒸煮を開始す。

十二月 富士製紙、北海道十勝國中郡川合村に亞硫酸パルプ工場建設の爲同村池田驛に池田工場建設事務所を置く。後三社合併閉鎖す。王子製紙現在資本金千二百萬圓を二千五百萬圓に變更の件決議す。朝鮮製紙創立總會に於て取締役に會長藤原銀次郎、常務原鐵三郎、大橋新太郎有賀長文、高島菊次郎、高田直屹、小笠原菊次郎、高野省三、監査役飯田邦彦、趙錫泰の諸氏就任す。静岡縣富士郡原田村に資本金六十萬圓を以て泉製紙株式會社創立す。社長堀野力藏氏。日本建築紙工、下期の決算にて年七割を配當、同時に資本金十萬圓を五十萬圓に變更す。

に依らず特別自營販賣)其他印刷用紙、筆記、模造紙、及其以外雜用紙の販賣は第一流の洋紙販賣店に、特種製紙の少部分は特別販賣店と協同し、一手販賣をなせり。

而して是等第一流の販賣店は第二、三流販賣店の商品供給すると共に一般需用者に販賣せり。

全國に分布する特約の洋紙販賣本店は十二を算し、各々設置する支店、出張所約二十五あり、

各販賣店の取引地方は概ね一定するもの、如く、全國を東京、中京、京都、大阪、下關、門司、九州の七に大割し得らるゝやうである。

今之を左に記し、大方諸先輩の批判を仰がんとす。

(イ)東京に本店を有するものは、東京を中心とし附近一帯(横濱、

會社數 一	製造量 四六、六四、五	販賣量 四七、二五、〇七	販賣率 九九・六	輸入額(圓) 六、八三、九九	印刷料紙 三、三九、五三	筆記用紙 五、〇〇、〇〇	圖書用紙 一、八〇、〇三	吸取紙 三〇、〇〇、〇〇	濾紙 三、〇〇、〇〇	包裝及燐寸用紙 二、〇〇、〇〇	唐紙 五、五七	模造日本紙 一五、〇〇	模造羊皮紙 四、〇〇	其他の紙 一、〇〇、〇〇	板紙 九三、二六
----------	----------------	-----------------	-------------	-------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	---------------	--------------------	------------	----------------	---------------	-----------------	-------------

本邦製紙原動力の變遷

抄紙機運轉の原動力は彼の「フオドルニア」式抄紙機が始めて實用に供せられた。當時は歐米共に蒸氣力を用ひてゐた。我國も同じく、蒸氣力によつたもので即ち明治七年に始めて洋紙業を起した有恒社に續き大阪市中ノ島の蓬萊社、三田製紙所はそれであつた、しかし同時代に創業された京都、梅津のパピール、フア

一月 王子製紙苦小牧工場に据付の米國バグレイ社製百四十二吋長網機運轉開始。三菱製紙資本金を五百萬圓と改む。四日市製紙、重役改選の結果取締役(社長)大川平三郎、(專務)熊澤一衛、田中榮八郎、板倉市十郎、木村秀興、(常務)重盛信近の諸氏。東京製紙株式會社成立、資本金一百萬圓、工場千住町、抄紙機幅五十二吋、取締役守屋善兵衛、荒井泰治、鈴木伊十、神田萬次郎、監査役山本留次、中山高吉、相談役村田一郎、安場未喜男諸氏。日本紙器、東京府下南葛飾郡龜有驛附近に敷地二萬坪を買収、製紙工場の建設に着手す。現日本紙業龜有工場。山田製紙合資會社組織變更して資本金五十萬圓の若狭製紙株式會社となす抄紙機四十五吋、五十三吋二臺、ランヤ紙及マニラ板紙抄造。静岡縣原田町に資本金三十萬圓の大正加工紙株式會社成立す。宇和島製紙、幅五十一吋圓網機(鈴木式)にて和紙の抄造を開始。日本板紙聯合會成立、事務所大阪、常任幹事東京板紙、美作製紙。當時の業者は關東に於ては東京板紙、富士製紙、北越製紙、高崎板紙の四社關西に於ては西成製紙、美作製紙、岡山製紙、山陽製紙、加賀製紙、大阪板紙、名古屋板紙の九社、九州板紙、及び妹尾、加藤、廣島の三製紙所。

二月 東洋加工製紙株式會社成立、資本金二百萬圓、取締役中村爲三郎、土屋興、長倉巳之助、井上周、長倉信一、南郷三郎、中村愛作、小西辰藏諸氏、薄葉紙及加工紙を抄造。鐘淵製紙株式會社成立、資本金五十萬圓、取締役野間五郎三、福田伴三、櫻井信之助、坪田庄市、中川金兵衛、近藤金五郎、澤田兵太郎、戸室庄三郎、支配人山田外茂吉、齋紙、文庫紙、白紙、包紙等製造が目的。東京市千住町の西川製紙所全焼。南千住町の東京板紙倉庫四棟及權室全焼。合資會社服部

○シベリヤ出兵。歐洲大戰の休戦。國勢調査令公布。西園寺靖和特便一行出發。大戰の好況は民議の流行を産み安來、鴨綠江、小原節等歡迎さる。

※市、神奈川縣、静岡縣の一部、山梨縣の一部。東北地方より北海道一圓。

(ロ)名古屋に本店、又は支店を有するものは、名古屋市中心とし、東、關西に互り、西は岐阜の大垣、彦根愛知、滋賀縣の全部。富山、福井に互り、南は伊勢一圓、紀州に互る。北は甲府、新潟、長野は諸縣群馬縣の一部。

(ハ)京都市に本店又は支店を有するものは、丹波、江州。

(ニ)大阪に本店又は支店を有するものは、附近一帯、山陰、山陽、

ブリックは獨り、「ダービン」式水車を利用した。當時、梅津は桂川の水を五十馬力の水車で獨逸製抄機三十八時(一、五米突)を運轉したものである。梅津に明治二十一年東京板紙會社が埼玉縣新座郡片山村に工場を建築し水車を利用し機械を運轉したが豫期に反し時々溜水斷然此工場を他に移轉するの止むなきに至つた。二十三年には富士製紙の入山瀨工場始めて水力電氣を利用した、當時にあつて深井川の水をひいて大規模に水力發電の設備をしたことは特筆大書するに値するものである。

大正年間に於ける動力狀態を記せば
 自社水力發電 富士三、王子二、權工二、北越二、西野デイズル一の九工場
 自社火力發電 富士二、王子五、權太五、北越一、西野デイズル一の十四工場
 水車 富士一、權太二、三工場
 蒸氣 富士十一、王子九、權太六、三菱二、二八工場
 買入電力 富士十二、王子八、權工三、三菱二、北越三、日本製紙一、工場類二九

蒸バルブの試造
 大正四年秋、板紙自由競争激烈を極め十一月の大坂に於ける同業者の會社も

紙店組織を株式會社に変更、資本金一百萬圓、取締役服部源三郎、高梨長太郎、服部修二、大藏兼藏、監査役岡藤左衛門、堀六右衛門

三月 三菱製紙中川工場瑞興製長網百七吋及九十七吋二臺にて印刷用紙の抄造を始む
 ▼日本製紙株式會社成立、資本金一百萬圓、取締役(社長)原亮一郎(専務)三樹一平、(同)鹿島長次郎、大葉久吉、野間清治、小林又七、島田義三、監査役橋本信次郎、石川正作、江草重忠、本社及工場岩淵町大字袋、中等教科書用印刷紙抄造
 ▼大倉洋紙店、資本金三百萬圓の株式會社となす、取締役社長大倉文二

四月 王子製紙大阪工場増設の七十吋圓網(第四號)を以てセルロイド原紙の抄造を始む現都島工場
 ▼静岡縣在今泉製紙と岩淵製紙合併
 ▼富士製紙江別工場碎木バルブ室全焼す。
 ▼東京板紙碎木バルブ機一基を備へ精細バルブの自給を開始す
 ▼合資會社山田山田洋紙店資本金一百萬圓の株式會社となす、取締役(社長)山田茂兵衛、(専務)藤岡貞次郎、菊原敬次、雨宮親重、松原常興の諸氏

五月 王子製紙現在資本金一千五百萬圓を二千五百萬圓に変更
 ▼四日市製紙資本金二百五十萬圓を二百七十萬圓に変更、志田電氣會社を合併に決す
 ▼有恒社専務久保順太郎氏長逝
 ▼東京板紙常務大谷登喜雄氏卒去
 ▼静岡縣清水市の清水製紙(資本金五十萬圓)工場開業式を舉ぐ
 ▼和紙問屋岡本彌兵衛氏、已が經營の洋紙部を新設せし株式會社岡本商店に譲る、取締役(社長)岡本彌兵衛、副社長岡本富之助、中島三郎、岡本秀三、岡本與四郎、監査役岡本正五郎
 ▼立山製紙株式會社成立、資本金三十七萬五千圓、稻葉板紙、取締役(社長)金山從革、左藤助五郎、香川保忠、加藤甚右衛門、黒田義秀、相談役大倉文二、横山俊二の諸氏

六月 富士製紙窪田四郎氏を社長に、穴水要七氏(専務)、原鉄三郎氏、柄原啓藏氏、小野與吉氏を取締役に選任す
 ▼名古屋製紙株式會社成立、資本金百萬圓、取締役上田善兵衛、大島得藏、大島勉吉、福慶勝三、岡崎廣吉の五氏就任

七月 北國製紙新潟工場に増設の加藤製百吋長網機運轉開始。富山縣石動町所在
 ▼三菱製紙高砂工場の塗被機完成、アト紙抄造
 ▼東洋製紙淀川工場に増設の瑞典製七十二吋及四十四吋長網一臺運轉を開始工場長水口出世
 ▼熊野製紙株式會社成立、資本金一百萬圓(拂込済)取締役(社長)森井惣兵衛、川下五三郎、奥浦和三郎、石田水藏、監査役植田伊太郎諸氏、乾東九郎、本社大阪市備後町一丁目
 ▼王子製紙大泊、豊原兩バルブ工場を獨立せしめた樺太産業株式會社(資本金五百萬圓)成立
 ▼有恒社、王子製紙の買收するところとなる、取締役(専務)堀越壽助、岡田來吉、高島菊次郎、井上憲一、監査役飯田邦彦、山本留次の諸氏
 ▼西野製紙所に増設の五十吋圓網ヤンキ一運轉を開始
 ▼北越製紙資本金を一百五十萬圓に倍加
 ▼吹田製紙株式會社(資本金一百萬圓)成立、取締役中村爲三郎、松尾福五郎、小西辰藏、監査役井上周、眞市郎右衛門、簡照南の諸氏就任
 ▼大倉洋紙店社長大倉文二氏卒去
 ▼東京板紙新に大川平三郎、穴水要七兩氏を取締役に、山中隣之助氏を社長に互選
 ▼島根縣木次町の出雲製紙株式會社(資本金二十五萬圓)機械渡和紙を目的とし六十吋圓網の運轉を開始す。取締役(社長)織原藤次郎(常務兼技師長)磯野直吉氏就任

八月 東北板紙株式會社(仙臺市外長町)並に東京製紙株式會社、共に工

(四〇)

四國に互る、又支那、朝鮮、滿洲、印度への輸出。
 (本)門司に支店又は出張所を有するものは、福岡市に在る、支那、朝鮮、滿洲、印度への輸出。明瞭となる。
 (ハ)九州、熊本は、熊本、鹿児島其他一圓(福岡縣下を除く)
 以上は概要の取引地方を示したるもので多販賣區域となり、大正年間の第一流洋紙販賣店を設置せる地方は左の如し。
 東京市—中井商店、柏原洋紙店、博進社、大同洋紙店、大倉洋紙店、岡本商店、川嶋洋紙店、大坂市—中井商店、大同洋紙店、富士洋紙店、博進社、大倉洋紙店、九大洋紙店、岡本商店、神戸市—三菱三商會、名古屋市—方常紙店、博進社、中井商店、大同洋紙店。

茲に何等得らぬ處なきを見て、一面薄賃は工場構内、東京秋葉原を合せて約二千噸に達し以上の收容力を有せざるに至り、加ふるに在來毎月三四百噸を往來したる抄造力は、尙然五百噸にも達するに至つたので、十二月に入るや蒸バルブを試造し、續いて翌年一月迄白ボール厚薄用紙等を抄造した。之蓋白洋紙類が、そろそろ景氣來を唱へ出した時運の波を利用したものであつたが、始めての試て而も設備も俄仕込であつた爲に、大なる利益を收むるに至らなかつた。唯奉運にも、之が爲に小西、松村商店等より買入れた曹達灰が百斤參圓見當のものが七八圓にも暴騰したのと板紙界漸く一抹の曙光を見るに至つたので、一月限り白ボール類の抄造を廢して、黄ボールに還り、餘分の百噸余りの曹達灰は賣戻して六七千圓の利益を得たのは飛んだ拾ひ物であつた。

戰爭景氣前奏由大正五月參月に入ると雜貨類の景氣に伴ひ、板紙の需要俄に増大し、價格も噸價四拾圓より五拾圓と増進し、白洋紙の方では模造紙が一躍一斤十五六錢にも達して非常の思惑を喚起し、遂に製紙聯合會は三月に入り、最高價を限定して發表するに至つた。

四月に入るや、一般の財界に行過の反

(四一)

京都市—中井商店、三菱三商會、大同洋紙店、丸大出張所。
 門司、福岡市—中井商店、大同洋紙店、博進社。
 熊本市—大同洋紙店。

動起りて、財界頗に波瀾し、模造紙の如き亦十錢見當奔落し、板紙も四十五圓迄低落したのである。狂瀾時代来る其年秋口に入ると諸物價再び騰勢に轉向し爾來六年七年と狂瀾を續け七年十一月、休戦に至る迄は、夏枯も不調期もなく、板紙の如きは最高價百八拾圓を唱へ印度は勿論、遠く亞弗利加方面迄も多量の先約注文が行はれた。模造紙も一封度四十八錢ロール紙、百光紙三十五錢、更紙三十二錢を唱ふる等全くの熱狂的價段を現出するに至つたのである。生糸一捆五千圓を唱へ綿糸八百圓を穿破し、織物を出し、ポロ船噸價十圓を稱へた等も、今から見れば夢の如きものであつた。

日本板紙聯合會成立經過

日本板紙聯合會は大正七年一月成立に屬し、當時の稻葉板紙業者は關東に於て東京板紙第十製紙、北越製紙、高崎板紙の四會社あり、關西に於て西成製紙、美作製紙岡山製紙、山陽製紙、加賀製紙、大阪板紙、名古屋製紙、九州板紙の八會社及び尾尾、加藤、廣島の三製紙所であつた、抑も東京板紙が明治十九年十月埼玉縣新座郡片山町に於て稻葉を原料とする板紙工場の經營に着手したる以來、富士製紙が明治二十

場落成、操業を開始す。大阪に日本製紙株式會社(資本金一百萬圓)成立、取締役大島甚三、藤本潤一、北村爲男、栗屋瀧藏、北廣次、岩崎喜三郎、杉本又三郎、監査役矢野半次郎、田中福藏、柳廣藏の諸氏。新潟製紙株式會社(資本金三十五萬圓)成立、取締役、健富、齋藤、富岡、山内、安藤、監査役竹山、山田、齋藤の諸氏。

九月

馬關製紙株式會社(資本金八十萬圓)成立、取締役堀内伊太郎、久保田松吉、吉村俊一、竹内辰次郎、岩崎喜三郎、數森淺造、監査役田中福藏、河野英良、本社及工場山口縣厚狹郡吉田村、包装用紙類。中外製紙株式會社(資本金一百五十萬圓)成立、取締役(社長)金子貞治、原田庄一、服部英明、林正從、福慶清太郎、監査役河合半兵衛、高木健五郎の諸氏。目白製紙株式會社成立、取締役鈴木、島田、永井一色、鈴木の五氏、淺草紙及板紙。阿波製紙(資本金十萬圓)抄紙機増設のため三十萬圓に増資。

十月

木曾興業須原工場に増設の米國ベロイト社製百八吋長網運轉開始。富士バルブ株式會社(資本金五百萬圓)成立す。富士製紙池田の亞硫酸バルブ工場を分離せしもの。日本バルブ會社取締役渡邊登三郎、近藤修孝、監査役望月萬次郎三氏辭し、前者に木村莊次郎、岡景、後者に齋藤鐵三郎三氏を選任。東京京橋區南紺屋町に日本強靱紙製造株式會社(資本金二十萬圓)設立、取締役白石、坂齋、小久江、石井の諸氏。今泉製紙第二工場(靜岡縣富士川町)の蒸氣罐爆發し死傷者三名を出す。十一月 千代田製紙株式會社(資本金二百萬圓)成立、取締役(社長)三岩彌吉、稻茂登三郎、酒井幹雄、高山養坪、清浦豊秋、(常務)秋田孝一、事務三宅重也、監査役日高榮三郎、橋本太吉、小倉善右衛門、千住町

二年の頃より板紙業を起したる後、十數年間此二社が板紙獨占の感があつたが、二十八年三月に日本板紙販賣聯合會社が此兩社の競争を避け、一手販賣機關ともしも數年を出して同合會社は解散を見るに至り各店自由販賣となつた。四十四年の頃再び富士製紙、東京板紙、北越製紙、西成製紙、岡山製紙、美作製紙の七會社の共同販賣機關として株式會社共同板紙販賣所を設けたりしも新設同業者の競争が著しく亦も各社の自由販賣に放任するに至つた。

の西川製紙所を買收せしもの。蕨陽製紙所開業式を舉行す。東京毛布株式會社(資本金二百萬圓)成立、本社及工場千葉縣市川町、取締役川村小原、池上、小野田、三谷の諸氏、製紙用フェルトを製造。ミカドマツチ株式會社(社長大川平三郎)紙類製造に目的を變更し武藏製紙株式會社と改稱。富士製紙事務取締役穴水要七氏衆議院議員補欠選挙の結果美事當選す。北越製紙新潟工場、碎木バルブの製造を開始。日本紙器製造會社蘆石工場の鈴木製作所製四十八吋圓網運轉開始。大連市浪連町に滿洲製紙株式會社(資本金五十萬圓)設立、取締役(社長)河邊勝内田鎮一、神崎宇多郎、山田三平、安承生の諸氏。三菱製紙高砂工場長藤野鑄造氏東京出張所詰となり、技師二國三樹三氏工場長となる。

大正八年	會社數 一二	製造量 五九、四、七六	輸入高 四〇、六、九八
	運轉工場數 二五	販賣量 四七、〇、三、六三	製紙バルブ 一〇、六、七、〇六
	抄紙機 八三	販賣率 九七、五	印刷料紙 三〇、二、四、〇〇〇
	板紙輸出高 大正二年 五、二、五順		筆記用紙 七、六、六、八元圓
	同三年 三、三、三順		同四年 三、五、五、〇〇封
	同四年 三、六、四圓		

大正八年社會記事

佛國ヴェルサイユに講和會議開かる(六月八日)巴黎郊外ヴェルサイユ宮殿の式場鏡の間に集まるもの交戦各國の全權、外四名委に舊古の世界大戦の講和條約は締結された午後三時十分議長クレマンソーの「本條約の嚴格履行を期さねばならませぬ」とした宣言の後、二十二ヶ國の全權は順次調印し終つた。我外交史上記念すべき調印は全權西

一、七、九六噸 四三、六八噸 同 五年 三三、五八噸 九六、二九噸 同 六年 三三、二九噸 一、三、三三噸 同 七年 三、八四噸 四、六四、〇五噸 同 八年 一四、一〇噸 二、九〇、八三噸 同 九年 一五、一〇噸 三、五二、八七噸	和紙の種類 典具紙、西の内紙 鼻紙、雁紙ナブキ ン紙、コッビー紙 、東京紙、薄葉仙 花紙、琴木漣入園 寫紙、吸墨紙、防 寒紙、半紙、半切 紙、蠶紙、書院紙 封筒紙、巖石紙、	一、九四、五八噸 圖書用紙 三、八、六六封 三、七、三三封 吸取紙 八二、五六封 一、五、八八噸 濾紙 四、四〇封 一、九、二二噸 包裝及燐寸用紙 一四、六三、三三封 三、九四、七六噸 唐紙 二〇三、八八封 四、九三噸 模造日本紙及チ ツシユペーパー 一、五、七、〇六封 四、九三噸 模造羊皮紙 二、九四、六六封 一、五、七、五五噸 其他の紙 三、四八封 三、七〇噸 板紙 七、八、六、五三封 一、〇、五、九六噸	紙機を動かして板紙を抄く 三月 富士製紙株式会社は北海興業會社を併合し、三百七十五萬圓を増し、資本金二千四百萬圓となる。北越製紙株式会社新潟工場は新に増設した第二號長網抄紙機にて印刷用紙を抄造す。王子製紙株式會社取締役兼大阪工場長坂内孫六氏死去享年四十九、藏前高工機機科の出身。 四月 王子製紙十條工場に新設したる、米國バグレイ會社製八十六吋長網抄紙機第二號(現今の第一號)完成し、操業を開始す。王子製紙會社豊原バルブ工場にては九十八吋長網抄紙機を動かして、包裝用紙の抄造を始む。王子製紙株式會社は樺太西海岸野田の地にバルブ工場を新設す。現在の野田工場之なり。西成製紙會社、從來資本金卅萬圓を一躍二百五十萬圓に増資す。日本加工製紙會社、從來の千住町中組の手工工場より現在の王子町十條工場に移る。王子製紙株式會社堀越壽助氏同社大阪工場長に轉任す。大正七年の創立に係る秋田製紙會社操業開始社長田中隆三、専務石田信助、佐藤富吉、辻良之助、山本留次の諸氏取締役となる。日本紙糸紡績會社は、神奈川縣小田原町在多古に抄紙工場を新築し、杉浦製六十吋圓網抄紙機を動かして、三極薄葉紙の抄造を開始す。現今の小田原製紙株式會社小田原工場これなり。 五月 日本製紙會社(東京府岩淵)操業開始、八十六吋長網抄紙機印刷紙抄造。東北板紙會社では昨年八月以來米國製長網抄紙機にて、薄紙を抄造せしが、最近營業不振につき操業を中止す。東京府下千住町の東京製紙も同様原因にて操業を中止す。鴨綠江製紙會社成立す、資本金五百萬圓とし取締役に大倉喜八郎男、大川平三郎、田中榮八郎、長谷川太
---	---	--	--

(四四)

岡寺公榮公によつてされた。
○本大王藤去○南洋諸島領有○都下新聞罷工の爲め四日間休刊○暴利取締施行
三月 農務省山林局は本年始めて我が木材バルブの製造を調査し大正二年以降の統計を發表す(稻葉製板紙の市價暴落し、本年一月六十圓となりしを以て關西の當業者十一會社は一ヶ月間全部の操業休止を申合すに至る)
四月 全岡板紙業者聯合會に於て數回會議せる一ヶ月一齊休業案は岡山製紙會社の反對にて、終に不成立となる
五月 東京洋紙商同業組合を解散し、新に東京紙商同業組合を組織し和紙商を組合員に編入す、組合長に岡田來吉氏選舉せらる
七月 平和展覽會東京市に於て舉行

元結紙、杉原紙、株券紙、辭令紙、額面紙、水王紙及青土佐紙、詠及紙、掛圖紙及厚手圖引紙、四福斷紙、薄延紙、和唐紙、水墨紙、吳服包紙、小羽紙、尺表紙、防火紙滑帳紙、泉貨紙、障子紙、傘紙、雁皮紙、三極紙、綿セルロイド原紙、竹セルロイド原紙、竹細川紙、鳥の子紙、麻布紙、竹紙、朝鮮詩箋紙、朝鮮百紙、千年紙、香川榮水紙、吉野紙、奉書紙、和紙の種類は左の如く主なるものゝみても五十種以上に達するのである而して和紙種類の中て一般に需要さるものは障子紙半紙其他用箋紙等で此外奉書紙及辭令紙の如き高價の	輸出高 製紙用バルブ 一、一〇、〇噸 印刷料紙 三、五、四、六六封 六、四、一、三三噸 煙草用紙 三、七、七、三三封 二、四、八、〇五噸 鳥の子紙 四、九、〇、〇〇封 一、八、六、八八噸 連史紙 八、九、〇、一〇〇封 二、三、〇、二二噸 包裝用紙 四、七、五、五三封 一、三、〇、四八噸 紙 一、五、八、〇〇噸 其他の紙 五、四、三、三三噸 雁皮紙及薄葉紙 七、〇、六六封 六、四、四四噸 吉野紙及典具紙 三、六、〇、八〇封	六月 東京日刊新聞業者は、新聞用紙、値上問題に關し、製紙業者側に向つて、挑戦を試みたが、農商務大臣山本達男氏の仲介により和解す。大川平三郎氏富士製紙の社長となる、前社長窪田四郎氏辭職。日本紙器製造株式會社(日本紙業の前身)板紙の製造を開始す。北海道十勝國中川郡にバルブ會社設立の件を其の筋に出願す 七月 東京板紙會社は株式總會に於いて、重役改選をなし、田中榮八郎氏小野連三氏らが取締役に選ばれる。王子製紙會社大阪工場長堀越壽助氏取締役に上げらる。東京板紙會社、資本金三百五十萬圓を五百萬圓に増資して、東京南葛飾郡に工事中の工場建設に當つ。奈良縣五條町では石田水藏、栗山東作、村井眞雄諸氏が發起人となり、大和製紙株式會	十月 第一回國際労働會議派代表鎌田榮吉等出發す。東京大阪間に始めて郵便飛行を試む 十一月 世界大戰講和條約正文發表。全世界に流行したため世界風と稱せられた感冒が我國にも入つて全國に蔓延、罹病者算を知らず猖獗を極めた。○松本訓練の殉職(十一月二十日)東京龜町町區水田町小學校児童が府下井ノ頭公園に遠足の際、過つて玉川上水の激流に墜ちた故へ子を救はんとして却つて溺死を遂げた同校訓練松本虎雄の殉職は、眞に教育家の龜鑑として、その美しい最期を稱へて描かれた
--	--	---	--

(四五)

<p>塊國 一五、四〇噸</p> <p>生産制限 大正九年十二月一日から日本製紙聯合會では毎月二割の生産制限を實行することとし、以て市價の維持を圖り、業者の安定に資し、同時に輸出紙に對して補助金を支給し極力ストツクの消化に努めた。二期制限の効果は稍々見るべきものがあつた、即ち生産制限の實際行はれた、大正十年は九年に比して三千五百五十封度を減し輸入減と共に相當減少された事になつて居る。</p>	<p>包裝及燐寸用紙 一三、五五、〇〇封 五、八六、二五圓</p> <p>唐紙 一八、四、五七封 一三、〇、六圓</p> <p>模造日本紙及チツシユペーパー 四、三九、九三封 一、五五、三〇圓</p> <p>模造羊皮紙 三、五、四〇〇封 一、四、七、七圓</p> <p>其他の紙 四、三、二六封 一、五、八、八圓</p> <p>板紙 五、七、六、四〇封 一、三、六、一、七圓</p>	<p>輸出高 製紙用バルブ 八、一、八〇噸 一、九三、七四圓</p> <p>印刷料紙 一、四、三、六、五三封 五、九二、七四圓</p>	<p>四月 熊野製紙會社新工場に増設せし、大阪山澤製六時、長網抄紙機は印刷用紙の抄造を開始す。現王子熊野工場、静岡縣下の中小製紙會社は一時、好調子たりしが、亦も不況に襲はれ續々として倒れ、遂に無期同盟休業をなす。當時の静岡縣下の中小製紙會社を列記、此會社中には社稷今尙隆々たるものあり、其後存在すら明らかならざるものあり、參考迄に當時活躍してゐたものを記すと、泉製紙、駿富製紙は富士郡原田村に、今泉製紙、岳南製紙は富士郡今泉村に、同分工場は原郡富士川町に、興津川製紙は原郡興津町谷津に、清水製紙は駿東郡清水村に、旭製紙は原郡蒲原町に、吉永製紙は富士郡吉永村比奈に、原町製紙所は駿東郡原町に、高野製紙所は駿東郡長泉村に二工場を、原田製紙、駿陽製紙は共に富士郡原田村に、東海紙料は志田郡島田町に、富士白糸紡績は富士郡白原村平野に、東海製紙は富士郡岩松村松岡に、佐野熊ナフキン工場は富士吉原町に、堀關、深澤、川嶋、高田の四製紙工場は富士郡今泉村今泉に、大正工業は富士根村に、興津川水力製紙は原郡小島村小島に、富士川製紙は原郡原原村に、西山佐野製紙は原郡山比町に、巴川製紙所は安倍郡入江町に、大里製紙、三交商會は安倍郡大里村に駿東製紙は駿東郡長泉村下長窪に、駿豆製紙は田方郡戸田村に、馬場製紙は引佐郡玉村の場に、賤機製紙は静岡市水落町三丁目、佐野製紙は静岡市井ノ宮町に、吉原製紙は富士郡今泉村に、夫々設立され興亡起伏をくり返してゐた。</p> <p>五月 樺太工業會社眞岡工場の米國製九十六吋長網抄紙機が運轉を開始す ▼東洋製紙株式會社岩淵工場の杉浦製八十六吋長網ヤンキー二號機洋紙抄造を始め▼大日本製紙會社資本金一千萬圓)成立す、取締役に</p>	<p>男三八、九〇三、一九五 人女三八、〇八五、一八 四人と判明す○明治神宮 浩營——明治大帝の御聖 徳を慕ひ奉る青年團員は 神宮浩營の礎、全國より 集り來つて努力奉仕をな し、皇室尊榮の美はしき 國民性を示した○明治神 宮座敷十一月行はる○ 八年五月以來日貨排斥を 決行せる上海市場は、本 年二月瑞典及米國より紙 の供給仰ぐに至る。○歐 洲戰亂中並に戦後の好景 氣の反動は今春より其微 候を示したるが後半年に 入るに先だち、世界的に 深刻なる不景氣を來し一 般商工界に一大衝動を生 ずるに至る</p>
<p>表によつて示せば (單位封度) 大正九年 製 五五、九六、三九 販 五五、二〇、一、天 過 〇、七、七、三三 在庫指數 四三 同十年 製 五五、〇〇、五八 販 五五、三九、三二 不 一、六、八、九、三三 在庫指數 三六 同十一年 製 六元、三三、二二三 販 六元、五、六、五八 不 八、三、三、五、六 在庫指數 三六 同十二年 製 七元、四、八、〇、〇 販 七元、八、五、一、八 過 一、九、五、五、六 在庫指數 二五 同十三年 製 八元、七、八、三、三 販 八元、八、九、七、五 過 一、九、五、五、六 在庫指數 二五</p>	<p>煙草用紙 二、九八、二、三三封 二、三、四、一、八圓</p> <p>鳥の子紙 三、五、六、八、〇〇封 一、五、九、一、〇圓</p> <p>連史紙 一、三、三、八、〇〇封 三、四、八、二、五圓</p> <p>包裝紙洋 五、四、九、〇、〇〇封 一、六、七、二、七圓</p> <p>壁紙 一、七、五、九、九圓</p> <p>其他の紙 五、〇、五、〇、九圓</p> <p>雁皮紙及薄葉紙 九、九、七、三、三封</p> <p>吉野紙及典具帖 一、一、七、七、三三圓</p> <p>半紙及美濃紙 九、七、〇、三、七封 五、七、八、四圓</p> <p>塵紙 九、七、〇、四、〇〇封 四、八、一、四、七圓</p>	<p>六月 三菱製紙會社、資本金五百萬圓を倍加して、一千萬圓とす▼中央製紙會社須原工場は、同月四日午後四時に第一號機より出火、事務所、倉庫を除く、工場十二棟全焼す▼富山縣伏木港所在の、新宮商行、伏木木材工業所は、碎木バルブの製造を開始す▼樺太工業株式會社、眞岡工場は百八吋長網抄紙機二臺を設置し、模造紙、印刷用紙を抄造す。樺太材を以て製紙の始めなり▼新高製紙會社(資本金三百萬圓)成立す ▲王子製紙會社資本金二千五百萬圓を倍加して、五千萬圓とす▼王子製紙株式會社取締役藤原銀次郎氏が新社長になり新たに井上憲一氏足立正氏、兩人が取締役に列す▼日本製紙會社、資本金を倍加し、二百萬圓とす</p> <p>七月 舊北海道興業株式會社釧路工場を、富士製紙會社の手によつて、改築し、阿寒湖の水力を利用し、碎木バルブ機六臺を、三千六百馬力の電力により、毎月三百萬封度のバルブ製産能力を發揮す▼王子製紙株式會社大阪工場に増設したる、米國製バグレイ社七十四吋薄紙用長網機二臺は卷煙草用紙の抄造を開始す▼三菱製紙會社高砂工場に増設された、七十四吋圓網抄紙機第九號機運轉を開始す▼九州株式會社小倉製紙所は、同月十日午後九時、第二號抄紙機より出火、同室及び、ピター室を焼失す▼燕麥稈を原料とし、バルブ及び製紙を目的とす、</p>	<p>に於ける木材バルブ輸入の趨勢は、數量に於て大正五年迄は年々増加の傾向を示し、同六年に至り急に減少し、同七年を漸く前年の約二倍に止り、同八、九年には再び恢復の趨勢を示したるも、同十年には又前年より約一割七分を減退せり。然るに同十一年に至り再び激増し、約六萬四千四百噸の巨額に達したり。一方其の單價に於ては、元年以來九年迄年々騰貴を示し、同十年より急に低落し始め、十一年には益々安價となり、一斤當り僅かに金十錢五厘内外にして大正五、六年頃の單價と相匹敵するに至れり。而して木材バルブの輸入國は瑞典、加奈陀及北米合衆國の三箇國を主として、從來相互に競争し、</p>	

過 三、七〇、七〇〇	東洋紙 四、二〇〇封	北海道製紙株式會社(資本金一千萬圓)設立計畫成る、後不成立に了る。	時々盛衰あり。大正十年には加奈陀品のみ著しく激増し、其の首位を占め、瑞典品に次ぎたる状況なりしに、同十一年に入りては瑞典品は加奈陀品を凌駕し、其の一位を占め、加奈陀品に次ぎ、北米合衆國、諸威の順となれり。
在庫指數 三〇	其他の紙(日本紙) 二五、七九圓	八月 日本板紙聯合會は、六月以來若干、一般板紙の操業休止を申合せたが、更に本月廿日より、一ヶ月間海外輸出品及色板紙の外抄造を休止するに決す	木材パルプ輸出 本邦産木材パルプの海外輸出は、數量に於て大正六、七年兩年は何れも四千噸内外を維持し、同八年には激減し、僅かに一千百餘噸となり、同九年には一躍八千八百八十噸の多額に達したるも、同十年には又一千百餘噸に減退し、同十一年に至り輸出極めて不振となり、僅かに三千餘噸に過ぎず。
同十四年 製 五、七三、七〇〇	紙 三、五、一、七〇圓	九月 北越製紙會社は、専務取締役に覺張治平氏、常務取締役に田村豊太郎氏を互選す	
販 八、六、三、二七〇	紙 計 七、八、九、六、二〇封	十月 富士製紙會社江別工場は、米國バグレイ社製百八十六吋長網抄紙機(第五號)を増設し、新聞用紙の抄造を始む。大正九年より今日迄我國最大抄紙機を以て誇りとす▼東亞製紙會社(資本金三百萬圓)成立し、國府津の旭製紙會社を買収す▼印刷局は學術教習所を設け、専門學校程度とし、民間よりの、委託生も入學させ、印刷、製紙兩科共に豫科二年、本科三年とす	
過 三、七〇、七〇〇	紙 計 二、四、四、五〇圓	十一月 三月十五日諸株式暴落、財界不況の影響は紙業界は遅れて十一月頃より始まる▼王子製紙會社は、富山縣伏木港の北海工業會社を合併(現今王子製紙、伏木工場之なり)▼山口縣厚狹郡小舟の馬關製紙會社(資本金八十萬圓)は杉浦製六十吋長網抄紙機を設置し、包装用紙の抄造を開始す▼大阪の東洋製紙株式會社は、静岡縣岩淵の東洋加工製紙會社と合併す(現今の王子製紙岩淵工場之なり)▼日本製紙聯合會は洋紙二割減産を決す	
製 は製造量	紙 計 七、八、九、六、二〇封	十二月 北越製紙會社は、千葉縣東葛飾郡市川町の新工場、落成し、山澤製八十六吋長網抄紙機一臺を設置し、印刷用紙の抄造開始す▼中央製紙會社、火災後工場完成、優秀なる新器具を設備し、操業を始む▼堀内	
販 は販賣量	紙 計 三、二、七、〇、六、九圓		
不 は不足	紙 計 三、二、七、〇、六、九圓		

大正 十年	會社數 一一	製造量 五、四、四、三、六八封	一月 東洋製紙會社の静岡に於ける岩淵工場にて瑞典エツシャーウイス社製長網七十三吋抄紙機にて巻煙草用の抄造紙を開始▼静岡島田町の東海紙料會社、資本金五十八萬圓に増資▼岐阜に太陽製紙會社(資本金五十萬圓)も網ヤンキー一台運轉開始。名古屋の金森島吉氏が面白半分設立した會社であつた今の華陽製紙の前身▼山形製紙會社(資本金五十萬圓)設立し五十三吋圓網ヤンキーを設け、和紙の抄造を始めしが汚水の爲市民より反感を買ひ其筋へ苦情を訴ふと云ふ状態であつた。
一月より 二割減産	運轉工場數 二八	販賣量 五、三、三、九、三三封	二月 九州小倉市外に於ける株式會社小倉製紙所(現王子製紙小倉工場)は資本金百五十萬圓を五百萬圓に増資す、▼福井市に於ける北陸製紙會社専務取締役佐々木五平氏は株主の告訴に依り、福井分監に收容され大日本海草パルプ會社の株主廿餘名は、東京區裁判所に押掛け彼等重役の不正行動を摘發した▼樺太工業株式會社泊居工場(現王子製紙泊居工場)は同月廿二日午前一時頃、亞硫酸パルプ製藥室より出火し、事務所及倉庫を燒す他、第一第二工場全部を燒失せり、當時同工場は毎月約二千噸のパルプ製産能力を有してゐた。
不況時の市場 在荷 在庫品 (指數)	抄紙機 九三台 (八、六、七、七吋)	販賣率 100.1	三月 東京日本製紙株式會社は昨年八月、乾燥筒破裂以來通常長網にて、印刷用紙の抄造を開始。▼日本製袋工業株式會社、東京市瀧野川に設立さる、社長小西政太郎氏▼兵庫縣神崎郡豊富村、市川製紙會社圓網ヤンキー七六吋運轉開始。社長牛尾安麿氏
大正九年末 一三〇、五八、五〇〇 (指)	輸入高 製紙用パルプ 三、七、七、四噸 八、六、九、三三圓	印刷料紙 二〇、九、五、一、〇〇封 四、四、八、〇、四圓	四月 富士製紙株式會社は經濟的經營を行ふべく、操業短縮の際、大阪市
同十年末 七、五、九、〇〇〇 (指)	圖書紙用 一、四、〇、〇〇〇封 一、四、〇、〇〇〇封	筆記用紙 一、七、〇、〇〇〇封 一、七、〇、〇〇〇封	
同十一年末 七、六、三、五〇〇 (指)	吸取紙 二、六、六、五五封 三、三、七、五五圓		

<p>六年八月には二十四錢、二圓五六十錢の更紙が六年来には七圓五六十錢と何れも差きの高値を突破して、此先まだ、凄みを感ぜしむるの状勢であつた。茲に於てか日本製紙聯合會では大正七年中に二、五、七、の三月に亘り紙料、石炭、其他生産費の暴騰を理由として三度び紙價の引上げを斷行するの止むなきに至つた。今當時の紙料、石炭の生産費について、其昂騰状態を示せば、(一封度につき)(單位錢)</p> <p>大正五年 六年 七年</p> <p>輸入バル(碎木) 五、四、一、一、七、五 紙料(化學) 七、一、八、五、二、〇、〇 内地産(碎木) 五、五、六、九、八、〇、〇 ル(紙料) 化學 二、〇、三、〇、二、五、〇</p>	<p>半紙及美濃紙 七、九、〇、〇封 三九、八、五、〇圓</p> <p>紙 六、七、〇、〇封 三六、八、八、〇圓</p> <p>其他の紙(日本紙) 二、七、〇、〇圓</p> <p>板 紙 三、三、八、三、三封 一、四、五、三、七圓</p> <p>紙 計 八、九、七、三、三封 一、八、九、元、三、二圓</p> <p>紙製品 六、五、八、八、九圓</p> <p>計 二、五、五、五、九圓</p>
<p>九月 二日午後五時頃伏木板紙會社工場より發火し、蒸煮室、薬切室、石灰室を焼失す。東京府岩淵町、日本製紙會社にては、本月廿日頃より職工中にデモンストレーション起り、會社側に對し種々不良行為に出でたるに由り、王子警察署では主動者たる不良分子數名を檢束す。印刷文化展覽會は東京お茶の水東京博物館に於て、同月廿五日より十月十五日迄開催されたり。</p> <p>十月 東京府龜有驛の、大日本製紙會社は、資本金の融通不能に陥り操業を休止するに至る。王子製紙會社、社長藤原銀次郎氏は英米視察團に加はり、福喜多精之助氏を隨員とし、同月十五日横濱出帆の鹿島丸にて、歐米視察の途に就かる。富山縣伏木港の伏木製紙會社は九月二日に板紙抄紙工場を除く外焼失し、其後復興に努力したるも遂にその効無く、十五日限り全職工を解雇なし閉鎖す。大阪市の合名會社大森洋紙店は大正九年の暴落につまづき三月以來整理中のところ、この程會社を新設し業務一切を新設會社、大森洋紙店に委ねることとなつた新設會社の取締役は大森治三郎、野々口虎男、井上憲一、大森長四郎</p>	<p>九月 二日午後五時頃伏木板紙會社工場より發火し、蒸煮室、薬切室、石灰室を焼失す。東京府岩淵町、日本製紙會社にては、本月廿日頃より職工中にデモンストレーション起り、會社側に對し種々不良行為に出でたるに由り、王子警察署では主動者たる不良分子數名を檢束す。印刷文化展覽會は東京お茶の水東京博物館に於て、同月廿五日より十月十五日迄開催されたり。</p> <p>十月 東京府龜有驛の、大日本製紙會社は、資本金の融通不能に陥り操業を休止するに至る。王子製紙會社、社長藤原銀次郎氏は英米視察團に加はり、福喜多精之助氏を隨員とし、同月十五日横濱出帆の鹿島丸にて、歐米視察の途に就かる。富山縣伏木港の伏木製紙會社は九月二日に板紙抄紙工場を除く外焼失し、其後復興に努力したるも遂にその効無く、十五日限り全職工を解雇なし閉鎖す。大阪市の合名會社大森洋紙店は大正九年の暴落につまづき三月以來整理中のところ、この程會社を新設し業務一切を新設會社、大森洋紙店に委ねることとなつた新設會社の取締役は大森治三郎、野々口虎男、井上憲一、大森長四郎</p>

<p>大正十一年 會社數 一二 運轉工場數 三〇 抄紙機 一〇〇〇 (九三三台時)</p> <p>製造量 六元、四、三、四三 販賣量 五元、五、八、七五 販賣率 一〇一、三、三</p>	<p>松脂(百斤) 七、五、〇、〇圓 曹達灰(同) 三、〇、〇、〇圓 苛性曹達(同) 一、八、〇、〇、〇圓 硫黄(一噸) 四、〇、〇、〇圓 石炭(一萬斤) 大、〇、〇、〇圓 右の如く何れも異常の騰貴を示し即ち硫黄は約二倍、紙料、石炭は三倍以上、曹達灰、苛性曹達は五倍内外の高値に、はね上つたのである。紙價の三回に渉る値上げも萬止むを得ない結果と見なければなるまい、更に勞銀の昂騰の著しものありしことを忘れてはならぬかくして、大正五年に於ける、製紙販賣業者の協定も其効果永く續かず、大正六年九月一日施行されたる、暴利を目的とせる賣買の取締役法も、同九月二十日施行されたる、印刷紙の輕出製限令も、其効薄く、我紙價には何等(下段へ)</p>	<p>高田井之助諸氏が就任した。</p> <p>十一月 日露興業株式會社(資本金五百萬圓)は、堤清六氏の山林事業を繼承し、木材バルブ、製紙、鑛業を目的とし、成立さる。取締役は南新吾、堤清六、三浦良次、手塚常次郎、監査役は藤本夏生、磯村李太郎諸氏と決定す。名古屋金森洋紙店整理後事業全廢、大債權者大阪大倉洋紙店より、小島正雄氏分れて、金森の地盤に愛知洋紙店を設立す。東海紙料會社取締役梅浦建吉氏辭任され後任に數田春魚氏が擧げらる。</p> <p>十二月 王子製紙會社は資本金五千一百萬圓に増資斷行、愈々隆運に赴く。この月王子製紙朝鮮製紙會社を合併し王子製紙朝鮮工場と稱す同工場は亞硫酸バルブを専業となす。火災後の樺太工業會社眞岡工場は、コンクリート建築に改造し、本月より營業を開始せり。富士製紙會社銅路工場與北海興業會社の抄紙機四台の設置完成し、先づ神崎工場より移轉せる米國製長網ヤンキー九十五吋、活動を開始す。日本製紙聯合會員は一月に發表せし、二割操業短縮を實行したる結果、本年度、總製紙量五億三千四百四十五萬封度となり、前年より約三千四百四十八萬封度の減少となる。</p>	<p>(上段より) 實質的影響を齎らすことなく、亦將來の紙價にもさした關係が無かつた、殊に印刷紙の輸出總額は如何に多大に見積つても一ヶ年たか、百四十五萬圓位であつたから、此の判限令は結局市場の氣配に一時的の影響を與へた外には、大正十年十一月一日に之を撤廢するまで、殆んど實質的の効果を見なかつたのである。</p>
<p>一月 十三日共同洋紙合資會社、業務擔當者岡田來吉氏長逝。享年七十二歳。九州板紙株式會社解散。富士製紙株式會社、銅路工場の第三號機大島製鋼所製百吋長網運轉開始。日本紙器會社、資本金五百萬圓とし、取締役に社長鳩山一郎、専務植田隆、常務川崎清男、齋藤河、監査役に向井俊雄、越山太刀三郎、原田虎太郎諸氏が就任。大阪府西成郡、東洋製紙株式會社、職工總罷業。本月中燒失せし工場神奈川縣吉濱村</p>	<p>○一月大隈公葬去 ○二月山縣公葬去 ○二月山東憲兵條約調印 ○二月國務院調査の結果 日本總財產額八百六十億萬圓と決定す</p>		

煙草用紙 三、九〇、〇〇〇封 三、五元、七角四圓	鳥の子紙 三、二四、〇〇〇封 九、五元、八角四圓	連史紙 二、五元、七角七封 四、四元、六角五圓	包装用紙 八、八元、二角〇封 一、四元、五角〇封	其他の紙 二、二元、六角五圓	雁皮紙及薄葉紙 四、九元、六角〇封 四、二元、三角〇封	吉野紙及典具帖 一、八元、六角〇封 二、八元、五角〇封	半紙及美濃紙 三、四元、三角〇封 三、五元、五角〇封	座紙 九元、一角〇封 三、四元、七角〇封	其他の紙日本紙 一、八元、六角〇封	板紙
小 〇、五元、一角〇	三號判 一、二〇元、七角	清判紙 一、八元、二角〇	木津川西ノ内紙 一、二〇元、一角〇	中 一、〇〇元、一角〇	丈長紙 一、六元、二角〇	半判紙 〇、八元、二角〇				

震災の被害地

▽震災に見舞はれた大正十二年九月一日には東京に於ける營業倉庫は元より、大小洋紙商の倉庫も、印刷業者や出版業者や其他需要者の倉庫も殆ど皆焼失したから、洋紙類の在貨は一掃されたのみならず、其製品たる書籍や雜誌類も亦各營業者の手許で大概燬となつたから、大正十三年には、印刷機關の回復、諸會社や諸商店の復興と共に、洋紙類の賣行が頗る旺盛であつた。特に驚くべき發達を示したのは全國の新聞紙類であつて、震災前一月の消費が平均一千九百萬封度であつたに、大正十三年には平均二千四百六十萬封度となつて居る。而して各製紙工場

七月

株式会社丸王商店(資本金十萬圓)設立、取締役、野々口虎雄、岡本與四郎、中島三郎、監査役、井上憲一、岡本彌兵衛、諸氏就任、王子製紙會社都島工場製、機械漉半紙の販賣を目的、東京府王子町豊王製紙會社、昨年堀江傳三郎氏、専務取締役就任以來、整理に盡力するも職工賃金支拂不能となり、六月より遂に休業(同工場は六十時、七十時圓網抄紙機を設置)▼名古屋市外新川町、名古屋製紙會社解散▼富山縣石動町北國製紙會社、東海鐵工會社製作の抄紙機使用の爲、缺損となり社内に紛擾起る▼富山縣新川郡五百石町立山製紙會社(不況の爲休業中)拂込資本金十八萬五千圓に半減し重役等、二萬圓提供して解決す、社長金山從章氏辭任、深井榮次郎氏を専務取締役とし形勢挽回す▼同月二十日皇太子殿下、王子製紙會社北海道苫小牧工場に御成り。

八月

共同バルブ會社(資本金三百萬圓)成立、富士、王子、樺太工業、鴨綠江各製紙會社製、亞硫酸バルブ販賣事業。取締役、社長田中榮八郎、藤原銀次郎、大川平三郎、高島菊次郎、井上憲一、藤田好三郎、長谷川太郎吉、穴水要七、高橋貞三郎、監査役、梅浦建吉、酒原啓藏、田中治朗、支配人宮下清彦諸氏就任▼富士製紙會社神崎工場、アートの紙の抄造開始▼山形製紙會社(資本金五十萬圓)松井鐵工で改造の六十時長網抄紙機、印刷用紙の抄造開始▼鴨綠江製紙會社、滿洲安東縣の亞硫酸バルブ工場、一日以來休業す▼鳥取抄紙會社、株式總會の結果缺損の爲、資本金三十二萬圓を七萬五千圓に減資を可決、社長山本藤助氏、抄紙機六十二吋、三十二吋兩圓網▼元江戸川製紙、東京色紙兩社合併の現、江戸川製紙株式會社(資本金四十五萬圓)資金缺乏し、休

洋紙の寸法

四六判	三、六元、二角〇
菊券判	三、一〇元、一角〇
地券判	一、九元、二角〇
八ツ判	三、〇〇元、二角〇
間二合判	三、一〇元、二角〇
平紙判	一、一〇元、八角〇
模紙判	五、八〇元、三角〇
ハトロン判	三、一〇元、四角〇
同五才判	三、二〇元、三角〇
帳簿紙判	二、七〇元、三角〇
雜記紙判	二、一〇元、二角〇
木炭紙判	一、六〇元、一角〇
フルース判	一、四〇元、二角〇
艶紙判	一、三〇元、二角〇
石艶判	一、八〇元、二角〇

(其の一)
尺 尺
三、九〇、〇〇〇封
九、五元、七角四圓
紙計
大、二五、〇天封
一、六、七元、五角圓
紙製品
六、一七、〇五角圓
類計
三、三九、〇五角圓

九月

業▼太陽強靱製紙株式會社(資本金四十萬圓)成績不良の結果、工場賣却、解散す▼滋賀縣大津市近江板紙會社、職工解雇▼岡山縣西大寺製紙會社(機械漉和紙)二十五日午前九時出火、工場二棟、民家十一戸全焼。
▼休業中の大阪市外千舟町、日本製紙會社(資本金一百萬圓)田島志一氏、經營を擔任、再び操業開始▼北陸伏木町所在の株式會社新宮商の伏木工業所亞硫酸バルブ工場完成し、蒸着を開始▼紀州新宮の熊野製紙會社新宮工場、亞硫酸バルブの製造休止▼日光製紙會社(資本金二百萬圓)の宇都宮市外白澤村板紙工場は六月火災後の、復舊工事終り、再び活動開始▼朝鮮新義州在、朝鮮製紙會社、現王子製紙朝鮮工場)亞硫酸バルブ工場は當分休業す▼金子貞次郎氏等創立の東京千住町、中外製紙會社(資本金百五十萬圓)營業不振の爲解散となる▼大阪市順慶町、株式會社大森洋紙店、業務涉々として香しからず、株式總會にて解散を可決、大森洋紙店は中井商店と及び稱せられ、我國洋紙商の元祖とも稱すべき商店なりしに、九年以來の瘡痍癒せず解散となり、一般より惜まれる。
十月 伏木港の北海工業株式會社、常務取締役に河原十代雄氏就任▼名古屋市愛知縣商品陳列館にて、紙業新聞社主催にて全國紙業博覽會開催、會長清宮氏、副會長西嶋東洲氏。
十一月 日本紙器製造會社都島工場、各抄紙機据附移轉終了、四十五吋板紙圓網は八月、九十八吋板紙圓網及び米國製百二十吋長網は九月、百二十八吋長網ヤンキーは本月各々完成▼富士製紙、樺太工業株式會社社長大川平三郎氏、製紙業界の功績に依り、綬綬褒章を下賜さる。

大正十二年		會社數		製造量		販賣率		輸入高		製紙用パルプ		印刷料紙		筆記用紙	
アイボリー判	一、九〇、二五〇	製紙工場數	一一	販賣量	七五、五八〇、三五封	販賣率	七九、八四、五六封	製紙用パルプ	三、四、四噸	印刷料紙	六、三三、八元圓	筆記用紙	四、〇〇、四〇封	一月より一割操短を解除す	一、〇三、五元圓
生ボール本判	二、一〇、二五〇	抄紙機	二九	販賣率	七九、八四、五六封	輸入高	三、七三	製紙用パルプ	三、四、四噸	印刷料紙	六、三三、八元圓	筆記用紙	四、〇〇、四〇封	一月より一割操短を解除す	一、〇三、五元圓
同新判	二、〇〇、二五〇	抄紙機	二九	販賣率	七九、八四、五六封	輸入高	三、七三	製紙用パルプ	三、四、四噸	印刷料紙	六、三三、八元圓	筆記用紙	四、〇〇、四〇封	一月より一割操短を解除す	一、〇三、五元圓
連史紙	二、一〇、三〇〇	抄紙機	二九	販賣率	七九、八四、五六封	輸入高	三、七三	製紙用パルプ	三、四、四噸	印刷料紙	六、三三、八元圓	筆記用紙	四、〇〇、四〇封	一月より一割操短を解除す	一、〇三、五元圓
七番紙判	三、〇〇、三五〇	抄紙機	二九	販賣率	七九、八四、五六封	輸入高	三、七三	製紙用パルプ	三、四、四噸	印刷料紙	六、三三、八元圓	筆記用紙	四、〇〇、四〇封	一月より一割操短を解除す	一、〇三、五元圓
黄マツチ大判	一、八八、四、五〇	抄紙機	二九	販賣率	七九、八四、五六封	輸入高	三、七三	製紙用パルプ	三、四、四噸	印刷料紙	六、三三、八元圓	筆記用紙	四、〇〇、四〇封	一月より一割操短を解除す	一、〇三、五元圓
中紙判	一、五〇、三、六〇	抄紙機	二九	販賣率	七九、八四、五六封	輸入高	三、七三	製紙用パルプ	三、四、四噸	印刷料紙	六、三三、八元圓	筆記用紙	四、〇〇、四〇封	一月より一割操短を解除す	一、〇三、五元圓
小紙判	一、八八、四、五〇	抄紙機	二九	販賣率	七九、八四、五六封	輸入高	三、七三	製紙用パルプ	三、四、四噸	印刷料紙	六、三三、八元圓	筆記用紙	四、〇〇、四〇封	一月より一割操短を解除す	一、〇三、五元圓
生糸四紙判	二、五〇、四、〇〇	抄紙機	二九	販賣率	七九、八四、五六封	輸入高	三、七三	製紙用パルプ	三、四、四噸	印刷料紙	六、三三、八元圓	筆記用紙	四、〇〇、四〇封	一月より一割操短を解除す	一、〇三、五元圓

十二月 樺太工業會社、資本金一千八百萬圓を増資▼日本製紙會社、臨時株主總會開會し、取締役に専務南俊二、常務松井安吉、福澤大四郎、安宅武、監査役に伊藤駿一、海野晋一、諸氏を選挙す▼佐賀縣津板紙株式會社(資本金二十萬圓)成立、取締役に社長牟田方次郎、専務鶴岡小太郎、常務渡邊睦の諸氏、機械は博多堅粕より移轉し、舊會社への同代金三十萬圓は利益金より漸次返済▼日本製紙聯合會各社、操短を廢止。

一月 王子製紙會社十條工場、第四號機、米國製八十六吋長網抄紙機動かして印刷用紙の抄造開始▼北陸伏木港に伏木板紙株式會社成立、(資本金五十萬圓)取締役に社長、淺野泰次郎、金子喜代太、木津久四郎、相談役に、淺野總一郎、大川平三郎、支配人石川七兵衛諸氏、元伏木製紙株式會社を繼承▼大川系に屬する九州製紙會社、熊本縣八代町に工場建設。中島三代彦氏其衝に當る。現に王子製紙八代工場▼富士製紙會社神崎工場にては、塗被機三臺完成アト紙専用、アト紙製造を開始す。

二月 鐘淵製紙會社(資本金五十萬圓)整理不能解散、社長内野五郎三氏

三月 ▼樺太工業會社眞岡工場、第五號抄紙機、百八吋圓網ヤンキーにて和紙抄造を開始▼大日本製紙會社、七十四吋長網抄紙機にてザラ紙抄造を始む▼大津市大津板紙會社(資本金一百萬圓)缺損二十五萬圓となり、株主間に紛擾起る▼十二日、富士製紙會社社長小野金六氏病を得て薨る。享年七十歳。

四月 九州の西板紙會社、營業開始▼東京の三菱製紙株式會社中川工場新工場の建築着手、完成後は瑞典製百十七吋長網、七十八吋長網兩機設置▼印刷局抄紙部、工場一棟落成、百十吋長網抄紙機据へつけ▼樺太鐵道株式會社(資本金一千萬圓)成立、王子、富士、樺太工業の三大製紙會社より出資す。

五月 大日本製紙會社中川工場、第二號機長網七十四吋抄紙機運轉開始▼大阪府千舟町日本製紙會社、業務不振の爲、東京の聯合紙器株式會社(資本金二百萬圓)に合併す。

六月 株式會社岡田商店成立、東京蠟燭町蕪屋商店を繼承、堀留町の服部紙店經營者となる▼大日本製紙會社、常務取締役に松井安吉氏、社長と議合す辭職す。

七月 紀州の熊野製紙會社、資本金倍加し、二百萬圓とす▼北海道池田、富士パルプ株式會社(資本金三百萬圓)は富士製紙に復歸▼中央製紙須原工場、暴風雨出水に見舞はれ三週間休業。

八月 ▼富士製紙會社神崎工場、増設の第三號抄紙機、大島製鋼所製九十四吋圓網ヤンキー運轉開始。六十四吋圓網(連史紙用)三臺は撤廢▼休業中の東京王子町の豊王製紙會社、解散、新規に、同社發起人及三氏加入都製紙株式會社の創立を計畫す▼纖維素協會、設立計畫起る、西田博太郎、西松唯一、小澤武、高田直吃、朽木綱貞、楠瀬熊治、松原行一、藤野露造、厚木勝基、朝比奈晃十、佐伯勝太郎、三浦伊八郎、諸氏發起人となる。

九月 關東大震災一日午前十一時五十八分東京を中心に關東地方に稀有の大震災あり、燒失、倒壊の會社商店及び工場數甚だ多し、王子、小倉、北越各出張所、王子製紙、王子工場叩解室、印刷局抄紙部の王子町工

選即行の大崩をかざしなから、河野廣中、尾行崎雄、小泉又次郎、横山勝太郎、大竹實一等普通選派代議士百餘名を指題者とし、午後一時爆竹の合圖諸共、萬機を連呼しつゝ、都大路を行進し、目的の坂本公園に達したのは正に午後四時廿分、此の眞摯な國民の政治的要求は遂に翌年五月五日普選法公布を見るに至らしめた

○二月露國代表ヨツフェ入京して後藤新平と會見す

○四月郡制廢止す

○十一月國民精神與に關する詔書發せらる

○大震災直後の世相

「家も財も焼けるに任せ、只一心に子孫を身に護る親の情」

「何某の立退所、御存知じの方はおへ秋下さい。」

洋紙の寸法		圖畫用紙		吸取紙		瀾紙		包裝及機寸用紙		煙草用紙		壁紙		唐紙		模造日本紙及		中ライス判	
書簡紙判	(其の二) 一、壹×一、壹	圖畫用紙	[五、五]封 七〇、八五圓	吸取紙	六、九、三[三]封 一、壹、六四圓	瀾紙	八、九、三封 一、五、八五圓	包裝及機寸用紙	三、六、四、〇〇封 四、五、三、七、六圓	煙草用紙	三、七、三封 四、七、七圓	壁紙	五、九、九封 三〇、八、六圓	唐紙	一、天、六、六封 一〇、一、〇、六圓	模造日本紙及	チツシユペーパー 四、五、三、三封 六、六、六圓	中ライス判	一、壹×二、五〇
本ケント判	一、六〇×二、〇〇	圖畫用紙	[五、五]封 七〇、八五圓	吸取紙	六、九、三[三]封 一、壹、六四圓	瀾紙	八、九、三封 一、五、八五圓	包裝及機寸用紙	三、六、四、〇〇封 四、五、三、七、六圓	煙草用紙	三、七、三封 四、七、七圓	壁紙	五、九、九封 三〇、八、六圓	唐紙	一、天、六、六封 一〇、一、〇、六圓	模造日本紙及	チツシユペーパー 四、五、三、三封 六、六、六圓	中ライス判	一、壹×二、五〇
ケント大判	二、五×三、四〇	圖畫用紙	[五、五]封 七〇、八五圓	吸取紙	六、九、三[三]封 一、壹、六四圓	瀾紙	八、九、三封 一、五、八五圓	包裝及機寸用紙	三、六、四、〇〇封 四、五、三、七、六圓	煙草用紙	三、七、三封 四、七、七圓	壁紙	五、九、九封 三〇、八、六圓	唐紙	一、天、六、六封 一〇、一、〇、六圓	模造日本紙及	チツシユペーパー 四、五、三、三封 六、六、六圓	中ライス判	一、壹×二、五〇
ケントフルス大判	二、〇〇×三、一五	圖畫用紙	[五、五]封 七〇、八五圓	吸取紙	六、九、三[三]封 一、壹、六四圓	瀾紙	八、九、三封 一、五、八五圓	包裝及機寸用紙	三、六、四、〇〇封 四、五、三、七、六圓	煙草用紙	三、七、三封 四、七、七圓	壁紙	五、九、九封 三〇、八、六圓	唐紙	一、天、六、六封 一〇、一、〇、六圓	模造日本紙及	チツシユペーパー 四、五、三、三封 六、六、六圓	中ライス判	一、壹×二、五〇
同小判	二、九〇×一、八五	圖畫用紙	[五、五]封 七〇、八五圓	吸取紙	六、九、三[三]封 一、壹、六四圓	瀾紙	八、九、三封 一、五、八五圓	包裝及機寸用紙	三、六、四、〇〇封 四、五、三、七、六圓	煙草用紙	三、七、三封 四、七、七圓	壁紙	五、九、九封 三〇、八、六圓	唐紙	一、天、六、六封 一〇、一、〇、六圓	模造日本紙及	チツシユペーパー 四、五、三、三封 六、六、六圓	中ライス判	一、壹×二、五〇
ワットマン判	二、五×三、三〇	圖畫用紙	[五、五]封 七〇、八五圓	吸取紙	六、九、三[三]封 一、壹、六四圓	瀾紙	八、九、三封 一、五、八五圓	包裝及機寸用紙	三、六、四、〇〇封 四、五、三、七、六圓	煙草用紙	三、七、三封 四、七、七圓	壁紙	五、九、九封 三〇、八、六圓	唐紙	一、天、六、六封 一〇、一、〇、六圓	模造日本紙及	チツシユペーパー 四、五、三、三封 六、六、六圓	中ライス判	一、壹×二、五〇
吸取紙判	一、壹×一、八五	圖畫用紙	[五、五]封 七〇、八五圓	吸取紙	六、九、三[三]封 一、壹、六四圓	瀾紙	八、九、三封 一、五、八五圓	包裝及機寸用紙	三、六、四、〇〇封 四、五、三、七、六圓	煙草用紙	三、七、三封 四、七、七圓	壁紙	五、九、九封 三〇、八、六圓	唐紙	一、天、六、六封 一〇、一、〇、六圓	模造日本紙及	チツシユペーパー 四、五、三、三封 六、六、六圓	中ライス判	一、壹×二、五〇
洋雁判	一、七〇×二、八〇	圖畫用紙	[五、五]封 七〇、八五圓	吸取紙	六、九、三[三]封 一、壹、六四圓	瀾紙	八、九、三封 一、五、八五圓	包裝及機寸用紙	三、六、四、〇〇封 四、五、三、七、六圓	煙草用紙	三、七、三封 四、七、七圓	壁紙	五、九、九封 三〇、八、六圓	唐紙	一、天、六、六封 一〇、一、〇、六圓	模造日本紙及	チツシユペーパー 四、五、三、三封 六、六、六圓	中ライス判	一、壹×二、五〇
九到紙判	三、〇〇×四、〇〇	圖畫用紙	[五、五]封 七〇、八五圓	吸取紙	六、九、三[三]封 一、壹、六四圓	瀾紙	八、九、三封 一、五、八五圓	包裝及機寸用紙	三、六、四、〇〇封 四、五、三、七、六圓	煙草用紙	三、七、三封 四、七、七圓	壁紙	五、九、九封 三〇、八、六圓	唐紙	一、天、六、六封 一〇、一、〇、六圓	模造日本紙及	チツシユペーパー 四、五、三、三封 六、六、六圓	中ライス判	一、壹×二、五〇

場新工場の建築着手、完成後は瑞典製百十七吋長網、七十八吋長網兩機設置▼印刷局抄紙部、工場一棟落成、百十吋長網抄紙機据へつけ▼樺太鐵道株式會社(資本金一千萬圓)成立、王子、富士、樺太工業の三大製紙會社より出資す。

五月 大日本製紙會社中川工場、第二號機長網七十四吋抄紙機運轉開始▼大阪府千舟町日本製紙會社、業務不振の爲、東京の聯合紙器株式會社(資本金二百萬圓)に合併す。

六月 株式會社岡田商店成立、東京蠟燭町蕪屋商店を繼承、堀留町の服部紙店經營者となる▼大日本製紙會社、常務取締役に松井安吉氏、社長と議合す辭職す。

七月 紀州の熊野製紙會社、資本金倍加し、二百萬圓とす▼北海道池田、富士パルプ株式會社(資本金三百萬圓)は富士製紙に復歸▼中央製紙須原工場、暴風雨出水に見舞はれ三週間休業。

八月 ▼富士製紙會社神崎工場、増設の第三號抄紙機、大島製鋼所製九十四吋圓網ヤンキー運轉開始。六十四吋圓網(連史紙用)三臺は撤廢▼休業中の東京王子町の豊王製紙會社、解散、新規に、同社發起人及三氏加入都製紙株式會社の創立を計畫す▼纖維素協會、設立計畫起る、西田博太郎、西松唯一、小澤武、高田直吃、朽木綱貞、楠瀬熊治、松原行一、藤野露造、厚木勝基、朝比奈晃十、佐伯勝太郎、三浦伊八郎、諸氏發起人となる。

九月 關東大震災一日午前十一時五十八分東京を中心に關東地方に稀有の大震災あり、燒失、倒壊の會社商店及び工場數甚だ多し、王子、小倉、北越各出張所、王子製紙、王子工場叩解室、印刷局抄紙部の王子町工

選即行の大崩をかざしなから、河野廣中、尾行崎雄、小泉又次郎、横山勝太郎、大竹實一等普通選派代議士百餘名を指題者とし、午後一時爆竹の合圖諸共、萬機を連呼しつゝ、都大路を行進し、目的の坂本公園に達したのは正に午後四時廿分、此の眞摯な國民の政治的要求は遂に翌年五月五日普選法公布を見るに至らしめた

○二月露國代表ヨツフェ入京して後藤新平と會見す

○四月郡制廢止す

○十一月國民精神與に關する詔書發せらる

○大震災直後の世相

「家も財も焼けるに任せ、只一心に子孫を身に護る親の情」

「何某の立退所、御存知じの方はおへ秋下さい。」

硫酸紙判 一、五〇×二、五〇 マール判 一、五〇×二、〇〇 元祿紙判 二、一〇×三、〇〇 ゴデリヤ判 一、七〇×二、一五 紙クロス判 一、五〇×二、五〇 角判 三、一〇×三、一〇 引札判 一、五〇×二、五〇 袋判 二、一〇×二、五〇	模造羊皮紙 四、四七、七三封 九三、三三〇圓 其他の紙 一、七四、七三封 五九、二六圓 板紙 六、六六、六六封 九四、三三〇圓 紙合計 一、八、四七、三三封 一七、五、二六圓	<p>場等。大正會員では、中井、大倉、博進、服部、岡本、柏原、川島、各洋紙店、深山、小島、上村、朝田、小峯、七條、矢島等皆焼失、小津、大橋、丸山、増田、中村、田中等の和紙店も皆焼失、實に東京紙商同業組合員に屬する商店の家屋、倉庫の焼失したるもの一百四十六戸の多數に上る。此時筆記、圖書用紙、壁紙の輸入税、五ヶ月間免除。十三日富士製紙會社芝川工場製の新開用紙輸送を海軍省に依頼して軍艦にて芝浦へ運ぶことになった、十三日には八雲、十六日には扶桑、十八日には陸奥、にて新聞採取紙數百本芝浦に着す。熊野製紙會社新宮工場、第三號抄紙機米國ベロイト製百三吋長網運轉開始。株式會小倉製紙所、來春、王子製紙會社と合併に決定。大川平三郎氏を社長とする九州製紙會社、資本金二百五十萬圓を一千萬圓に増資決定、社長谷安三郎、取締役飛松茂雄、座紙、機械半紙抄造、兵庫縣洲本町に淡路製紙株式會社。創立資本金二十五萬圓、圓網ヤンキー六〇吋二臺運轉開始（現在の明田製紙之なり）。</p> <p>十月 神奈川縣小田原の小田原製紙會社、在多古工場、地震の爲倒壊、再築に着手。東京高田馬場の、元太陽強製紙工場、乾燥筒破裂し、休業す。地震倒壊の各製紙會社事務所再築、北越製紙市川工場事務所は燒跡に移轉、富士製紙は丸ノ内大川田中事務所、王子製紙は郵船ビル七階に移轉、小倉製紙は燒跡に新設移轉。</p>	<p>の札を下げ、尋ね人探し て右往左往」 「ブルジョアもプロレタリアもない一列一隊に給米所へ」 「傳家の寶刀、竹槍など持出して自衛團、不逞の輩御座んなれと到る處に關所を構ふ」 「囁れる市民の口にも一杯五錢のするんが大量」 「麻痺の如き街頭に簡便理髮屋の開業も、當時を語る一風景」 「文化の都は焦土と化し、交通機關の全滅に足を奪はれた市民はかつては顔を背けた肥車に」 「焼けトクンのバラツクにしばし忍従の假在席。」</p>
---	--	---	---

十六年正

十六年正 會社數 運轉工場數 抄紙機 一〇六臺 (一〇、〇四吋)	輸出高 製紙用バルブ 三噸 印刷料紙 四、三六、三三封 煙草用紙 三、五、一〇〇封 鳥の子紙 二、五、八〇〇圓 三、七、九三封 七九、五七圓 連史紙 四、一〇、一〇二封 六、八、八〇圓 包裝用紙 六、八、八〇圓 一、九、九三封 其他の紙 一、三、七、九三圓	<p>十一月 ▼日本紙器製造會社、招聘の獨逸製紙技師四名來朝す。地震後復活の製紙工場及び日取。北越市川工場第一號機は九月八日より第二號機は九月十日より三菱中川工場では第一號機は九月十八日、第二號機は同十一日、第三號機は同十四日より操業。富士製紙千住工場では第一號機は十月二十日、第二、三、四號機は各十月十日。同江川川工場、第一號機は九月三十日、第二號機は九月廿九日。王子製紙王子工場では第一號機は九月廿三日、第三號機は同廿六日、同十條工場、第一號機は十一月十一日、第二號機は同廿五日、第三號機は十月二十日。第四號機は九月廿五日。有恒社工場は九月廿九日。日本、岩淵工場、第一號機は九月十七日。大日本、中川工場、第二號機は九月十六日、印刷局抄紙部、手漉室は十一月十五日より運轉開始。</p> <p>十二月 ▼東京赤塚村、堀内製紙會社（元成滿壽製紙所）増設の美川鐵工所製六十五吋圓網抄紙機、運轉開始。日本加工製紙株式會社十條工場完成（オート紙塗被）操業開始。王子製紙、小倉製紙所兩社合併を決議、合併條件、小倉新舊株式各五個に對し王子四個交付となす。王子製紙會社、氣田工場、撤廢終了す。日本製紙聯合會、各社、本年度製紙量約七億三千萬封度（創會以來の最高記録）。</p> <p>一月 ▼富士製紙會社江川工場、第三號抄紙機震災後修繕終り、運轉開始。休業中の山口縣厚狹町馬關製紙會社、再び運轉開始。廿八日、神戸の二見昇氏死去、享年七十二才、略歴、舊大學南校出身、ウォルシュ、ホール商館通譯、神戸にて板紙輸出業を興す。北陸の伏木板紙會社新築落成幅九十二吋板紙機操業開始。聯合紙器株式會社、大阪市此</p>	<p>〇一月二十六日皇太子殿下御婚儀。〇四月米國議會排日法案通過内外の論議沸騰す。〇七月一日メートル法發布。〇十月十日第一回労働實</p>
---	--	--	---

歐洲大戰と我製紙業

歐洲大戰の開始となるや、我製紙業の好況は前日清、日露の戦後、當時の比にあらずして旭日の天の盛を齎らしたのである、而して日露戦役には新聞紙の獨占的成功を遂げ得たことが、當時の顯著なる事象であつたが、世界戦後の本邦洋紙界は、新聞用紙以外に一般洋紙に就いて見事獨逸品及び、其他の輸入紙に打勝ち、洋紙界は殆んど本邦製紙を以つて自給するに至つたのみならず、却つて遂に歐洲諸國に輸出するまでに至つたのであるから、世界戦争の御蔭で本邦洋紙界の目的は殆んど達成されたと言

Table with columns for '輸入高' (Import High) and '輸出高' (Export High). Rows include categories like '製紙用バルブ', '印刷料紙', '筆記用紙', '圖書用紙', '吸取紙', '濾紙', '包装及機寸用紙', '煙草用紙', '壁紙', and '唐紙'. Values are listed in yen and sen.

二月 花區大開町に工場設立淀川工場と稱す
二月 富士製紙會社、樺太、落合工場にては圓網抄紙機(元日本化學紙料所有)を七十五吋長網に改造し、蠶座紙、包裝紙の抄造開始す
三月 樺太工業會社眞岡工場にて和紙抄造開始
四月 富士製紙株式會社、京都の梅津製紙と合併、これより富士製紙京都工場と名づく、梅津製紙は京都府知事指令により設立されたる我國最古の洋紙會社なるに、つひに富士に合併する處となり、今は王子製紙京都工場となる、今昔の感、深きものあるべし
五月 日本紙器製造會社頼有工場、獨逸技師に依り改造された、英國製百二十九吋長網ヤンキー抄紙機、片體包裝用紙の抄造を開始
六月 三菱製紙會社中川工場、第三號機瑞典製百九十四長網にて印刷用

地調査を行はる
○八月各省に政務官(政務次官及參事官)を設けず
○七月法律二十四號を以つて釐清品の輸入税十割課税となる

好況時代のバルブ工業

バルブ工業から眺めた、北海道材の開拓利用時代と樺太材の開拓利用時代とを比較して見ると、日露戦争當時に於ける北海道材は其消費量僅かに二十五萬石に過ぎなかつたが、歐洲開戦早々より操業を開始された、樺太の亞硫酸紙料業(サルファイト、バルブ製造)は豫想以上の好成績を収め、大戦中及び戦後の大需要期に際して、彼の恐るべき「紙料の騰貴」より救ひ、旁々我洋紙業に一大光明を照した。

Table with columns for '唐紙' (Washi) and '輸出高' (Export High). Rows include categories like '模造日本紙及チツシユペーパー', '模造羊皮紙', '其他の紙', '紙合計', '輸出高', '印刷料紙', and '煙草用紙'. Values are listed in yen and sen.

戦前に於て、計畫されしために、戦時に入るや、僅に其製品を市場に出し得、供給の任を完ふした。これは本工業の發達したること、樺太材の豊富を物語るものである。樺太は全島殆んど、蝦夷松(榎)で掩はれた、樺太天與の富源は、我紙業者の活動と相俟つて、その眞價を發揮し得たもので、領有後断然なはずして、樺太の森林材を原料とした、優秀なる亞硫酸紙料を供給し、遙かに加宗陀品、北歐品の輸入を感壓し得るに至りしめたのは全く、我製紙工業家の貢献で、我國産業史上大に氣を吐くに足る所であらう。

<p>即ち大正元年に於ては、製造高二億五千三百三十七萬七千封度であつたものが十年後には倍額の増加となつた。</p> <p>之を明治四十一年の製造高一億七千七百四十四萬封度に比すれば實に三倍以上の増加となつてゐる。</p> <p>日露戦後本邦洋紙界は、先づ輸入紙より製造高を我市場より驅逐し、更に歐洲大戰となるに臨んでは一設洋紙に對して輸入紙の驅逐を計畫し、銳意之が實現を期したのであつた。大戰の進行と共に自然獨逸品の輸入杜絶となりたるのみならず、其の他歐洲諸國からの輸入紙も各國ともが自給自足の爲め、之亦本邦への輸入不能に陥り、本邦の洋紙界は勢ひ自</p>	<p>三、〇五、四六圓 鳥の子紙 二、七六、六七封 五、六、六九圓 連史紙 三、五五、六三封 六〇、八七圓 包装用紙 五、九、六〇封 六九、四六圓 其他の紙 一、二九、〇三六圓</p>	<p>時所有山林の原料材缺乏の爲、工場撤廢の豫定にて、十五日限り休業す、現在使用の抄紙機八十八吋長網及七十二吋圓網（兩機共新聞紙抄造）は伏木港北海工業會社新工場に移轉、大阪の西成製紙會社、大阪板紙會社の板紙工場を買収、尼ヶ崎工場とす。</p> <p>十月 ▼九州製紙會社新設工場の米國バグレイ社製百二十四吋長網抄紙機、新聞紙の抄造開始▼王子製紙會社、株主總會を開き、東洋製紙會社大阪淀川工場と、同社静岡岡岩淵工場との合併を可決。</p> <p>十一月 ▼中央製紙會社、須原驛前工場、震災後の諸工事完成▼東京千住町、甲子製紙會社工場、芯紙、褐色板紙の抄造開始、經營者白鳥保五郎氏、抄紙機は、六十二吋、九十六吋圓網機を設置▼株式會社大同洋紙店（資本金三百萬圓）成立、大阪に本社を置き京都、名古屋、東京に支店を置く。九州、中央、樺工、三製紙會社の製品販賣を目的とす、取締役谷野彌吉、乾茂、澤本彌平、高増福藏、土田藤重郎、山本新太郎、田中三郎、監査役熊澤一衛、相談役大川平三郎、田中榮八郎諸氏就任。後大同洋紙店九州洋紙と合併して、熊本に同社九州支店を置く。本社大阪、谷野彌吉、澤本彌平、土田藤重郎の三氏。京都、乾茂氏、山本新太郎氏。名古屋、田中三郎氏。東京、高増福藏氏、九州、森田讓吉氏。</p> <p>十二月 ▼株式會社中井商店、取締役谷野彌吉、乾茂兩氏辭職、新たに（社長）中井三之助、（専務）島田林太郎、岡本經紀、西川忠三郎、三戸松藏、關根國之助、隅野卯之助、松本良吉諸氏加入、監査役中井己次郎、赤松市雄、相談役中井三郎兵衛、藤原銀次郎、高島菊次郎諸氏、各就任。東京、本店中井三之助氏、岡本經紀氏、松本良吉氏、赤松市</p>	<p>四年度の生産十二萬五千九百五十九噸の多き上つた。當時計畫されつゝあるものに樺太工業會社の鶴城工場、富士製紙の數香工場があつた。而して樺太だけに僅に廿萬噸のバルブを供給し得る豫定であつた。</p> <p>之を同島十年前の大正五年の生産量一萬六千五百六十五噸に比せんか、將に十四倍と云ふ驚くべく増加である。</p> <p>一步進めて、内地産、北海道産の増加率と比較せんか、興興蓋し鮮少ではない。即ち大正五年於て内地生産、五萬〇五百〇八噸が、大正十四年に於て十二萬五千三百六十噸に増加したのは將に二十五割の増加、北海道生産が大正五年に於て、六萬七千八百九十五噸が大正十四年に於て、十六萬九千五百六十四噸の増加は將に二百六、二十七割である。樺太生産の十年間増加率の約六十割を、之</p>
--	--	--	--

<p>給によるの外はなかつたのである。尤も我國同機戰時中、有利の立場にあつたものは米國であつて、同國に於ける製紙界の好況は異常なものであり、到底我國の比ではないのであるが、米國に於ける製紙は歐洲方面</p>	<p>製造量 三、七、三三封 販賣量 八、九、七〇、三七封 販賣率 九六・四</p>	<p>雄氏、大阪、島田林太郎氏、三戸松藏氏、隅野卯之吉氏、京都、西川忠三郎氏、名古屋、山田惣一郎氏▼洋紙合同販賣株式會社成立、王子、富士兩製紙會社の製品販賣を目的とす▼王子製紙會社、株主總會にて、北海工業株式會社、（現王子伏木工場）買收の件を可決▼印刷局技師抄紙部長佐伯勝太郎氏、依願免官、同在職二十六年間、後任、技師山下潤藏氏▼東京市本所區太平町在聯合紙器株式會社（資本金二百萬圓）震災の損害金、三十一萬圓を返済、營業成績良好にして、既に若干の配當をなす。</p>	<p>等に比せんか、誰しも其増加の顯著なるに一驚を喫せぬものは無からう。のみならず北海道の如きはバルブ生産の増加、前途あまり見込なく、又内地産の如きは減少の傾向にある時、樺太材の將來の益々有望なる事、上述の内地材、北海道材の將來と同日の談でない事が解るてはありませんか。</p>
<p>會社數 一二 運轉工場數 三四 抄紙機 一一九臺 (二、七三吋)</p> <p>への供給に追はれ且つ價格の暴騰により、本邦への輸入は甚しき増加なく、従つて當時の洋紙輸入額は逐年減少の一方を辿つたのであつた、之を表示すれば左の如し。</p>	<p>一月 ▼王子製紙會社伏木工場に於ける八十八吋長網抄紙機運轉開始、工場長河原十代雄氏▼富士製紙會社、香港に廣東派出所新設、同社は從來明治卅七年に天津、同卅九年漢口、同四十二年上海、大正十年に廣東の各派出所を設置。</p> <p>二月 ▼富士製紙會社江別工場の長網（バルブマシンを改造）八十五吋抄紙機完成、包装用紙の抄造開始、工場長市田太郎氏。名古屋市外新川町新川製紙株式會社創立。板紙抄造、四八吋七十二吋圓網抄紙機運轉</p> <p>三月 ▼一日、元日本化學紙料會社長、合併後富士製紙監査役小池國三氏死去享年六十▼王子製紙會社伏木工場の米國ユニオン會社製第三號抄紙機七十二吋圓網ヤンキー運轉開始▼樺太工業會社眞岡工場、新設の第五號圓網ヤンキー和紙抄造開始、工場長長澤漸氏▼日本加工製紙會社資本金百五十萬圓を半減、重役王子製紙系辭職、富士製紙系と變る、専務井口誠一氏。</p> <p>四月 ▼富士製紙會社、大日本製紙會社中川工場を買収▼王子製紙會社東</p>	<p>○三月四ヶ師團廢止 ○三月ラヂオの放送一般に開始さる ○五月但馬豐岡城崎地方激震、死傷數千を出す ○普通法公布 ○五月大婚廿五周年祝典行はる ○七月訪歐飛行、朝日新聞社の訪歐飛行機、東風、初風兩機の訪歐飛行完成 ○九月片岡弓八氏西班牙沖にて八坂丸金塊引揚成巧して歸朝 ○十二月ビス健と稱する殺人強盗大西健次郎現れ世間を騒がす ○支那に動亂起り、陸軍出兵す</p>	<p>（六九）</p>

本一ケ年不は氣況を以て終始たし

四一、一毫 (三、四四時)	のみにらず、海外需要にまで供給範囲を擴大するに至つたのであるが、當時に於ける、本邦製紙に對する内地需要は急激なる増加を來たし、剩さへ海外の需要まで加ふるに至つたが、之と同時に紙價又、著しく騰貴するに至つた、今其の騰貴状態をザラ紙に就き調べて見ると左の如くである(備考、王子四六版一連建) 大正三年七月 厘 二、六〇〇 同 四年三月 二、七〇〇 同 十二月 二、八〇〇
------------------	---

在、九州製紙(熊本縣所在、以上三社長大川平三郎氏、中之島製紙(社長下郷傳平氏、大阪市所在)の三會社と合併す。(合併條件下段に詳記)▼樺太工業株式會社、役員滿期改選、取締役(社長)大川平三郎氏、副社長田中榮八郎氏、藤田好三郎氏、長谷川太郎吉氏、高梨耕平氏、下郷豊彦氏、大川義雄氏、岡崎久次郎氏、阿部房次郎氏就任▼十七日北海道函館市外湯の川村、北日本製紙會社(和紙抄造)選別室より出火、工場全焼、損害十萬圓。

二月 ▼三日午前八時四十五分、富士製紙會社、熊野工場(和歌山縣)、叩解室より出火、一部焼失、損害僅少▼王子製紙會社、伏木工場(北陸伏木港)、増設の百吋長網ヤンキー一臺運轉開始▼十六日、王子製紙會社、札幌水力電氣を合併。合併條件對等、札幌水力資本金五百萬圓に對し、王子の拂込株券を交附すること▼王子製紙、資本金六千五百九十一萬圓、佛込額四千五百萬圓となる。

三月 ▼板紙聯合會、生産制限、價格、輸出問題等諸事項を決議(協定事項下記の如し)▼王子製紙會社朝鮮工場、百三十四吋長網ヤンキー一臺、及び富士製紙會社、樺太知取工場、百二吋圓網機(マニラ板紙)各々運轉開始▼王子製紙會社、岩崎男所有の北海道淺茅野驛前、東山牧場を買収、淺茅野製材所と改稱▼三日、大倉洋紙店社長大倉邦彦氏、歐米漫遊の途に就く。

四月 ▼二日樺太工業株式會社、惠須取工場、事務所一棟焼失▼樺太工業會社、合併後、職員異動。秘書部長武藤忠義氏、検査部長田邊武次氏、調査部長鈴木實氏、營業部長大川義雄氏、販賣課長川端審三氏、購買課長田中鐵藏氏、經理部長越野三藏氏、庶務課長保田友太郎氏、

一、林區租借期間三十六ヶ年
一、木材代金は五ヶ年毎に更新する事
一、木材代金は半ヶ年分宛二回に納入する事
一、寸檢法はチリン、ドリ、スキーを用ふる事
一、施業寮區劃費用は四ヶ年に分割支拂
一、國營機關併設の營利増金五分徴收の件

四製紙會社 合併條件
樺太工業株式會社は(資本金一千八百萬圓、内佛込額二百四十萬圓)九州製紙會社との合併條件は各社重役間に之を作製し、臨時或いは定時株主總會にて、之を附議し、何れも異議なく原案を可決す。
一、樺太工業と九州製紙
(イ)九州製紙五十圓佛込額を對し、樺太工業五十圓佛込額を對し、樺太工業と九州製紙

同 五年一月 三、四〇〇	同 三月 三、四〇〇	同 四月 九、〇〇〇	同 六月七月 六、二〇〇	同 九月 九、〇〇〇	同 七月一月 九、五〇〇	同 八月 九、八〇〇
--------------	------------	------------	--------------	------------	--------------	------------

壁紙 一六、〇〇〇元封
唐紙 八、〇〇〇元封
模造日本紙及チツシユペーパー 四、三〇〇元封
模造羊皮紙 七、三〇〇元封
六、二〇〇元封
一、三六、六四圓
其他の紙 一、二九、六七封
一、三六、七三圓
紙 七、三三、六七封
一、二六、九五圓
紙合計 一四、六四、六〇封
三、六〇、四四圓
紙製品 三、二五、二七圓
其他 三、二五、二七圓
果計 三、二五、二七圓
三、八〇、九五圓

會計課長大畑敏太郎氏、工務部長大川鐵雄氏、山林部長兼炭鑛部長藤田好三郎氏▼十七日午前二時頃、大阪市東成區蒲生町、古川製紙會社、機關部より出火、全焼す。

五月 ▼王子製紙會社、熊野工場、火災後休轉中の抄紙機、運轉開始、工場長北村末吉氏▼露領森林調査委員たる、王子製紙社員、加藤正治、阿部清兩氏外二名歸朝す。

六月 ▼富士製紙會社、樺太落合工場、我國最初のクラフト紙抄造を開始せしが成績良好なり。使用抄紙機、七十四吋長網一臺、百十六吋長網ヤンキー一臺、工場長玉置實輔氏▼樺太廳、本年度定期賣拂木材量、王子製紙へ二百二十三萬石、樺太工業へ百八十二萬九千石、富士製紙へ二百七十三萬石▼佐賀縣小城郡岩松村の小城製紙所、十五日蒸煮罐爆發、一名即死、一名重傷。

七月 ▼七日、熊本縣下大豪雨襲來、樺太工業會社、阪本工場、八代工場、(元九州製紙)浸水し一週間運轉休止、阪本工場長相良周吉氏、八代工場長相馬末吉氏▼十三日、伏木港、伏木板紙會社、出火事務所一棟、倉庫三種焼失▼岡山製紙株式會社(資本金一百萬圓)純益金七萬九千圓を上ぐ、株式配當年二割とし、成績良好なり▼富士製紙會社、樺太知取工場、パルプ製造開始。

八月 ▼日本製紙東京、日本製紙東京、西野製紙福井縣、乾製紙大阪、四會社、聯合會加入。加入理由別項の如し▼東京千住町、千代田製紙株式會社(資本金二百萬圓)第一、第二抄紙機を改造し、瑞典製抄紙機増設、マニラ、ポールド製造、日産約四萬封度▲王子製紙會社、技師高田良作氏十九日、天洋丸にて、歐米製紙業視察の途に就く▼富士製

太工業五十圓佛込額十八株半、九州製紙新株(十二圓五十錢佛込)の四株を合して一十株としたる十株に對し、樺太工業五十圓佛込額二十三株を交附す。
(ロ)九州製紙は大正十五年三月三十一日を以つて締切計算を爲し、株主配當を爲すものとす。但し其配當率は年二割五分を超へることを得ず。
一、樺太工業と中央製紙
(イ)中央製紙五十圓佛込額、舊株十株に對し、樺工五十圓佛込額十二株、中央製紙新株(二十五圓佛込)の二株を合して一十株としたる十株に對し、樺工五十圓佛込額十四株を交附す。
(ロ)中央製紙は大正十五年三月三十一日を以つて締切計算を爲し、株主配當を爲すものとす。但し其配當率は一割五分を超ゆるを得ず。
三、樺太工業と中之

め市場を擾亂する様なことはなかつた。世界戦争開始以來洋紙需要の増加と共に、内地以外海外に對する分の激増、頗る顯昭となつたから、自給保全の意味から、時の政府は印刷用紙に對し、輸出制限令を實施したのであるが、之れとても紙價の上騰には大した影響を及ぼさなかつた。大戦中の好況と共に各社争ふて製紙額の増加を計つたから、營業成績は一律に向上し、多分の利益配當を爲し得たのであるが就中王子、富士の兩社の如きは、原料パルプの自給に加へて大量生産の大規模により、利益配當は他社よりも遙かに高く、従つて利益配當も五割の高率に達したのである。その高利益を擧げ得たのも畢竟大戦生産費の安く付くこと、時の紙價が高價であつたことに歸するは言ふまでもないところで、生産費と紙價との比較は、前記二大社以外の方に於ては中等印刷用紙の生産費は紙價の二分の一に付いてゐたから、少くとも原價の倍に賣れた譯である、之を以つても當時の製紙會社が、如何に福々あつたが窺れる、而して世界戦時中の好況は斯くも繁榮を極めたのであつたが大正九年に入るや俄然財界の反動と共に、左しにも、股賑を極めた斯業界も頗る不振の傾向を示すに至つた。當時に於ける斯界の混亂は、假令他業界に於けるが如く、苦境の極ではな

九月 紙會社、樺太知取工場、落成、新聞用紙抄造開始、工場長山内幾馬氏(イ) 中之島製紙五十圓拂込済、舊株十株に對し樺太工業五十圓拂込済十五株、中之島製紙新株(十二圓五十圓拂込)四株に合して一株としたる十株に對し、樺工五十圓拂込済十六株を交付す。(ロ) 中之島製紙は大正十五年三月三十一日を以て締切計算を爲し株主配當をなすものとす、但し其の配當率は一割二分を越ゆることを得ず。

十月 三日、日本製紙會社、事務取締役、鹿島長次郎氏、死去、石川正作氏社長となる。樺太工業株式會社、大増資、現資本金三千三百六十一萬圓を七千萬圓に倍加す。樺太工業會社、八代工場、増設の百十吋長網ヤンキー一臺運轉開始、支那向有光紙抄造。富士製紙會社樺太知取工場、獨乙製百四十二吋高速度式抄紙機運轉開始、新聞用紙抄造。日本製紙聯合會、總會を京都に開催、慰安會を京都歌舞伎座に觀る。

十一月 王子町、印刷局抄紙部、移轉。建設地、埼玉縣北足立郡膝折村にて工事進行中、丸ノ内印刷局は西ヶ原農事試験場に移轉。大阪所在合資會社菱三商會、業務執行委員、入江榮吉氏退社、後任に三品幸造氏就任、菊池一郎氏支配人に昇任。

十二月 鴨綠江製紙株式會社、安東縣工場、新設の百十吋圓網ヤンキー一臺(模造支那紙用)六十五吋圓網二臺(同上)各々運轉開始。支那向輸出紙抄造、重役、常務取締役長谷川太郎吉氏、取締役兼理事中島三代彦氏、作業部長黒川末喜氏、抄紙主任木下又次郎氏、モスコイに開催の露領森林利權問題、一段落後、調印に際し、露國側違約の爲、遂に不成立に終る。

昭和二年

本年も昨年同様不況の内に始終ししかし製紙界各社に機械増設の基が多かつた

會社數	九
運轉工場數	四一
抄紙機	一四七臺 (三、七五吋)
製紙用パルプ	七、三〇〇噸
印刷用紙	二、五〇〇、五〇圓
製紙用紙	四、六、五、六、三封
筆記用紙	四、九、九、七、三封
圖畫用紙	九、五、〇、三、五圓
吸取紙	四、七、五、五、五封
瀝紙	一、〇、一、九、九圓
包裝及燐寸用紙	四、〇、七、七封
望、三、三、五、三封	一、四、九、九圓

一月 北越製紙會社新潟工場、新設の亞硫酸パルプ蒸餾、操業開始、成績良好なり。名古屋西區北押切町、中央製紙所設立。百吋長網ヤンキー抄紙機一臺設置、臺紙、心紙抄造、社長福慶清藏氏。

二月 内閣印刷局抄紙部長山下潤藏氏辭任。印刷部長矢野道也氏兼務。

三月 富士製紙會社本社移轉、兼てより建築中たりし鐵筋鐵骨建の富士製紙の本社落成。丸ノ内の大川田中事務所より京橋區三十軒堀一ノ一に移轉。樺太工業會社樺太、泊居工場、新設抄紙機八十六吋長網一臺及、惠須取工場百十吋長網ヤンキー二臺、六十四吋圓網ヤンキー二臺各々運轉開始、工場長金子三明氏。安東縣、鴨綠江製紙會社、一ヶ月製紙量百三十萬封度滿鐵より助成金交付され成績良好。三菱製紙會社高砂工場次長信貴英藏氏東京本社主事に昇任。主事岡本達夫氏中川工場次長に中川工場次長三島四郎氏は高砂工場次長に各々轉任。

四月 岐阜縣加納町、岐阜製紙株式會社(舊太陽製紙)は休業中なりしが、工場改革に着手。取締役(社長)小倉善右衛門、事務清寛、監査役、村瀬正衛諸氏就任。十二、三日全國板紙聯合會總會を岡山市に開會す。岡山縣山陽鐵道天城板紙合資會社(資本金二十萬圓)社長長秋山文四郎は東京舊中外製紙會社より抄紙機購入、運轉開始、板紙聯合會加入。印刷局教習所、第三回抄紙學部卒業生十名を出す。樺太工業會社知取工場亞硫酸パルプ設備完成。營業開始、漂白パルプ年産一萬噸。三十日午後八時五十分頃、大阪府三島郡吹田町乾製紙會社、合宿舎より出火、合宿所、社宅廿戸焼失。三十日午後十一時、靜岡縣富士郡原田村三島製紙會社出火。工場五棟全燒。

五月 福井縣速原郡熊川村、若狹製紙會社(拂込資本金三十五萬圓)は

四會社、聯合會加入理由及狀態

▲日本製紙株式會社は、土佐紙株式會社日本紙器會社の三社合併したるものにして、其後同社協防工場と稱するに及び聯合會加入したるものなり。

▲日本製紙株式會社は、東京に本社を置き、鹿島氏事務、後石川正作氏社長となる、書籍部が多く株主たるにより、書籍用紙を抄造す。

▲西縣製紙所は、福井縣武生町にあり、元來、西野市兵衛氏兄弟の協同事業にして明治三十四年の設立、大正時代に入つて洋紙を抄造し大正十四年には六百十萬封度を製造した。

荷の紙用ぬは思、し行流版出の物集全、や本圖謂所、たつあて好頁稍績業、し比に年前は年本

運輸工場数	九
抄紙機	一五二臺 (四二七〇)
販賣量	一、三五、七四、七〇
販賣率	一、二五、九七、六七〇
輸入高	六、九
製紙用パルプ	三、四四噸
印刷料紙	二、四四、九六圓
筆記用紙	四、八〇、八〇封
圖畫用紙	五、五三、〇〇圓
吸取紙	五、五五、〇七封
濾紙	一、〇二、四六圓
紙	四、七九封
紙	一、八、空圓

二月 ▼富士製紙會社北海道江別工場、増設の大島製鋼所製、百四十二吋長網抄紙機運轉開始、新聞紙抄造▼東京金網株式會社陳容更まる、社長田中武兵衛氏、常務田中治之助氏、取締役大川平三郎氏、田中榮八郎氏、高橋貞三郎氏、監査役大倉邦彦氏▼鳥取抄紙會社破産、設置抄紙機六十吋、四十五吋圓網ヤンキー各一臺七十二吋通常長網一臺計三臺内七十二吋通常長網は上海へ賣却▼王子製紙會社小牧工場、蒸解係長末廣耕三氏歐洲視察に赴く▼樺太工業株式會社惠須取工場、百十吋長網ヤンキー抄紙機運轉開始、薄模造紙抄造

三月 ▼十日栗林汽船會社第一室蘭丸(一二二五噸)沈没により、王子製紙會社製、新聞用紙小巻取、五百五十本(約三十二萬一千七百五十封度)及富士製紙會社大巻取一百本(約九萬封度)海中に没す▼臺灣三極製紙會社宜蘭工場製品市販開始さる▼十九日富士製紙會社樺太知取工場、タービン破裂し、一時操業休止▼静岡縣富士川製紙の常務、小澤保雄氏大阪吹田にライスペーパー工場建設中

四月 ▼三菱製紙會社本店移轉、丸ノ内有樂町より、八重洲町八重洲ビル八階に移る▼十二日、板紙聯合會、二割操短、同時に輸出品、六百噸乃至八百噸に對し、噸當り、五圓乃至二十五圓の獎勵金交附を決議▼

即位の大禮

細賀の庭には榮光みち溢れ、日像、日像旗はひらめく、若き帝に榮あれ、若き日本に光あれ、萬歳の聲は空に轟き、地にひろがる、げにや此日めでたさ、喜しさ。

陪審法實施
陪審法實施後、最初の陪審裁判が、十月二十三日大分地方裁判所に開かれた。實に我國裁判の一新記元といふべきである

普通選舉包裝紙
此の日普通選舉法による最初の衆議院議員選舉が、田中内閣によつて行はれ、永い間の國民の要望は遂に達せられた。

○皇弟秩父宮殿下御成婚
○支那動亂に對し、帝國政府は、自衛上山東に出兵し得る旨、外務省聲明書を公表す。

○細菌學的世界的權威野

たれさ除解分機が限制産生の紙造模、紙刷印にめた、たつあが動

包裝及燐寸用紙	三、三〇、九三封
煙草用紙	三、九〇、七三圓
壁紙	一、〇三、三二封
唐紙	四、四三、三九封
模造日本紙及チツシユペーパー	四、二〇、七三封
模造羊皮紙	七、二六、六七封
其他の紙	三、九一、九三封
紙	二、八〇、二六圓
紙	三、七〇、一〇〇封
紙	六、九一、七二圓

五月 ▼岐阜市外加納町岐阜製紙會社資本金六萬圓、操業開始、經營者福慶清太郎氏、製品色薄紙、月産約二十萬封度▼佐賀縣小城郡津板紙會社資本金五萬三千圓に減資、某大製紙會社に買収さる▼大阪市此花區大開町四丁目西成製紙株式會社工場、廿五日午後五時出火工場全焼、建坪一千五百坪焼失損害百萬圓、神戸火災に八十萬圓の保險を附せり

六月 ▼八日富士製紙會社樺太落合工場、元鋼路工場より移轉の英國製百十吋長網抄紙機、元百六吋運轉開始、クラフト紙抄造▼乾製紙會社元印刷局抄紙部より拂下げの杉浦製九十六吋長網抄紙機一臺、据付準備

日本世博士逝く。南亞に於いて黃熱病原研究に功ありし中知死す

○鶴田幹雄、高石勝男、鶴田義行等我が選手和關アムステルダムに開催した第九回オリュピック大會に出場して、大いに活躍す

○白米販賣にメートル法實施さる。

包裝紙の重量最大の限度
一包に使用する包裝紙の重量は、我國に於て、最も多量に需要さる、四六判(二尺六寸×三尺六寸)菊判(二尺一寸×三尺一寸)を標準として各一包一封度となる模造造紙され、其他多様の大きき各判に對し、一包用量が一〇度となる模造紙に抄造せざる場合多し故に判の小さきものは、右四六判菊判を其判に適合する模造紙を使用して、其包裝紙の重量は一包一〇度とならず、即ち此

紙合計	100,570,08封
紙製品	15,091,244圓
紙	3,025,299封
其他	2,357,000圓
累計	3,127,750圓
輸出高	製紙バルブ印 刷料紙 110,355,200封 三,926,326圓
煙草用紙	三,926,326圓
鳥の子紙	二,191,099圓
造史紙	六,555,477封 一,279,377圓
包裝用紙	四,549,350封 五,625,600圓
其他の紙	八,526,000封 一,244,500圓

ものが翌十年には財界不況の爲め、會社の合併及び厄等、會社數十三、工場數二十八となり、會社數に於て四社又工場數に於て三工場を減少するに至つたから、前記の如く前年に比し製造高を減少したのである而して其後は洋紙需要の増加と共に紙料の需要も増加し、従つて既設工場の擴張等が行はれた結果、製造高も再び増加し大正十四年には四十一萬余噸の年額を見るに至つたのである。

工場等の變遷は前述の如く大正十四年來製造高増加の一面には會社の組織變更及び合併等が行はれ大正十四年に八會社二十八工場となつた。

中、完成後印刷紙日産抄紙量二百萬封度の豫定▼千代田製紙會社、破産す▼二十七日、大阪荻原商店主、荻原榮次郎氏逝去、享年六十、荻原氏は大和の人、大阪に出て紙商に携はり、一代にして巨萬の富を爲し大いに成功す。

七月 ▼樺太工業會社木會工場、長野縣西筑摩郡大桑村須原、撤廢さる、常設抄紙機、第一號大川式長網百六吋は岐阜縣中津工場へ、第二號同上百八吋は樺太惠須取工場へ各々移設

八月 ▼東京府岩淵町日本製紙會社工場降雨の爲浸水す▼王子製紙會社十條工場に上等印刷紙用百六十八吋長網一臺、大泊工場に模造紙用百十二吋長網一臺、夫々据付準備に着手す▼樺太工業會社大阪中ノ島工場撤廢さる工場長下郷豊彦氏、六十吋長網抄紙機は樺太惠須取工場へ移設▼二十七日富山縣五百石町立山製紙會社午前一時出火、稻藁三萬貫焼失、専務深井兼四郎氏▼三十日午前四時二十分富士製紙會社北海道江別工場第五號抄紙機据付場より出火、一名燒死一名重傷休轉四日間

九月 ▼山口縣玖珂郡和木村、日本紙業會社藤防工場、九十吋、六十吋、三十六吋各圓網抄紙機運轉、和紙抄造中、尙増設の百四十八吋圓網の抄紙機据付工事に着手、本機は日本一の和紙抄造の大抄紙機にて、月産能力八十五萬封度、工場長三浦長作氏▼博進社常務取締役、富谷松三郎氏、狭心症にて死去。享年四十八歳、氏は茨城縣龍ヶ崎町の人、勤続三十年、其死は一般より惜まれた▼廿日王子製紙會社、調度課長福喜多靖之助氏、十條工場長西澤氏と共に渡米の途に就く▼鹿兒島市三九三商店製紙部、二號機圓網ヤンキー四八吋抄紙機一臺増設。

小判一連包裝込三十封度とならず、其正味量は二十九封度以上ある譯なり逆に四六判よりも大判物の場合は、一連一包的の重量は一封度以上となる然れども此場合に於ては一包的と算定し正味量を減ずることをなさざる慣習なり又四六判判以外寸法のものを當に多量に抄造する工場は其判に對し一包一封度に相當する包紙を用意し置くこと多し。若し大判物にて包裝紙強靱且つ厚紙(重重量)を要する場合は、一包一封度以上のものを特に使用するも、前記同様一包一封度と算定し、正味量を減ずることなし。

十月

▼十一日、王子製紙會社、取締役販賣課長井上憲一氏及、淀川工場長水口出世氏、横濱出帆、歐米視察の途に趣く▼御大典奉祝賣出しに依る、機械濾障子紙特賣の洪水、曰く、日本紙業のマニラ障子紙、王子製紙の丸王障子紙、小田原の羽衣障子紙、堀内の奉祝障子紙、三菱の三菱障子紙、昭和の大禮障子紙▼大同洋紙店名古屋支店、東區鶴重町より西區下園町三ノ一四の大營業所に移る。支店長田中國三郎氏▼大阪日華製紙會社、本庄工場。職工七十名罷業す▼樺太工業會社惠須取工場ホイト式キヤタビラ型碎木機の据付及同機使用の一千六百馬力發電機完成。工場長下村純二氏▼大阪府三島郡吹田町製紙會社(二百萬圓)設立元吹田製紙所を組織變更す取締役(代表)中村爲三郎、中村久左衛門、小澤保雄、監査役谷田作太郎、長谷川彌諸氏、ライス紙高級印刷紙抄造。日産二萬五千封度▼高崎市、高崎板紙會社元千代田製紙會社を買収。社長井上保三郎氏▼樺太工業會社、元木會興業所有の長野縣大桑田光發電所を伊那川水電會社に約百萬圓にて譲渡す▼東京府岩淵町日本製紙株式會社十周年記念を歌舞伎座にて舉行社長石川正作氏▼東洋製紙會社經營者、大阪市住吉區住吉町井上周氏、勅定藍綬褒章を下賜さる▼三十一日山口縣厚狹郡吉田村馬關製紙會社(資本金八十萬圓)午前十時出火、工場燒失▼樺太工業、中津工場、大川式長網抄紙機(木會工場より移轉)完成。新聞、印刷用紙抄造工場長瀨古太一郎氏

十一月

▼西成製紙會社火災後事務所を西成工場より尼ヶ崎工場へ移轉▼岡山縣津山町、美作製紙會社(資本金八十萬圓)兵庫縣尼ヶ崎市東灘波に移轉す。取締役土居通憲、有本立、久山猪八郎諸氏▼日本紙業會社販賣部、東京市日本橋區吳服町安田信託ビル四階に移轉、主任中内鹿吉氏

包裝紙重量最大限度 (二)

一連の正味量と一連の包數及其の包裝紙の重量との關係左の如し、尙表記量とは一連の正味量と包裝紙の重量を合したものと	四六判 (三尺六寸)
正味量	重量
封	包封
一	一
二	二
三	三
四	四
五	五
六	六
七	七
八	八
九	九
十	十
十一	十一
十二	十二
十三	十三
十四	十四
十五	十五
十六	十六
十七	十七
十八	十八
十九	十九
二十	二十

又其中には數會社休業中のものもあるが、一方又工場建設中のものもある、而して前の廿八工場の中で碎木バルブのみを製造するもの七工場、兩者を合せ製造するもの十二工場であるが、現在木材バルブの製造を専業とするものは、樺太工業會社の泊居工場、同惠須取工場王子製紙會社の樺太大泊工場、同豊原工場同野田工場、富士製紙會社の北海道金山工場、同池田工場、樺太木材紙料會社の伏木工場、北武製紙會社の長岡工場の五會社九工場。

木材バルブ製造會社及工場數に就ては前記の次第であるが、製造地別に於ては之が消長を見るに、大正九年頃までは樺太及北海道が製造高に於て最も著しきものがあつたが、翌十年には北海道及び朝鮮一萬余噸を算した、而して一方樺太に於ては五萬四千余噸の減少を見たのである、然るに大正十一年には樺太、北海道及び内地の製造高は著しく増加し、之に反し朝鮮は多少の減少を示した、而して此傾向は大正十二年同十三年に亘り繼續し大正十四年には樺太十二萬二千余噸、北海道十七萬余噸、内地十一萬三千余噸に達し、朝鮮も漸次復活して同年には八千余噸の製造高を示すに至つた、

斯くの如く紙料製造方面の發達は近年著しくなり殆んど本邦製紙に對する原料供給の上に自給の立場を占むる様になつたことは、之れ又本邦製紙界の製紙自給の實現に近づきつつあるものと

言ふて差支なく、只だ將來の目的として、何に旺盛を極め得るか、製紙界に對する今後の問題であるが、今や十億封度を突破なし、木材パルプの製造も今後倍々旺盛となり、支那、南洋方面への輸出も漸次増大するであろう。

○パルプ用木材

農林省山林局調査に依る昭和四年中、本邦パルプの製造に使用したる木材左の如し、

内地材	六、六〇石	五、九〇石
北海道材	二、五〇石	三、二〇石
樺太材	五、八〇石	五、八〇石
朝鮮材	三、五〇石	三、五〇石
西伯利亞材	一、〇〇石	一、〇〇石
合計	八、五〇石	七、九〇石

昭和四年	製造量	一、四八、七二七
	販賣量	一、三九、三〇三
	販賣率	九三・三
	抄紙機	一五三臺
	運轉工場數	三九
	會社數	九

十二月
 ▼東京府足立郡千住町四丁目、日本建築紙工會社、整理終了。資本金五百萬圓を一百萬圓に減資▼東京市外淀橋の東京金網會社四十九日間に亘る、勞働争議漸く圓滿解決す。社長田中治兵衛氏

十一月
 ▼大阪府吹田町、乾製紙會社、元印刷局より購入の九十八吋長網抄造機運轉開始▼浪速製紙株式會社(資本金一百二十五萬圓)創立さる。元西成製紙を繼承す。取締役(常務)坪川恒平(同)金澤保資(元三菱製紙中川工場技師長)後藤一郎、山中榮三郎、監査役信貴英藏、三品幸造諸氏▼樺太工業會社、惠須取工場、擴張工事完了。新設第七號大島製鋼所製八十六吋長網抄紙機運轉開始▼京都、日本クロス工業株式會社、洛西天神川の新工場竣工。全部此に移轉。京都市右京區西京極の本社之なり、専務阪部三次氏▼王子製紙會社、樺太野田工場、亞硫酸パルプ漂白作業設備完成、工場長打保常次郎氏▼土佐濾紙會社、設立計畫成る▼東京市王子町、日本加工製紙株式會社、十條工場、新設塗被機(四尺二寸)一臺運轉開始、専務取締役井口誠一氏。

一月
 ▼全國板紙聯合會、生産制限を解除す▼三日富士製紙會社、専務取締役、穴水要七氏逝く。實業界の功勞に依り、正六位に叙せらる。穴水氏は甲州財閥の一人、山梨縣北巨摩郡の田舎より出でて株屋として成長し、後富士製紙に入つて、専務となる。君、亦凡人に非ず。後任高橋貞三郎氏専務に就任。高橋氏は、中國岡山縣の産▼穴水氏の死後富士製紙の株(穴水氏一族の所有)二十萬株突如、王子製紙に移る、後年の三社合併の因、こゝに發す▼廣島縣福山市福山製紙株式會社(資本金二百萬圓)設立、社長田中八九郎氏▼東京小石川區米川下町、堀

昭和三年製紙概況	一
西	一一
三	二二
三	二二
三	二二
三	二二

昭和三年製紙概況
 昭和三年製紙概況を見るに、先づ經濟的方面より始めんに世間一般に不景氣の歎聲に充ちたやうな病、製紙界ばかりが獨り太平を謳歌する理由なく印刷用紙を製造する同業者の如きは、昭和二年に引續き、若干の製造制送を實行したけれども、衆議院議員の總選挙と云ひ、昨古の御大典と云ひ、所謂國本の發行や、有益なる全集や、演書類の出版等、印刷用紙類の需要は、なかに旺盛であつた。只其時價に至りては、製品の潤澤、販賣の競争等で、始終低落の一方向であつたが、製紙者の側では、設備の改善等に努めた結果、利益を減低することなく、上下兩期共に前年と略同様の成績を示し、株主配當にも大なる變化なく、寧ろ納良好の方であつた。印刷用紙及模造紙のは、自刷用紙群を脱して、自由な生産が出来ることとなつた。

本年は前年より不景氣なも、稍好況にあつた。

木材パルプ製造	農林省山林局の調査に依る昭和四年中、各種木材パルプ製造量左の如し
亞硫酸パルプ	三、〇〇〇長噸
クラフトパルプ	三、〇〇〇長噸
碎木パルプ	三、〇〇〇長噸
合計	九、〇〇〇長噸
アト紙製造量	五、八、〇〇〇長噸
富士	本年 五、三、〇〇〇長噸
前年	五、〇、〇〇〇長噸
日加	本年 二、〇、〇〇〇長噸
前年	一、〇、〇〇〇長噸
三菱	本年 七、三、〇〇〇長噸
前年	七、〇、〇〇〇長噸
三友	本年 一、三、〇〇〇長噸
前年	一、〇、〇〇〇長噸
向アト紙の輸入	本年 三、七、〇〇〇長噸
前年	三、〇、〇〇〇長噸
は、昨年中に三百	四十七萬二千八百

輸入高
 製紙用パルプ 八〇、四〇噸
 印刷用紙 一、〇〇、〇〇〇封
 二、六、六、五五圓
 筆記用紙 四、九、〇、〇〇封
 四、九、〇、〇〇圓
 圖書用紙 五、五、〇、〇〇封
 五、五、〇、〇〇圓
 吸取紙 四、五、〇、〇〇封
 四、五、〇、〇〇圓
 濾紙 四、五、〇、〇〇封
 四、五、〇、〇〇圓
 包装及燐寸用紙 三、〇、〇、〇〇封
 三、〇、〇、〇〇圓
 煙草用紙 三、五、〇、〇〇封
 三、五、〇、〇〇圓
 一、〇、〇〇圓

二月
 ▼富士製紙會社、樺太知取工場、増設中の百四十二吋長網抄紙機一臺運轉開始、模造紙抄造。同時に一千キロ發電機工事完成、續いて五千キロ増設を計畫中▼富士製紙株式會社、新取締役、小笠原菊次郎、高田直屹、中村金太郎、眞島幸次郎、新監査役、藤原銀次郎、熊澤一衛、岸田全諸氏就任▼大津市柳馬場、共榮板紙會社(資本金二十萬圓)田中松太郎氏、社長に、古林治一郎氏常務取締役に、各々就任▼王子製紙會社、社長藤原銀次郎氏、貴族院議員に推選さる▼五日、釧路市西幣舞町、富士製紙會社釧路工場失火、鐵道積込倉庫より出火、新聞用紙、外三千二百二十三捆焼失、被害高二十一萬圓。

三月
 ▼日本板紙聯合會、稻葉板紙の規格統一協定成る▼鳥取市外、旭製紙株式會社(資本金十五萬圓)設立。元鳥取抄紙會社、取締役(社長)島田林太郎、藤岡貞次郎、菊原敬次、雨宮重親、島田豊吉、岡本經紀諸氏▼十七日、午前六時四十分、東京堀内製紙會社、キレー紙工場抄紙機乾燥筒、爆發▼富士製紙會社樺太知取工場、百四十二吋長網抄紙機運轉開始▼王子製紙都島工場社員長田儀之助氏によりてダンディロール考案さる▼二日王子製紙會社、調度課長福喜多靖之助、十條工場長西澤兩氏歐米視察より歸朝▼十五日王子製紙株式會社、取締役兼販賣課長井上憲一氏は歐米漫遊の處、西比利亞經由歸朝さる▼二十九日靜岡縣東洋製紙會社(資本金二十五萬圓)工場全焼▼三菱製紙株式會社中川工場技師關義城氏歐米視察より歸朝。

○昭和天覽大試合
 時はこれ端午の節句御大禮奉祝記念の武道大會は宮内省舊三ノ丸覆馬場に催され此日、畏くも、聖上陛下臨臨の上、親しく其の技を賞はせらる。府縣より選ばれし代表、柔剣道合せて一百名、及び特に指定されたる斯道の達人、六十四名中更に前日の豫選試合を経て、勝ち残れる二十四名こそは榮ある此日の戰士である悉くこれ練達強剛揃ひ王座を前にして醜態處博の試合であつた

封度、價格六十三萬三千三百二十九圓前記三工場の昨年製造量に對し僅かに二期二分除に過ぎず、以つて其の進歩を知るべし	壁紙 二四、五五封 二六、二二圓	唐紙 四九、四七封 一五、九九圓	模造紙及チツ シニペーパー 二、二六〇封 三六、五〇圓	模造紙羊皮紙 九、四二、六七封 一、〇六、四三圓	其他の紙 二、四、五五封 一五、〇九圓	板紙 四、三九、二〇封 七四、〇九圓	紙合計 九、四、〇七封 二、五、五三圓	紙製品 六、〇〇、三三封 三六、八四圓	富士川製紙會社
製紙聯合會員 外の製紙量	甲子製紙會社 二、二〇、三三封 茶及白坂紙、 芯紙、雜種紙	巴川製紙所 二、四、〇〇封 電線電氣用紙	山形製紙會社 二、三、五五封 便利瓦原紙	若狹製紙會社 二、三、〇〇封 表紙マニラ板紙	特種製紙會社 一、七、五五封 有價證券及雜種紙	昭和製紙所 一、〇、五五封 特種板紙類	三島製紙會社 一、〇、二二封 卷煙管紙、 印刷用紙、 ナプキン紙	合計 三、三、六六封 三、三、六六圓	其他 五、〇、〇〇圓

〇ツエツペリン

伯號來る
慈々大西洋を横断し荒蕩たる西比利亞の空を飛んで「ツエツペリン伯號」は帝都を訪問、その巨大なる雄姿に滿都の血を湧かす。而も慈々太平洋を一氣に翔り僅々廿二日弱の驚異的記録を残して出發地たる米國レキハーストに無事着陸。

- 英皇帝御名代グロスタ1公ヘンリー親王御來朝。ガーター勳章捧呈
- 東京大連間航空郵便開始
- 東京、大阪、福岡間旅客、航線開設開始
- 不戰條約案、批准公布せらる。
- 第三皇女孝宮和内親王御誕生
- 伊勢神宮式年遷宮祭行はれ、今後國家的大祭典となす。
- 官吏、減俸問題起り世論騒然たり。

四月

▼樺太工業株式會社、惠須取工場、大島製鋼所製高速度抄紙機、長網百四十二吋、新聞用紙抄造開始▼湖來製紙株式會社(資本金五十萬圓)創立計畫成る。主唱者、東京市淺草區西島越町塚本西松氏▼東京博進社社長、山本留次氏、大阪大同洋紙店社長、谷野彌吉氏、名古屋万常紙店社長、伊藤常七氏、それら、商工會議所議員に當選。

五月

▼二十八日正午、樺太山林に火災起る。樺太工業會社、惠須取工場倉庫、社宅五十三棟延焼、火災のため死者八名、樺太工業株式會社に變動を來せり。▼日本製紙聯合會にては、義務休轉一割、補償希望休轉一割の見込にて、都合二割の生産制限斷行▼高崎板紙株式會社、千住板紙工場(東京)を買収し、資本金を三百萬圓とし、主として茶、白、マニラ板紙を抄造す。營業隆盛にして二割五分を配當す。

六月

▼王子製紙株式會社、社長藤原銀次郎氏、瑞典ワザ勳章を下賜さる日瑞協會副會長に選ばれる▼鳥取縣鳥取市外の旭製紙株式會社營業開始▼王子製紙、富士製紙兩者の間に販賣競争を防ぐため抄紙品の協定をなし、即ち王子製紙はライスペーパー、富士製紙はクラフトを製造するに決す▼山口縣吉田村、舊馬關製紙會社社焼失後、再築工事完成し昭和製紙所と改稱▼静岡縣三島に三島工業塚屋製紙株式會社設立、社長住本嘉十郎氏、常務住本昇三郎氏▼大阪、山田洋紙店の事業一切を繼承し株式會社富士洋紙店(資本金三百萬圓)設立、社長藤岡貞次郎氏、事務今村金三氏、常務菊原敬次氏、雨宮親重氏、取締役小笠原次郎、高橋貞三郎氏、藤岡良之助氏、監査役、橋原啓藏氏、飯河安信氏

七月

▼日本金網株式會社、東洋金網株式會社を合併(資本金百二十萬圓)取締役(社長)堀越壽助氏、(常務)五十嵐榮一氏、(同)中島慶次氏。高島

八月

▼日本紙業株式會社、龜有工場(舊日本紙器)は、四十六吋圓網板紙機抄造、九十八吋圓網板紙抄造、百二十吋長網印刷用紙抄造、百二十八吋長網ローリ紙抄造の四案を有しこれより洋紙に力を入れんとす▼四日千葉縣市川町、東京毛布會社(資本金一百萬圓)焼失▼十三日富士製紙會社、神崎工場長増田源平氏逝く、享年六十七歳、勤積實に四十二年▼十五日石川縣金澤縣前加賀製紙會社(資本金二十萬圓)同日午後七時出火し工場四棟を全焼す損害數十萬圓(社長中島徳太郎氏)▼島根縣工業試驗場にて、桑皮の黒皮のみ、製紙することに成功す▼徳島縣阿波製紙株式會社(大正五年二月創業)機械製パルプ半紙を抄造す、社長三木與吉郎氏貴族院議員取締役松浦徳次郎氏、芝嘉久太氏、奥村嘉藏氏、大伏元貞氏、監査役松浦信次郎氏、小寺多三郎氏▼徳島市志摩製紙所(大正十二年創立)社長、志摩三三氏、ヤンキー式抄紙機を設置、パルプ半紙製造

九月

▼堀内製紙株式會社(資本金六拾萬圓)成増工場、小田原製紙會社に買収さる。常設抄紙機、五十六吋長網一臺、四十五吋、六十五吋、圓網各一臺、小田原製紙社長大倉邦彦氏、取締役谷本正雄氏等▼二十五日株式會社博進社、常務取締役吉野正雄氏逝去、享年五十一歳▼佐賀小城製紙所(昭和三年四月創立)製品マニラ原紙、社長富永忠一氏▼土佐伊野町に於て、濾過紙製造の目的にて、土佐濾紙會社計畫さる、櫻木滿之助氏、横川博惠氏之に携はる。

一、二、〇八封 卷煙草用紙	其他 五、〇、〇〇圓
昭和製紙所 一、〇、五五封	果計 三、三、三三圓
三島製紙會社 一、〇、二二封	
卷煙管紙、 印刷用紙、 ナプキン紙	
合計 三、三、六六封	

北越製紙株式會社は開業以來、二十五周年記念に當るを以て其祝典と、會社創立以來經營に盡瘁されたる事務取締役故田村文四郎氏(初代)故覺張治平氏(二代)兩翁の胸像除幕と、勤積功勞者の表彰と兼ねて、昭和六年九月二十三日午前十時より、長岡市蔵王に在る本社に於て最も盛麗にして盛大なる儀式を舉行す、當日同社の招待により參列されたる賓客は、縣廳より富岡警察部長を始め、長岡新潟兩市長、兩市會議長、兩商工會議所會頭、其他同地方の官公吏名譽職の人々、又東京、大阪、神戸に於ける親密なる同業會社役員、販賣店重役關係業者、日本製紙聯合會、日本板紙聯合會の代表等にして從業者を併せて數百名に達し先づ田村

- 米國陸軍佛佛ダグラス夫妻入京して歡迎さる
- 東洋第一の清水トンネル貫通す。
- 浪華小唄、東京行進曲などの小唄全盛、
- トキー興行、流行し初める。
- 十月廿九日東京に萬國工業會議及世界動力會議開催、十一月六日共產黨八百二十五名の起訴を發表、十一月金解禁を公布(翌年一月十一日實施期)

豊太郎事務の閉會の辭に始まり、音楽隊の演奏と共に國歌合唱、神職の修禱、胸像除幕、降神、祝詞、玉串奉奠、昇神の式あり、委員長山本曾次氏の胸像建設経過報告を以て終り、次に勳功勞者表彰式に移り、終て來賓の祝辭朗讀十餘名あり、祝電の披露あり、田村譽張兩家の挨拶、被表彰者の答辭等ありて田村文吉氏の閉式の辭を以て終りを告げ、正午の閉會には折詰舞當、菓子箱、酒饗、記念品の贈與ありたり。當日午後一時半よりは、市内長岡館に於ける宴會に招かれたるもの百餘名なりしが、其接待振りの周到なること一同の感歎を禁ずる能はざる程なりき同地優秀藝妓連の演奏に係る上品なる四季の踊より始まり追分節、三階節、おけさ、長岡其句の雜田に至る迄、非常の喝采を博せり。尙東京及、大阪等より特に列席せる販賣店、同業會社等の二十餘名、同夜新潟市錦茶屋の晩餐に招かれ薄暮汽車にて同市に到着し再び新潟美人の歌舞に歡を盡し、旅館大野屋に到れるは午後十時過ぎなりし。翌二十四日午前九時よりは、豫定のプログラムにより、同市沼垂に在る印刷用紙工場に案内され、新設のセクションアルボイラー、カタビラー式碎木パルプ機、最新式の亜硫酸パルプ蒸着機並に運轉中の四臺の抄紙機等を確見し記念の撮影を終り、正午にはイタリ館にて晚餐を饗せられ一同は終始至れり盡せる接待に感激し歸路に着いた。

昭和四年

十月 ▼大阪市北區大開町四ノ一二八、浪速製紙會社(資本金一百二十五萬圓)板紙工場落成。鐵筋コンクリート建、米國製百八吋板紙機新設完成▼日露木材株式會社増資、現在資本金一百五十萬圓を五百萬圓に變更▼北越製紙會社、新潟工場、カタビラー式碎木パルプ機の運轉開始、日産二十噸▼三菱製紙會社高砂工場、増設の大版旭鐵工所製、中四十六吋の塗工機一臺、操業開始。▼十五日東京和紙界の重鎮、小泉新之助氏(丸山正太郎商店)勤続五十一年の祝賀會を福井樓に開催。十一月 ▼石川縣加賀製紙會社板紙工場(燒失)復舊工事に着手。▼佐久間建材工業所の製紙工場、機械の運轉開始。所長元建築紙工會社工場長佐久間榮吉氏、抄紙機は舊太陽強靱紙所有の機械を設置。▼十日日本製紙會社顧問、國谷誠之助氏死去、略歴印刷局抄紙課長、小倉製紙所取締役、兼技師長を歴任五位に叙せらる。明治十一年九月、十六歳にして印刷局抄紙部に入り以來累進高等官三等に迄昇進。業界の功勞者。▼北陸の製紙會社、西野製紙、武生製紙、新庄製紙は電氣動力より、デーゼルエンジンに変更す。▼十二日、京都日本クロス會社十周年創立祝賀會を天神川の新工場にて舉行す、専務取締役阪部三次氏。十二月 ▼滿洲國安東の鴨綠江製紙會社常務取締役に中島三代彦氏就任。▼島根縣木次町、出雲製紙會社、整理困難のため休業す、缺損高十餘萬圓。▼千葉縣市川町、東京毛布會社(資本金一百萬圓)八月燒失後再築コンクリート工事に着手。▼佐久間建材工業所(佐久間榮吉氏)は便利瓦厚紙、アスファルト紙を製造し、着々として好績を上ぐるに至れり。▼吳海軍工廠にて紙屑を原料とし製紙を興す。秘密書類の搬出を恐れたるより起されたるものか。

會社數	九	製造量	一、三六七、五〇〇封度
運轉工場數	三八	販賣量	一、三〇七、二八二封度
抄紙機台數	一五八臺	販賣率	九六・五
臨時總會	十一月十八日、日本工業俱樂部に於て王子、富士、三社各臨時株主總會を開き、合併に關する假契約の承認を求めたるに何れも異議なく原案全部を承認せり。而して樺太工業會社は、翌十九日同所に於て、定時株主總會を開き利益配當案を附議し、異議なく之れを可決したる後、更に臨時總會に移り、三社合同に關する假契約の承認を求めたり。是れより先き、同會社	輸入高	製紙用パルプ 九、二〇〇噸 光、二、〇〇噸 三、〇〇四、三六圓 印刷用紙 五、三五、七三封 墨、四、三三圓 筆記用紙 一五、七〇、〇〇封 罌、七、〇〇圓 圖書用紙 三三、七六封 一八、九七圓 吸取紙 五九、七五封 一、二、四八圓 紙 一七、〇九圓

一月 ▼王子製紙會社、新義州朝鮮工場、杉浦製百三十四吋長網ヤンキー運轉開始。工場長幸田吉之助氏

二月 ▼大阪市北區大開町、浪速製紙株式會社火災後の大建築完成し、本月より運轉開始。特種板紙抄造月産一千噸▼日本紙業株式會社、東京龜有工場の英國パーラムス社製百二十八吋長網ヤンキー抄紙機藝防工場に移轉さる。▼特種板紙聯合會成立(規約條件下記)の如し)委員長富士製紙、委員高崎、甲子、美作、日本紙業各製紙會社、操短一割五分を決議▼十三日、高松宮殿下、王子製紙會社、十條工場にお成り藤原社長御町重に御説明申上ぐ。

三月 ▼東京澁野川町西ヶ原一八二、日本紙業株式會社(資本金十萬圓)操業開始、社長山本篤太郎氏、鮫紙、アト紙抄造。▼日本紙業會社藝防工場(山口縣玖珂郡和木村)本邦最大の戸畑製網ヤンキー百四十八吋抄紙機(第五號機)運轉開始。和紙抄造、月産一百萬封度、工場長三浦長作氏

四月 ▼王子製紙株式會社十條工場、新設の第六號機、英國ウオームスレイ社製百六十八吋長網抄紙機運轉開始▼樺太工業會社、熊本縣坂本工場、増設の第七號機百吋長網抄紙機(自社製作)運轉開始。ワンプー、包装用紙抄造、月産能力三十五萬封度。工場長相良周吉氏

五月 ▼三十日、北越製紙株式會社、取締役兼支配人田村文吉氏、歐米視察の途に上る。▼小田原製紙株式會社、業績良好の爲、資本金二十萬圓を五十萬圓に増資す。

六月 ▼島根縣大原郡木次町、木次製紙株式會社(資本金二十五萬圓)成立。元出雲製紙會社、原紙、コッビー紙抄造▼臺灣、三極製紙株式會社

若槻全權の放送

二月九日、國際平和の使命をおびて、軍艦會議に出席した、若槻禮次郎氏が、遠く倫敦郊外マルコニー無線局より祖國に呼びかけた、壯重な熱辭は中繼放送によつて、完全に聴取された、國民は同氏に滿腔の感謝を捧げると同時に今更の如く科學の進歩の偉大なるに驚嘆した。

帝都復興祭
三月廿六日、大震災以來爰に七年、不斷の努力は遂に帝都を復興し、此式典を祝ふ市民は歡喜の亂舞に沸立つた。

金輸出解禁さる
(一月)
東、吉原兩飛行士
我航空界のため氣
を吐く。(九月)

●板紙聯合會の現狀
日本板紙聯合會及び板紙同業會と稱するは多年の歴史を有する和製板紙業

昭和六年

昭和六年製紙用品輸入高	昭和六年紙類輸入高
【製紙用機械】	製紙用バルブ
輸入先	一〇〇、〇〇〇噸
獨逸 七、七〇〇斤	二、八四〇、三六圓
價額 三、三六圓	印刷料紙
英國 一、〇〇〇斤	九、一八〇、三三封
同 三、三五圓	五、三六〇、九六圓
合計 五、〇〇〇斤	筆記用紙
同 三、七〇〇圓	二、六六〇、〇〇封
前年 三、七〇〇斤	四、〇〇〇、三六圓
同 三、七〇〇圓	圖書用紙
本年は昨年比し、價格約七割減少なり。	四、〇〇〇、三六圓
【製紙用金網】	吸取紙
瑞典 一、〇〇〇斤	一、九〇〇、〇〇封
價額 三、三五圓	三、九〇〇、〇〇圓
獨逸 五、〇〇〇斤	濾紙
同 一、五八二圓	四、〇〇〇、三六圓
佛國 二、四七斤	包裝及燐寸用紙
同 四、九六圓	三、〇〇〇、〇〇封
英國 五、九七斤	煙草用紙
同 三、三〇圓	二、五七〇、七〇圓
合計 二〇、五五斤	二〇封
同 四、九七圓	壁紙
前年 三、八〇〇斤	一、七〇〇、三三封
同 三、八〇〇圓	三、八八八圓
本年は昨年比	

一月 ▼榊太工業株式會社、社内改革の結果、經費年一百五十萬圓節減となり、制度も三部十課制に改正。工務部長(社長)大川平三郎氏、經理部長(専務)松本弘造氏、營業部長(専務)長谷川太郎吉氏、三氏兼任、調査課長鈴木實氏、工務課長大川鐵夫氏、山林課長高梨耕幣氏、會計課長越野三藏氏、検査課長田邊武次氏、秘書課長武藤忠義氏、販賣課長相良周吉氏、購買課長田中鐵藏氏、炭礦課長伊藤憲助氏、庶務課長小田稔氏、同時に同社切つての實業家藤田好三郎氏(大川社長の令弟田中榮八郎氏の女婿)この機に去る、ついで、元販賣課長川端憲三氏、庶務課長保田友太郎氏等辭く、榊工新制度のもとに於ける榊本専務は興銀より來りし人長谷川氏は元九州製紙より來りて榊工の重役たりし人、鈴木實氏は元中央製紙より來りて榊工に重役たりし人、大川鐵藏氏は大川平三郎氏の養子(埼玉縣尾高家の出)越野三藏氏は大川社長の令兄大川英太郎氏の女婿、田邊武次氏は大川社長の娘婿。相良周吉氏は同社九州阪本工場長たりし人、小田稔氏は同社保田庶務課長の元につとめたりし人、伊藤憲助氏は、同社惠須取の炭礦に關係深かりし人。臺灣製紙株式會社専務取締役、柏熊福太郎氏辭職す。同時に支配人制とし、臺灣銀行重役金城氏就任。▼廿六日高崎板紙株式會社千住工場、争議解決運轉開始。

二月 ▼六日印刷局抄紙部、新設抄紙機、瑞西エツシャイス社製七十四時長網印刷紙抄造運轉開始。▼十四日機械濾和紙同業會成立す。日本紙業、富士製紙、三菱製紙、榊太工業、小田原製紙、五會社により設立さる。▼板紙聯合會操短協定、満期となり、之が操短率四割とし、本年十月迄延期續行とす。▼九州紙業株式會社成立。福岡縣八羽郡女大塚町元木下製紙合資會社と同郡上妻村筑後製紙株式會社(資本金十五萬圓)により設立さる、本社上妻村に、營業所を羽大塚驛西に置く。

▼二十四日、富士製紙會社第三工場長水谷松太郎氏長逝さる。▼臺灣宜蘭、株式會社バガス工業試驗所創立。(資本金二十萬圓 拂込済五萬圓)元三極製紙の後身、代表取締役山瀬繁氏セロテックス製造。

三月 ▼富士製紙會社工場長移動、本社作業部技師山村正熊氏は富士第一工場長に、芝川工場長齊木義次郎氏は富士第三工場長に、江別工場技師加藤景平氏は芝川工場長に各々轉任。▼日本紙業株式會社大阪支店長中内一二三氏及大阪工場大池定治兩氏は、同社停年制により退職さる。營業部長小松徳太郎氏大阪支店長に、同工場次席中野國衛氏が大地氏の後任とし各々昇任。

四月 ▼東京市日本橋區小傳馬町、川島洋紙店、株式會社に組織變更、資本金一百萬圓全額拂込済、取締役、(専務)川島庄之助氏、(常務)國貞善一氏、川島万之助氏、監査役、小笠原菊次郎氏、柄原啓藏氏、小倉氏は富士製紙京都工場に支配人たりし人、國貞氏は川島洋紙店生へぬきの人。▼日本ボーリット、スペンサー株式會社設立。資本金五萬圓 本社東京市丸ノ内八重洲ビル三階、代表(取締役)内山普氏。▼九日印刷局技師、抄紙部紙科課長、白石亞細亞丸氏、歐米諸國の製紙業視察を命ぜられ、横濱解纜の淺間丸にて渡米の途につく。▼東京上野公園にて開催の化學工業博覽會に於て王子製紙、帝國製紙會社兩社、最高名譽賞を受領す。▼十三日、日本板紙聯合會、限産率四割を四割五分に擴張す。

三社合併條件及聲明書

王子、富士、榊工三大製紙會社、合同の件は、十月八日に及び、合併裁定者たる池田成彬、結城豐太郎兩氏の裁定書に對し三會社は万議によりて承認を表し、茲に大問題も圓滿に解決を告げたれば三會社は遂からず臨時株主總會を開き、其承認を經たる上、來春三月頃より一會社の下に、統率せらるべし。

(イ)合併條件
一、比率、王子一百株に對し富士は一百四十株 王子一百株に對し、榊工二百四十五株とす。
二、形式、富士及榊工に解散し、王子製紙會社は存續す。

(ロ)共同聲明書
(前略)今や産業界の趨勢に顧み經營を合理化すると共に、斯業の統制を圖るの緊要なるを認め、三社合同に關し、談合進行するに至つたのは斯業界の爲に慶賀すべきこととす。

し、價格約四割二分減少	唐紙
【製紙用フェルト】	四、三三封
英國 六、五七斤	一、六〇〇、〇〇圓
價額 一、七〇圓	模造日本紙及チツシユペーパー
米國 五、四七斤	三、五七〇、三三封
同 三、四七圓	五、〇〇〇、〇〇圓
加奈陀亞、六五斤	模造羊皮紙
同 一、四九圓	一〇、〇〇〇、〇〇圓
其他 若干	一、七五〇、〇〇圓
同 若干	其他の紙
合計 二九、三四斤	一、〇〇〇、〇〇封
前年 二七、〇九斤	六、三三〇圓
同 一、三三〇圓	紙
本年は昨年より價格に於いて約二割六分減少す	一、八三三、五三封
【松脂】	三三、〇〇圓
米國 六、六五、八〇斤	紙製品用紙
價額 一、〇五、三九圓	四、七〇〇、八九封
支那 一、三六、二〇斤	六、六二圓
同 九、四五圓	其他
佛領 七、〇六、八〇斤	三、七九、六六圓
同 五、〇六圓	累計
其他 若干	二七、六三、三九圓
同 若干	製紙用バルブ
合計 四、九四、七〇斤	一、三三噸
	一四、四六圓

す。唯三社の製紙生産高は、本邦全生産高の約九割に近く、隨つて合同の結果、獨占の弊に陥り、市價を吊上げ、利益を壟斷するの恐れあり、斯の如きは、社會の公衆たる新聞紙、全國民の教科書、其他日用必需品たる關係上、消費者その他社會公衆の利益を害するの恐れあるを以て、其點十分に考慮すべきこと最も肝要なり因て三社合同以後に於ては、極力獨占的利益壟斷の弊を避け、品質優良にして市價低廉なる商品を提供し、會社の基礎を鞏固ならしむると共に、國の内外に向て、發展を期せられんことを望む。

(後略) (兩氏署名、三會社長宛)

<p>同二、四九、〇〇圓 前年三、四八、二五〇圓 同二、五七、四八圓 本年は前年に比し、數量約二割二分の増加、價額約一割五分の減少</p> <p>三會社ア ト紙製造量</p> <p>昭和六年度及前年に於ける富士製紙會社神崎工場、日本加工製紙會社十條工場、三菱製紙會社高砂工場に於けるアト紙の製造量は左の如し。</p> <p>昭和六年 富士九、九四、七五封 日本加工九、三三、九八封 三菱三、六七、二七封 合計三、四四、〇〇封</p> <p>昭和五年 富士五、三〇、四三封 日本加工九、六七、一六封 三菱三、六七、六〇封 合計一六、六五、一九封</p>	<p>印刷料紙 一、四七、三六圓 二、六六、五五圓 煙草用紙 六、〇六、六〇封 二、六五、七三圓 鳥の子紙 六、三〇、二七封 六、三〇、二七封 連史紙 七、九三、三三封 九、三三、三三圓 包裝用紙 三、〇三、四六封 四、九六、九六圓 雁皮紙及薄葉紙 八、三三、三三封 吉野紙及典具帖 七、〇二、二〇封 一、〇〇、二〇封 半紙及美濃紙 四、六、九三封 四、六、九三圓 麻紙 一、三三、六〇封 一、三三、六〇圓 其他の紙(日本紙) 七、三三、〇六封</p>	<p>五月 ▼元中國製紙、専務取締役、其後名古屋、新川製紙の技師たりし數森淺造氏、宇都宮市戸祭町に栃木製紙所を創立。(元日本纖維工業會社)同氏は藏前高工出身、印刷局抄紙部技師。▼高松市栗林公園畔、常盤製紙所創立。國東照太氏、中津彌太郎氏、兄弟共營、抄紙機五臺和紙抄造、年産一百三十萬圓▼廿八日、日本紙業會社、鶴石工場、變電所に落雷發火、一棟半燒、工場運轉休止す。▼富士製紙會社榑太落合工場、工場係主任技師片山知又氏は歐米諸國の製紙業を視察し、この程歸朝す▼十三日、黄板紙販賣給付會成立。板紙聯合會及び同業會にて組織、本部大阪市北區堂島ビル内、支部東京富士製紙會社内にて置く▼二十日、王子製紙以下九大製紙會社は紙價安定の爲め、ストツク品の共同管理を六月より九月まで、三ヶ月間實行繼續に決す。</p> <p>六月 ▼日本板紙同業會、堂ビルにて例會開催、臺灣製紙會社、城東製紙所二社新加入す。▼和紙機械連同業會、新加入社。西野製紙。昭和製紙、淡路製紙、阿波製紙、三浦商工、上田製紙、六社新加入す。▼名古屋市外新川製紙所、十六日午前一時二十分出火、工場六百二十坪全燒。▼榑太廳長官、突如人絹パルプ用木材拂下げを認可す、企業家、東京人絹常務、藤掛典左衛門氏等、之を受く。▼十八日未明、富山縣五百石町の、立山製紙會社(資本金二十八萬圓)板紙專業、臺斷藏室より發火、工場全燒す。▼四日、東京市外千住町、下野製紙會社、東京工場、事業不振により工場閉鎖。職工四十八名を解雇す。</p> <p>七月 ▼十五日、日本板紙聯合會、限産率四割五分を八月中は五割限産に決定す。▼廿五日、共同パルプ株式會社(資本金三百萬圓拂込済七十</p>
---	--	---

昭和六年中の紙業界

昭和六年中に於ける紙業界は日本製紙聯合會加入諸製紙會社の新設或は擴張工事は、昭和五年中に悉く竣工したから、昭和六年には新に掘付けられた抄紙機が一つも無かつた。之に反して、王子製紙會社の榑太大泊亞礦酸パルプ工場は、昭和六年十月下旬限りで閉鎖された。製紙業が操業縮小中のことであるから一昨年富士製紙會社が北海道金山、池田兩パルプ工場を閉鎖したのと同じ事情に基くものである。此大泊工場は、大正三十一年に開業したものでしては、當時吾人に甚だ深き印象を與へた新事業であつたことを忘れてはならぬ。同年八月歐洲に大歐戰が勃發するや、我製紙界に於て、最も危惧したのは歐洲よりパルプの輸入が杜絶したるに懸念であつた。此時に際して、當時の三井榑太紙工工

<p>▲聯合會以外各社洋紙製造量</p> <p>印刷局抄紙部 九、二八、八八封 印刷用紙其他 五、〇〇、〇〇封 巴川製紙所 五、〇〇、〇〇封 電機用紙 三、五〇、〇〇封 特種製紙會社 三、五〇、〇〇封 甲子製紙會社 二、六六、二九封 ラシヤ紙其他 一、〇〇、〇〇封 若狹製紙會社 一、〇〇、〇〇封 表紙紙類 一、〇〇、〇〇封 三島製紙會社 一、〇〇、〇〇封 煙草用紙 一、〇〇、〇〇封 印刷用紙 一、〇〇、〇〇封</p>	<p>一、三三、三六圓 板紙 三、六三、〇六封 二、二四、五九圓 紙製品 四、〇六、五〇圓 四、〇六、五〇圓 果計 一五、四六、〇七圓</p>	<p>故中井翁は我國紙業界の元勳と誦はれただけに、事業に、殘された功績も随分澤山ある。</p> <p>明治三十年佛國セントルイスの博覽會には中井三之助氏、谷野彌吉氏兩人を派して博覽會見物と共に歐米各國の紙の動きを研究せしめた。</p> <p>翁は事業熱心の一面、亦憂國の士であつた。</p> <p>明治二十六年日清戰前、百萬圓の國防獻金の擧あるや、三井、三菱は五萬</p>	<p>五萬圓)解散。王子、榑工、富士、鴨綠江四製紙會社の剩餘パルプの一手販賣機關であつた。▼三十一日、日本紙業株式會社、常務取締役河路寅三氏辭任。安田系の帝國製麻に行く。後任元大文洋行支配人加藤正雄氏常務に就任。</p> <p>八月 ▼大阪市外、吹田製紙會社(資本金一百萬圓拂込済三十萬圓)新工場(敷地二千坪)、設立。瑞西エツシャウイス社製新抄紙機の据付工事に着手。▼二十日、日本製紙聯合會、加入製紙會社、印刷用紙限産率、三割五分を四割五分に増率、之を明年十月迄實施に決定及休轉補償制度復活す。▼名古屋市外新川製紙株式會社(資本金二十五萬圓)成立、代表取締役社長中井巳次郎氏、前身新川製紙所。</p> <p>九月 ▼五日、茶板紙統制會成立。富士、日本紙業、北越、高崎、伏木、日本建築紙工、甲子、古川、岡山、遠州各製紙會社により組織さる。二割減産實行、手持品の共同保管等を決定。▼十二日、日本板紙同業會、滿期となるが、向半期間存続に決す。尙限産率を四割五分とし特に十月中は三割とす。▼二十七日、宇都宮市、栃木製紙所操業開始。トイレット紙抄造、抄紙機六十時、圓網一台▼東京市堀内製紙會社、氷川工場經營を、小田原製紙會社に委任す。▼廿九日、鴨綠江製紙會社工場増設、百二十吋長網抄紙機据付工事に着手。豫算二十五萬圓。</p> <p>十月 ▼十三日、日本板紙聯合會、黄板紙限産協定期間を十一月以降六ヶ月間延長とする。限産率は生産噸數により比率を決定。最高四割五分最低三割七分五厘とす。▼大阪市此花區大開町三、浪速製紙會社(舊西成製紙跡)碎木パルプ已場操業開始、碎木パルプ機一臺設置、製品は三菱製紙會社高砂、中川兩工場に販賣。▼二十六日、王子製紙會社</p>
--	---	--	---

が、鋭意工事を進捗させ十一月より適宜なる亞礦酸パルプを供給したのみならず榑太のバブル工業に先鞭を著けたのは、我が製紙史上に特筆すべき重要な事柄を帯びてゐる。爾來榑太南部のエゾ松、トド松を消化して、自他の製紙工場に原料を供給すること滿十七年に及んで終に閉鎖の運命に會したけれども同會社は大正六年一月一年二月閉鎖した野田工場を經營しつゝある。

△……製紙工場と抄紙機械……▼

昨年經濟事情は、稀有の不景氣、寧ろ未曾有の悲境と云ふが適當かも知れない程であつたが、さる代りに主要なる諸製紙工場は、珍しく奏手無事にして水火の災にも罹らず、地盤にも變はれずに済んだ。只板紙業者中に於て、六月十六日に名古屋市外、新川町の新川製紙所と、同月十八日富

圓を、我中井翁は奮て五千圓を献金された、この當時の金で五千圓は莫大な金で、この奇特に對し、黄綬褒賞が下賜された。

中井翁の逸話として、左記は翁生前の直話である。

中井氏曰く、今から創業當時の洋紙界を回顧すると滑稽の感がある。明治九年一月でありました、一日禮服着用の上府廳へ出頭せよとの指令がありました。尤も私の外同業中で大森治郎兵衛、石角伊助、神内庄助と大江長左衛門の五人連で羽織袴をつけ、恐る／＼出頭すると榎村知事様面會あり、さて仰出さるゝ様、今般當應勸業課に於て梅津河にパピールフアブリックとて、獨逸より教師を聘して製紙場を設けたるが、是は在來の手漉と違ひ機械で製造するので一日に百貫目以上も出来る就ては國家奉公の爲に其方共に御用掛仰せ付らる。自今右製紙場のために萬事盡力致す様にとあり、それから、こう云ふ辭令も戴きました。

製紙場パピール、フアブリック御用掛申附候に付勸中府廳の間參入差許候事明治九年一月九日京都府、一同難有御受して引下り翌日から前垂を外して袴、羽織を着用し、日々勸業課や梅津へ出勤したのであります。名譽職の様なもの、准列任の資格で月手當五圓宛頂戴しました。

樺太大泊工場亞硫酸パルプ工場、運轉休止。及び豊原工場従業員半減し、兩工場にて五百名を圓滿解雇す。手當金合計約四十萬圓

十一月 ▼樺太工業會社泊居工場、人絹用パルプの製造開始。人絹パルプ年産約一萬噸。之を以て國産レヨン、パルプの矯矢とす。▼日本工藝紙協會、宮田三郎氏により、紙博覽會開催。十二日より一週間新宿三越にて開かる。

十二月 ▼静岡刑務所製紙部、設備機械幅五十四吋長網抄紙機一臺、大阪旭鐵工所製、(設備費四十萬圓)、六十四吋同網ヤンキー一臺、旭鐵工所製(設備費十五萬圓)印刷用紙其他抄造年産額五十萬圓▼富士製紙會社、北海道空知郡金山、碎木紙料工場(休業中)二日午後七時二十分出火、建物一棟五百七十二坪全焼す。▼三菱製紙會社、高砂工場次長長尾正志氏待命となり、技師石川盛次氏工場次長に、東京本店主事下田文雄氏は、臺灣竹林事務所に轉任し、後藤信雄氏主事に昇任す。▼名古屋市築港地、特種紙料試驗工場、三浦良次氏經營、亞硫酸マグネシア式の木材チップ蒸煮罐及、百二十吋長網ヤンキー抄紙機の試運轉及操業開始。

山縣王白石町の立山製紙會社工場とが自火にて殆ど全燒の厄に罹つたのは氣の毒の至りである。若し天水積極的方面に就ても、仔細に検討すれば諸工場に於て種々の改良施設が行はれたのであらうけれども、姑く之を指さず樺太工業會社が年末より人造糸用、パルプを供給するに至れるは特筆大書して然るべきであらう。次に日本製紙聯合會外にして抄紙機を増設したものは、予輩の知る限りに於て、東海道三島附近の特種製紙會社のみにして、同工場は九月に幅四尺の新網ヤンキーを竣工し、既設三台と共に、比較的少量高價の特種紙類をば、時季柄にも拘らず不費氣知らずに、晝夜抄造しつゝある。該經營者たる佐伯勝太郎博士や、債權者たる沼津銀行に對して、祝意を表せざるを得ない。

七昭和

會社數	九	製造量	三三、三三、三〇封度
運轉工場數	四一	販賣量	四四、七七、八二封度
抄紙機	一五七	販賣率	一〇・八
網數	一五、二二一吋	輸入高	製紙用パルプ 一〇、二六噸 印刷料紙 一五、三六、七五噸 大、四、〇七噸 五、五〇、一三圓
對米松脂輸入高	昭和七年並に前二年に、主として北米合衆國より輸入したる松脂の數量は左の如し、松脂の用途は大部分は洋紙のサイジングに使用せらるゝものなり。	筆記用紙	二、三六、三九封 四、二、二六圓
昭和六年	量四、九六、九〇斤	圖書用紙	三、九、四九封 二、二、四〇圓
昭和五年	量三、四六、七〇斤	吸取紙	三、三、三六封 六、三、三六圓
昭和四年	量二、五七、四八圓	漉紙	

一月 ▼二十日、日本製紙聯合會加入會社、洋紙共同管理品を一月約八百五十萬封度、二月約七百五十萬封度を解除し、値段を五分乃至六分引上ぐ。

二月 ▼日本板紙聯合會、黄板紙操短率五割四分を四割八分に緩和、特種板紙は現行二割を繼續▼富山縣五百石町立山製紙會社(板紙)火災後の復興工事完成、板紙機一臺新設、日産卅噸▼東京セロファン紙會社東京府岩淵町第二セロファン會社(元日本セロファン會社)を買収す。

三月 ▼富士製紙會社、樺太落合工場、クラフト設備擴張工事に着手▼七日、名古屋市外新川町、新川製紙所(中井已次郎氏經營)火災後の復興工事完成、乾燥筒十個増設、運轉開始▼株式會社中井商店相談役中井三郎兵衛翁、二十七日逝去、享年八十二歳、一般人士は、翁が生前我が業界に盡されたる功績と、人格を稱し、哀悼を表せざるはなかりき。▼大阪市此花區大開町浪速製紙會社(資本金二百五十萬圓)新設抄紙機、南千住製作所他三社共製、幅七十二吋運轉開始、ライニングパルプ、ボード製造、日産九噸▼静岡縣富士郡比奈、昭和製紙株式會社、社長齋藤知一郎氏、新抄紙機、東京南千住鐵工所製、九十吋長網据付工事完成、クラフト紙抄造、月産六十萬封度▼静岡縣富士郡鷹岡石川製紙所、石川周治氏死去。

四月 ▼英國關稅、五割非常稅を廢止、洋紙及パルプ二割乃至一割五分賦課に改正▼福井縣武生町、西野製紙所、セロファン機二臺新設、セロファン紙抄造開始、▼日本製紙聯合會、十八日春季總會を上野精養軒にて開催▼二十三日、日本人絹パルプ株式會社創立、資本金一千萬圓内二百五十萬圓拂込み、社長中野信吾、専務取締役塚越卯太郎、取締

中井翁略歴

株式會社中井商店の重役といふよりも、我國洋紙界切つての元勳と云つた方が其名がよく内外に聞へた、中井三郎兵衛氏は全國有数の紙商として天下に鳴る株式會社中井商店の創始者であつて、明治初年京都府知事から、パピール、フアブリック(現王子京都工場)の製造する洋紙販賣を命ぜられ、同製紙場御用係として府廳之間に參入を差許され、前垂を外して羽織袴で勸業課や製紙所へ日々出勤し、製造方法に、販賣に、苦辛、努力を傾倒して遂に洋紙今日の隆運を開拓し、我國洋紙創業時代に於ける大恩人として我國洋紙發達史上に始めて重要な登場人物であつた。

爾來、世運の進展により洋紙の需要は急激の増加を來し、三郎兵衛翁の經營する中井商店は年々商勢を張り、樺太都市に又店出張所を設置して全國

昭和八年

昭和八年	
<p>製造量 一、四四、二四、九六封 販賣量 一、四六、五九、七九封 販賣率 一〇一・%</p>	<p>運輸工場数 四二 抄紙機 一六三臺 (一五、八〇四吋)</p>
<p>事務用紙 臨時産業管理局用紙 紙標準化委員会は去六月假法定せる事務用紙以上寸法案を發表せるが、其案八種の寸法は左の如し。 一、書簡用紙B5 一八二×二五七 二、歌文タイプ用紙A4二一〇×二九七種 三、筆記帳A5一四八×二一〇B 6二二八×一八二 四、ノートブックA5、B5、A5、B6</p>	<p>輸入高 製紙用パルプ 一五九、九五封 二七、〇六、九五圓 印刷料紙 六九、九六、五九封 三六六、九四圓 筆記用紙 一、七〇、〇四封 四三、三九圓 圖書用紙 二四、九〇封 一七、三三圓 吸取紙 一八、〇四封 二五、四六圓 濾紙 一、五五封 三三、一〇〇圓</p>
<p>一月 ▼四日廣島市中製紙會社、社長岡崎貞一郎氏、運輸開始、元洋紙類抄造を黄板紙抄造に變更す。▼五日、富子製紙株式會社事務取締役小笠原菊次郎氏肺炎にて午後一時十五分逝去さる、多年功勞により正六位に叙せらる。▼十日印刷用紙模造紙共同保管品、五百萬封度解封紙價約五分値上。▼洋紙商界活況▼臺灣臺北市外松山頂東勢、アルテツクス製作所、柏熊福太郎氏經營、建材セロテツクスの製造も開始す。▼十三日、全國機械連和紙聯合會第三回總會を大阪大紙俱樂部に開催二割値上を決定、顧問日本紙業、小田原製紙、三浦商工、會長丸井工場幹事市川、大分、淡路、南海、新潟各製紙會社。 二月 ▼静岡縣、三島工業埋屋製紙會社、富士郡今泉村富士工場(買収)運輸開始、和紙抄造▼九日、静岡縣、特種製紙會社増資、現在資本金十一萬圓を二十三萬圓に變更、増資金出資者大倉邦彦氏二千株(十萬圓)社長佐伯勝太郎三百株(一萬五千圓)長尾正志氏一百株(五千圓)尙同社分工場岐阜市美濃製紙所、小型抄紙機二臺設置、營業開始す▼東洋織維工業株式會社創立(資本金一十萬圓)目的人造羊毛製造、社長大倉喜七郎男、設立後は東海紙料會社と合併に決定▼十日株式會社川島洋紙店取締役川島庄之助氏、令嗣亮之助氏死去、享年三十八▼二日、模造紙、印刷用紙、共同保管會、共同保管紙五百萬封度を解封▼十一日、小田原製紙會社、成増(東京)工場休轉中の五十六吋長網抄紙機(改造)運輸開始、畫用紙、コットン紙抄造。 三月 ▼十日機械連和紙聯合會、以下の三項を決定。(一)四月一日より生産の三割採短を行ふ事、(二)四月二十四日午前六時より五月一日午前六時まで全休し、採短する事、(三)右全休間中、各工場機械に封印を行</p>	
<p>三月廿七日聯盟脫退詔書下ル、八月九日關東防空演習舉行、故小笠原菊次郎氏 一月五日肺炎で急死された富士製紙株式會社事務取締役王子製紙株式會社取締役小笠原菊次郎氏は明治八年愛媛縣の橋八兵衛の長男に生れ先代次郎氏の養子となり四十一年家督を相續せられたもので前記二社長重役の外十數會社の重役を兼ねて此方面には功勞者である。始め三井物産に入つて精勵の間に高く、認められて三井合名會社に轉じ、同社から王子製紙に入つたもので同社野田工場建設には努力を傾注し、野田工場が王子製紙の工場として良好の成績を擧ぐるに至つたのは小笠原氏の力によるといはれてゐる。後高島氏の後を襲ふて苦小牧工場に轉じ同工場の成績を優等ならしめ、王子製紙重役、昇進して本社に轉任し、手胸</p>	

<p>五、株券A4 六、國債、地方債社債の各證券、A3二九七×四二〇B4、二五七×三六四A4 七、保險證券B4、A4、B5 八、商品切手E6</p>	<p>包裝及辨寸用紙 一八、〇六、二四封 一、四、四七圓 煙草用紙 七、〇四封 七、一四圓</p>	<p>唐紙 一、四、〇六封 五、〇六圓</p>	<p>模造日本紙及チツシユペーパー 二、二五、七五封 二、二五、七五圓</p>	<p>模造羊皮紙 一〇、〇四、〇七封 一〇、〇四、〇七圓</p>	<p>其他の紙 一三、九六封 二九、五五圓</p>	<p>紙合計 一、〇〇、〇四封 五九、二七圓</p>
<p>五、株券A4 六、國債、地方債社債の各證券、A3二九七×四二〇B4、二五七×三六四A4 七、保險證券B4、A4、B5 八、商品切手E6</p>	<p>包裝及辨寸用紙 一八、〇六、二四封 一、四、四七圓 煙草用紙 七、〇四封 七、一四圓</p>	<p>唐紙 一、四、〇六封 五、〇六圓</p>	<p>模造日本紙及チツシユペーパー 二、二五、七五封 二、二五、七五圓</p>	<p>模造羊皮紙 一〇、〇四、〇七封 一〇、〇四、〇七圓</p>	<p>其他の紙 一三、九六封 二九、五五圓</p>	<p>紙合計 一、〇〇、〇四封 五九、二七圓</p>
<p>ひ監視員により監視する事▼特種製紙株式會社、取締役増員、森脇淡四郎、長尾正志、谷本正雄の三氏、取締役に就任。監査役仁王藤八氏辭任、後任折居三氏監査役に就任▼二十二日、米國オハイオ州シリコにて市日刊新聞社主グロトハンタ氏來朝。我國製紙業を視察す▼東京市王子區袋町日本製紙會社、新工場設立工事に着手▼二十日静岡縣富士郡吉永村、丸菱製紙工場(元吉永製紙工場を岸本氏が買収)運輸開始。從來の和紙抄造を洋紙抄造に變更す。 四月 ▼兵庫縣尼ヶ崎、西成製紙會社(舊大阪製紙會社)獨立す。親會社の大阪市此花區西成製紙會社は浪速製紙會社と合併したるも、同社は依然西成製紙會社として續行。資本金百二十七萬二千圓、社長柏原孫左衛門氏、營業部長廣瀬季弘氏、黄板紙、マニラ板紙抄造▼廿八日來朝中の米人グロトハンタ氏横濱解纜のゼネラル、リ一號にて上海へ向へり▼十二日、富士製紙會社榑太落合工場長玉置寅輔氏長逝さる、享年五十九。同氏は英人ローチャ氏より製紙技術を傳習した玉置銀司氏の息にして、陸軍砲兵中尉、明治三十六年富士製紙に入社、大正三十年十一月落合工場長に就任、勤続二十九年五月、工場長後任に事務係主任山本省吾氏昇任す▼十八日、日本製紙聯合會春季總會を東京芝浦雅叙園に開催す。席上、元理事田中榮八郎氏特別會員に推薦さる。 五月 ▼王子製紙會社、榑太泊亞硫酸パルプ工場は、昭和六年に工場閉鎖せしが、パルプ需要増加の爲、之を再開、工場長に秋山晴雄氏任命王子製紙會社、榑太須取工場(元榑工)第九號機百四十二吋長網機(昭和五年以來休轉中)は新聞用紙需要が、一般的に輸入紙より國産紙に轉換したる爲、全速力を以て再運輸を開始す▼十八日、王子製紙會</p>						
<p>を揮はれたが、昭和四年穴水氏の没後、富士製紙の事務となつて目覺しい活躍をなし不況時代の同社を進行し而かも外間には少しも洩さなかつた手腕は今尙紙界の逸話となつて居る。氏の整理斷行に刺戟されて大製紙會社も之に倣ふたもので、氏は製品、人事の凡てに亘り富士製紙の大屋體を建て直したのは實に氏の賜と云はれて居る。 三社合同問題についても非常に奔走盡力せられ、遂に之れが成立と見て新會社重役に擬せられ、三社合同後に於ける氏の微腕に望を囑する所頗る多きものがあり一般紙界の氏に期待する所も亦甚だ大なるものがあつたが惜しむべし働き盛りに天壽を奪はれ黄泉の客となられたのは、獨り新會社の不幸であるのみならず、交紙業界の一大損失と謂はねばならぬ。</p>						

社に譲渡せり。本會社の取締役は藤部助太郎、今井武兵衛、宮部平助の三氏であつた。翌九年前記の圓網抄紙機を静岡市外天坪の本社工場に移轉せり、是れ現在株式會社静岡製紙場が賃借して操業せるものなりと云ふ。

大正十三年に至り、三立製紙會社の破綻となるや、岐阜工場は、ザイト紙株式會社(社長永田恭助氏)の買収する所となり齋藤金太郎氏の特許に係る圓網抄紙機を製造せるが、此際別に大阪藤永田造船所の製作に係る圓網抄紙機(巾五十九吋)一臺を増設したり。

ザイト紙の經營も不如意に陥りたる結果昭和二年七月には、合資會社大賣製紙場(代表者今村兵衛氏)が本工場を買収したるが、昭和七年十一月、組織變更して、美濃製紙株式會社となし、終に大倉洋紙店を經、特種製紙會社の所有に移り、創立以來十九年を経て茲に初めて合理的經營となれるものなり。

十一月 十三日、日本板紙同業會及茶板紙統制會、黄板紙は五割三分休轉を續行、茶板紙は一割増の三割休轉とす。及中國製紙會社同業會に加入す。十九日、日本製紙聯合會、木曜會に委任の四百萬封度解封なし更に一千萬封度解封す。十七日東京市王子區袋町、日本製紙會社創立十五周年記念祝賀會を新工場にて舉行。(詳細別記)朝鮮龍山、龍華製紙株式會社(資本金二十萬圓、營業成績良好工場を水澄浦に、設備六十吋圓網ヤンキー吋抄紙機一臺設置、和紙抄造)十九日東海道線用宗、巴川製紙所社長井上源之助、新設の用宗工場落成。開業式舉行敷地約二萬四千坪、抄紙機八十八吋長網一臺及プレスボード用圓網機一臺据付。静岡縣富士根村今泉大正工業株式會社(専務佐野貞作氏)新工場の建設工事に着手。完成後は杉浦鐵工所製長網抄紙機百二吋及百四吋各一臺設置。印刷局抄紙部、王子工場ビーター室新築工事に着手。二十日、日本製紙聯合會、共同管理品を六百五十萬封度解封、限産を三百五十萬封度緩和す。静岡縣昭和製紙會社(社長齋藤知一郎氏)鈴川第三工場、百吋長網抄紙機運轉開始、印刷用紙抄造。

十二月 十日、新潟瓦斯會社、製紙工場、板紙機の乾燥筒爆破。即死者一名、重傷者五名を出す。十二日、日本板紙同業會及茶板紙統制會、操短を黄板紙は五割五分、茶板紙は三割操短繼續す。三日全國機械連和紙聯合會、大阪中ノ島公會堂に例會を開催。十八日、日本製紙聯合會三百萬封度生産制限を緩和す。日本製紙株式會社、取締役補缺に監査役の岡本秀三氏、同目黒甚七氏、監査役に川合普氏、渡邊普造氏就任。日本製紙聯合會理事、長谷川太郎吉氏辭任さる。後任王子製紙、専務取締役井上憲一氏就任。尚長谷川氏は同會に盡された功勞により高島理事より銀製花瓶一對を贈呈さる。

さて板紙には種類が澤山ありまして、どこ迄か板紙の部で、どこからが厚紙(カード、ペーパー)であるかと云ふことは、厚度か互に交錯して明瞭を缺いて居りますから、其分類は、困難でありまして、全く品質により區別する外は仕方ありません。

板紙には、白板紙、茶板紙、マニラボール等多種類ありますが、ストロ1、ボールド、ペーパー、俗に馬糞紙と呼ばれる、糞板紙を普通ボール紙と稱へてゐます。

明治二十三年頃、歐洲より輸入されたボール紙は、現今の品よりは色合稍異味を帯び、光澤よく紙質も強靱で伸べ優良品でありました。一般需要者はこの輸入ボール紙を、其品に貼付されてある商標からして、産印ボール、劍印ボールと稱へて來ました。一見して馬糞を直感させらるゝ點よりして、馬糞紙と名付けてゐました。

九昭和

會社數	製造量	輸入高
九	一、五二、四七四、九六封	印刷用紙 一〇、一三三、七三封 五、五五〇、一六圓
運轉工場數	販賣量	アイト紙 一九、〇〇封
四二	一、〇五、八八四、五五封	同 有色 一、七〇、二〇封
抄紙機	販賣率	筆記用紙 一、七〇、八〇封
一五五	一割九厘	圖書用紙 四六、二五圓
網幅數		小計 一〇、五九二、九六封
一五、二五吋		
アイト紙製造量		
九年中に於ける左		
肥四會社のアイト		
紙(製紙を含む)		
製紙量、並に輸入		
量は左の如し。		
日本加工十條工場		
一、五〇〇、八六封		
王子神崎工場		
三、八七〇、八六封		
三菱高砂工場		
八、五五〇、三六封		
北越市川工場		
一、三三二、三六封		
合計		
一、五二、四七四、九六封		
右の合計を昭和八		
年の天、製紙封		
度に比すれば、實		
に二割八分四厘の		
増加を示す。而し		

一月 四日午前八時、特種製紙株式會社、社長佐伯勝太郎氏死去。享年六十五。(詳細別記)静岡縣富士郡吉永村、昭和製紙株式會社(専務取締役齋藤知一郎氏)王子製紙、三菱製紙の紹介に依り日本製紙聯合會へ加入す。十八日、日本製紙聯合會及大正會、日本工業俱樂部にて聯合新年會開催、出席者一百二十名。東京商工會議所議員、矢崎齋氏により、甲府市外荒川沿岸に桑皮を原料とする、製紙會社設立計畫起る。

二月 大川系、川西系、王子系、寺田系により、滿洲國內に六ルブ製造會社設立計畫起る。岐阜市美濃製紙株式會社、特種製紙會社に合併さる。廿六日、舊富士製紙會社専務取締役高橋貞三郎氏、澁谷の自邸にて死去。享年六十五。

三月 十九日、岡山縣兒島郡藤戸町天城、天城板紙合資會社(代表社員秋山文四郎氏)午後五時頃工場より出火、工場、原料等焼失、損害約三十萬圓。(資本金二十五萬三千圓)大正十四年創立。

三月 十五日、静岡縣富士郡今泉村、岳南製紙株式會社、場内ビーター室より出火、抄紙室、原料倉庫五棟全焼。損害十萬圓、専務取締役井出三郎氏、尙同社は昨年九月、資本金六十萬圓を三十萬圓に半減。

四月 十九日、日本製紙聯合會、加入會社、印刷用紙、模造紙の生産制限を三百萬封度緩和す。昭和製紙株式會社、第三工場(東海道鈴川)第二號機、六十吋長網抄紙機(元印刷局抄紙部所有)試運轉をなす。

五月 一日、東滿洲人絹バルブ株式會社(資本金一千五百萬圓)成立。取締役(社長)大川平三郎氏、(副社長)松本眞平氏、(専務)大川義雄氏、(専務)森本嘉太郎氏、入江魁氏、藤田謙一氏、藤田好三郎氏、井上源

佐伯博士略歴

佐伯勝太郎博士は山口縣岩國町土族成富氏の長男に生れ、明治二十五年七月、第一高等學校を卒業。直ちに東京帝大工科大学化學科に入り、同二十八年七月卒業。同月印刷局を振出しに、翌年一月技師に任ぜられ、同三十年十一月抄紙部長を命ぜられ、同三十三年二月には農商務技師に兼任、同三十九年三月歐米各國へ差遣され、大正四年二月博士會の推薦により工学博士を授けられ、同十三年十二月高等官一等に進み、同月依願免官。尋で從三位に叙せられ、病革むるや、勳二等瑞寶章を授けらる。同氏が在官中には、屢次内閣勸業博覽會其他の博覽會及共進會等の審査官を囑託され、農商務技師兼任中には、和紙の主産地を巡回して指導に努め、又農科大學及桐生高工等の講師を囑託され學生の教育に竭する所あり、尙製紙業に關

<p>て昨年中のオート紙輸入量は、僅かに一萬九千七百三十三封に、此價格二萬二千二百圓なり。</p> <p>製紙聯合會 員外製紙量 日本製紙聯合會會員外の諸製紙會社昭和九年度製紙量は左の如し。</p> <p>印刷局抄紙部 一〇、五、四、五封 印刷用紙、筆記用紙、其他 鴨綠江製紙會社 一〇、七、三、五封 有光紙、毛邊紙、包紙 特種製紙會社 五、七、九、四封 特種紙 甲子製紙會社 五、五、五、〇封 萬用紙、表紙、包紙等 三島製紙會社 一、三、三、六封 印刷用紙、常用紙、板木製紙所 一、六、七、五封 ケント紙、表紙類</p>	<p>六、三、三、六封圓 包裝及燐寸用紙 二、九、九、六封圓 二、五、一、〇〇封圓 煙草用紙 一、〇、七、七封圓 板紙 一、二、〇、〇、四封圓 模造日本紙及チツシユ 一、〇、三、〇、〇封圓 模造羊皮紙 七、二、四、九封圓 一、六、四、〇、六封圓 吸取紙 三、三、九、九封圓 一、七、〇、〇、〇封圓 濾紙 一、八、四、九封圓 一、〇、〇、〇、〇封圓 壁紙 八、六、三、七封圓</p>	<p>之吸氏、常田健次氏、瀧尾喜一郎氏、上田源三郎氏、佐々木義彦氏、(監査役)岩崎清七氏、下郷傳平氏、田中榮八郎氏、石川正作氏、松本留吉氏、河崎助太郎氏、森平藏氏、濱崎定吉氏、滿洲國政府經營六合成紙廠成立。滿洲國中央銀行が所有權を有し同銀行社員高橋芳藏氏が經理に任命、王子製紙朝鮮工場員小林茂氏が技師長に就任す。工場は鴨綠江右岸、安東縣六道溝口に設置、機械運和紙業者の組織なる薄葉會では、複寫用薄葉紙の寸法統一さる。王子製紙會社、大阪都島工場長堀越壽助氏、工場長を辭任、日本金刺會社及旭鐵工所の取締役社長就任。後任に十條工場工務係主任の堀良介氏就任す。二十日王子製紙會社、販賣部輸出係長代理、岩下欽彌氏、中井商店大阪支店田中良作氏、大同洋紙店吉田吉助氏、富士洋紙店藤岡良之助氏は、南洋方面の紙貿易調査の目的にて秩父丸に乗船同地に趣く。二十一日、日本製紙聯合會、六月分とし生産制限を三百萬封度緩和す。二十七日滿洲パルプ工業株式會社(資本金一千萬圓、拂込二百五十萬圓)創立。取締役(會長)大橋新太郎氏、(社長)寺田元之助氏、山田馬次郎氏、岸本忠兵衛氏、山本留次氏、南郷三郎氏、男爵赤松純一氏、尼ヶ崎芳雄氏、監査役寺田吉吉氏、肥塚銀次氏、子爵植村家治氏、相談役植村澄三郎氏、在役寺田田高郡藤田村、南海紙業株式會社(資本金五十萬圓)工場設備擴張工事に着手。手五十四吋及五十吋圓網抄紙機設置、取締役(社長)瀨戸健三氏、専務小池佐平氏。十八日、日本製紙聯合會、印刷用紙類の生産制限、四百萬封度緩和す。十二、三日、日本製紙同業會、黃板紙の操短措置及、茶板紙は一律二割とし共に繼續に決定。鳥取市大字古市、旭製紙株式會社(資本金三十萬圓)日本製紙聯合會に加入す。</p>
<p>大正工業會社 WON、POOF封 ケント紙、常用紙</p> <p>板紙同業會 減産六分緩和 日本板紙同業會(黃板紙)は、十二月十二日會合議議の結果、左の議項を決定した。</p> <p>一、生産制限は最高三割六分より六分を緩和し、之を三割とす。 二、輸出數量は從來の月八百五十噸に一千二百噸を増加し、之を二千五百噸とし昭和十年一月より實施す。 三、販賣價格は措置とす。 四、販賣數量は一ヶ月八千九百噸の豫定なるに、十一月は八千三百噸にして、六百噸の殘貨を生じたるも、之を無視して、現數</p>	<p>唐紙 二天、九、七封圓 一〇八、三〇封圓 其他の紙 一三三、〇三封圓 一三三、八七封圓 數量不明の分 一、五、〇、〇封圓 合計 一、五、〇、〇封圓 一、五、〇、〇封圓 輸出高 製紙用パルプ 八〇〇封圓 印刷用紙 一〇九圓 七、三、八、〇〇封圓 七、六、五、五封圓 煙草用紙 六、七、五、〇封圓 二、五、六、〇封圓 鳥の子紙 二、五、九、〇封圓 五、五、八、六封圓 連史紙 六、七、〇、〇封圓 六、七、〇、〇封圓 包装用紙</p>	<p>取締役(社長)鳥田林太郎氏、常務今村金三氏、藤岡貞次郎氏、菊原敬次氏、飯河安信氏、監査役長島謙氏、抄紙機第一號機七十八吋長網、第二號機三十六吋圓網を備ふ。</p> <p>八月 六日、大正會員代表者十九名、王子製紙會社の招待により約二週間樺太見學旅行をなす。十日、日本板紙同業會、黃板紙の減産率四割三分を三割六分に緩和す。茶板紙は尙二割を繼續す。二十日、日本製紙聯合會、印刷用紙類生産制限を(九月分)五百萬封度緩和す。東京市王子區浮間町、高林製紙所(火災後)七十二吋圓網抄紙機増設、第三號機百吋圓網増設付完成。名古屋市鳴海町、名古屋製紙株式會社(資本金三萬圓)創立。専務花岡榮一氏、常務兼工場長岡本辰雄氏、會計加藤秋三郎氏、技師船戸賢一の諸氏。十五日、日本製紙聯合會印刷用紙類四百萬封度(十月分)を限産緩和す。</p> <p>九月 廿一日、關西地方に未曾有の大風水害あり、製紙工場にては三菱高砂工場、王子神崎、都島、淀川兩三工場、乾製紙吹田工場、王子京都工場、鳥取縣では旭製紙會社等、何れも數日間休業す。大阪市内では紙貨約三萬噸、及新聞捲取用紙約一萬三千噸水害を蒙る。(詳細下記)</p> <p>十月 印刷局抄紙部、新設のビーター室、鐵筋コンクリート二階建(四百六坪)及紙屑精選室(木造二階建、一百八坪)落成。操業開始す。コンクリート製一千封度ビーター二臺新設、外にホリヨーク型鐵製一千封度ビーター二臺を備ふ。東京市荒川區尾久、旭電化株式會社、稻葉パルプの製造を開始す。扶桑製紙株式會社、創立總會開催、工場山梨縣日下部町に建設と決定。六日、樺太廳、冬山拂下げ木材代償につき、王子製紙會社と諒解成立す。前年より約四割四分の昂騰となる。二十</p>

(一〇四)

する研究の結果、幾多の特許權を獲られたり。退官後は、研究業より工場への使者を以て自任し、併せて後進の扶掖に勉められたが、大正十五年に及び、關西縣議選都長泉村の高野製紙所が破産後該工場は沼津銀行の所有となつたが、之を再興する計畫に参加し、特種製紙會社の設立となるや、推されて取締役社長に就任し爾來之が經營に専念し、着々成功を遂げ前年の不景氣時代にも、注文に逐はる、が如き盛況にて、特種製紙の名に背かず種々なる少量高價紙を工夫して、輸入品の防遏に成功したるは、斯業界に周知せらるる事實なり殊に兩三年前より沼津銀行の手を離れ、大倉洋紙店投資となり、昨年は岐阜市に在る一製紙工場をも買収し、資本金を増加して事業益々發展の緒に就きたるは折柄、卒然病歿されたるは知友の哀悼措かざる所なり。

<p>大正工業會社 WON、POOF封 ケント紙、常用紙</p> <p>板紙同業會 減産六分緩和 日本板紙同業會(黃板紙)は、十二月十二日會合議議の結果、左の議項を決定した。</p> <p>一、生産制限は最高三割六分より六分を緩和し、之を三割とす。 二、輸出數量は從來の月八百五十噸に一千二百噸を増加し、之を二千五百噸とし昭和十年一月より實施す。 三、販賣價格は措置とす。 四、販賣數量は一ヶ月八千九百噸の豫定なるに、十一月は八千三百噸にして、六百噸の殘貨を生じたるも、之を無視して、現數</p>	<p>唐紙 二天、九、七封圓 一〇八、三〇封圓 其他の紙 一三三、〇三封圓 一三三、八七封圓 數量不明の分 一、五、〇、〇封圓 合計 一、五、〇、〇封圓 一、五、〇、〇封圓 輸出高 製紙用パルプ 八〇〇封圓 印刷用紙 一〇九圓 七、三、八、〇〇封圓 七、六、五、五封圓 煙草用紙 六、七、五、〇封圓 二、五、六、〇封圓 鳥の子紙 二、五、九、〇封圓 五、五、八、六封圓 連史紙 六、七、〇、〇封圓 六、七、〇、〇封圓 包装用紙</p>	<p>關西地方 風水害狀況 昭和九年の暴風水害は關西、四國と、廣範圍に涉つたが、日本商工業の心臓たる大阪は、最も猛烈を極めた、内でも西大阪に屬する、港區、大正區、此花區、西成區等が最も被害甚大であつた。家屋の倒壊、壓死、倉庫の浸水等夥しき數に上つた、中でも小學校舎の崩壊、小學校生徒の壓死は言語に絶し、酸鼻の極みであつた。商店被害の状況については大同、富士中井、大倉、博進、岡本、三、九、大等大正會に屬する商店は、何れも被害は薄かつた。大一洋紙店小川、萩原、藤本、尾崎朝田、仲井庄、高田幸等十日會に屬する洋紙店の被害も輕微であつた。日本紙業大阪支店の被害も輕少で済んだ。</p>
---	---	---

(一〇五)

昭和十年	<p>右の如く制限率六分を緩和したるは海外輸出の好望に鑑み毎月一千二百噸の増加になる。</p> <p>谷野彌吉氏 日産協より表彰 我が國洋紙製造販賣の隆盛及び輸出貿易の伸張に顯著なる功績を垂れ、今や我が洋紙界の元老、産業界の重鎮として榮名高き株式会社大同洋紙店取締役社長谷野彌吉氏は、十月中旬亦復日本産業協會より、その多年の功勞を表彰さるゝ所となつた。日本産業協會は伏見宮博恭王殿下を總裁として奉戴するものであるが、十一月二十六日、東京華族會館に於いて舉行の表彰式上、谷野氏は長くも總裁宮殿下よりこの榮ある表彰状の御親授を蒙り、剩へ御賜餐の榮を擔はれたものである。</p>	<p>五、三三、八六七封 右の如く制限率六分を緩和したるは海外輸出の好望に鑑み毎月一千二百噸の増加になる。</p> <p>小計 一〇、五三、六六七封 三、三三、四四〇封 板紙 三、五五、八六七封 七、八九七封 其他の紙 一五、三三、六六七封 四、七〇〇封 紙類合計 一五、三三、六六七封 一〇、五三、六六七封 紙製品 一〇、六六、七六七封 總合計 三、三三、四四〇封</p>	
<p>抄紙機 一五五 噸</p> <p>輸出高 本年累計 八、五八、三〇八圓 印刷用紙 六、五五、四七封 煙草用紙 六、六五、六〇封 三、三三、三〇八圓 連史紙 一、五五、三三封 一、六、七四圓 包裝用紙 五、四七、二〇封 七〇〇、五八圓 模造紙 一六、四八、二二封 計 一三、八九、七三圓 一三、五〇、五〇圓 雁皮紙及薄葉紙 一、七四、〇〇封 一、〇四、九六圓 吉野紙及典具帖</p>	<p>人絹用バルブ 二八五、三二、二二封 三、九九、九三圓 メカニカル、バルブ 一、〇九、〇〇封 本年累計 四、八三、四四圓</p> <p>印刷用紙 一〇、五七、三三封 六、九、九三圓 アート紙 一、八六封 三、三〇圓 有、色 九、〇六封 筆記用紙 一、元、六〇封 三、二八圓 圖書用紙 一、七、五五封 一、三、五〇圓 計 一〇、七四、六六封 七、三、六六圓 包裝及 マツチ用紙</p>	<p>六日、日本製紙聯合會、丸ノ内東京會館に秋季總會開催。廿九日、日本製紙聯合會、印刷用紙類、限産率を五分緩和し、四割五分となし、二年繼續に決定。</p> <p>十一月 ▼静岡縣、大正工業株式會社(資本金一百萬圓、専務取締役佐野貞作氏)第二工場、百八吋通常長網、百八吋長網ヤンキー兩抄紙機、運轉開始。三十日鴨綠江製紙會社、取締役門野重九郎、監査役田中榮八郎兩氏辭任され、相談役に就任。後任とし、取締役に足立正、幸田吉之助兩氏監査役に高島菊次郎氏就任。</p> <p>十二月 ▼日本加工製紙株式會社、新工場建設工事に着手。同工場は鐵筋コンクリート建、建坪四百坪にして完成後は幅五尺二寸の塗工機一臺増設。十一月、山形市小白川町、山形製紙株式會社(資本金五十萬圓)解散す。社長長谷川仁氏。▼十二月、日本板紙同業會(黄板紙)、限産率を三割六分を緩和し、三割として繼續す。▼十五日、機械濾和紙聯合會、限産率を現行通り三割にて繼續に決定。▼滿洲國安東縣六道溝、六合成公記造紙廠、抄紙機の運轉開始。第一號機一四三吋長網變形ヤンキー抄紙機、抄紙月産量五十萬封度、印刷用紙類抄造、第二號機、四二吋圓網ヤンキー抄紙機、抄紙月産量二十萬封度、燒紙類抄造、共に操業開始。主腦者經理高橋芳藏、副經理野原俊輔、技師長小林茂諸氏、顧問幸田吉之助氏(王子製紙朝鮮工場長兼鴨綠江製紙常務取締役)。</p> <p>一月 ▼臺灣興業株式會社、設立計畫具體化す、臺灣紙業の傍系、資本金五百萬圓、鬼堂を原料とする製紙事業を目的とす。▼鴨綠江製紙株式會社、常務取締役中島三代彦氏、東京出張所に轉任、新に取締役に幸田吉之助氏に就任。</p>	
昭和十年	<p>抄紙機 一五五 噸</p> <p>輸出高 本年累計 八、五八、三〇八圓 印刷用紙 六、五五、四七封 煙草用紙 六、六五、六〇封 三、三三、三〇八圓 連史紙 一、五五、三三封 一、六、七四圓 包裝用紙 五、四七、二〇封 七〇〇、五八圓 模造紙 一六、四八、二二封 計 一三、八九、七三圓 一三、五〇、五〇圓 雁皮紙及薄葉紙 一、七四、〇〇封 一、〇四、九六圓 吉野紙及典具帖</p>	<p>人絹用バルブ 二八五、三二、二二封 三、九九、九三圓 メカニカル、バルブ 一、〇九、〇〇封 本年累計 四、八三、四四圓</p> <p>印刷用紙 一〇、五七、三三封 六、九、九三圓 アート紙 一、八六封 三、三〇圓 有、色 九、〇六封 筆記用紙 一、元、六〇封 三、二八圓 圖書用紙 一、七、五五封 一、三、五〇圓 計 一〇、七四、六六封 七、三、六六圓 包裝及 マツチ用紙</p>	<p>六日、日本製紙聯合會、丸ノ内東京會館に秋季總會開催。廿九日、日本製紙聯合會、印刷用紙類、限産率を五分緩和し、四割五分となし、二年繼續に決定。</p> <p>十一月 ▼静岡縣、大正工業株式會社(資本金一百萬圓、専務取締役佐野貞作氏)第二工場、百八吋通常長網、百八吋長網ヤンキー兩抄紙機、運轉開始。三十日鴨綠江製紙會社、取締役門野重九郎、監査役田中榮八郎兩氏辭任され、相談役に就任。後任とし、取締役に足立正、幸田吉之助兩氏監査役に高島菊次郎氏就任。</p> <p>十二月 ▼日本加工製紙株式會社、新工場建設工事に着手。同工場は鐵筋コンクリート建、建坪四百坪にして完成後は幅五尺二寸の塗工機一臺増設。十一月、山形市小白川町、山形製紙株式會社(資本金五十萬圓)解散す。社長長谷川仁氏。▼十二月、日本板紙同業會(黄板紙)、限産率を三割六分を緩和し、三割として繼續す。▼十五日、機械濾和紙聯合會、限産率を現行通り三割にて繼續に決定。▼滿洲國安東縣六道溝、六合成公記造紙廠、抄紙機の運轉開始。第一號機一四三吋長網變形ヤンキー抄紙機、抄紙月産量五十萬封度、印刷用紙類抄造、第二號機、四二吋圓網ヤンキー抄紙機、抄紙月産量二十萬封度、燒紙類抄造、共に操業開始。主腦者經理高橋芳藏、副經理野原俊輔、技師長小林茂諸氏、顧問幸田吉之助氏(王子製紙朝鮮工場長兼鴨綠江製紙常務取締役)。</p> <p>一月 ▼臺灣興業株式會社、設立計畫具體化す、臺灣紙業の傍系、資本金五百萬圓、鬼堂を原料とする製紙事業を目的とす。▼鴨綠江製紙株式會社、常務取締役中島三代彦氏、東京出張所に轉任、新に取締役に幸田吉之助氏に就任。</p>

板紙同業會決議事項

日本板紙同業會は、不需用期にも拘らず未嘗有の好賣行となり、大正七年以來のレコードを示せりこれに對し、同會では協定事項を次の如く決定せり。

一、生産制限率は昭和十二年二月廿五日の臨時總會にて次の如く、最高三割五分を掲置く。

一、販賣価格は従來東京、大阪別建値なりしを統一し標準九十圓とす。

一、四月限りにて終る日本板紙同業會の協定事項は、そのまゝ五月以降明年四月まで、一ヶ年間延期す。

而して同會に於ける從來唯一のアウトサイダーなりし、天城板紙の同會加盟を正式承認せり、これまで兎角崩れ勝ちなりし、販賣價格も今後は維持せらるべく且つ來月よりは需用期に向ふを以つて、かたゞ板紙界は活況を呈するならんと見らる。板紙同業會は三月二十六日、關東側の緊急會議を開き原料の騰貴、賣行の旺盛に鑑み、一噸に付き十圓の値上即日實行を決定したり。

昭和十年の新抄紙機

昭和十年の我が製紙業界は、比較的平凡であつたが、經濟的には好調を持續し、製造量も販賣量もレコードを示してゐる。日本製紙聯合會は、更に二會社を増加して、正會員十一と成つた。此の年は久しぶりで、抄紙機を増設したり、或は現在に増設しつゝあるものが若干ある。四月頃より運轉を開始した日本製紙會社、藤防工場の五十八吋長網は最近印刷用紙を抄造するやうになり、北越製紙會社新潟工場の百吋新長網、西野製紙所武生工場の七十二吋新長網は、共

昭和十年	<p>抄紙機 一五五 噸</p> <p>輸出高 本年累計 八、五八、三〇八圓 印刷用紙 六、五五、四七封 煙草用紙 六、六五、六〇封 三、三三、三〇八圓 連史紙 一、五五、三三封 一、六、七四圓 包裝用紙 五、四七、二〇封 七〇〇、五八圓 模造紙 一六、四八、二二封 計 一三、八九、七三圓 一三、五〇、五〇圓 雁皮紙及薄葉紙 一、七四、〇〇封 一、〇四、九六圓 吉野紙及典具帖</p>	<p>人絹用バルブ 二八五、三二、二二封 三、九九、九三圓 メカニカル、バルブ 一、〇九、〇〇封 本年累計 四、八三、四四圓</p> <p>印刷用紙 一〇、五七、三三封 六、九、九三圓 アート紙 一、八六封 三、三〇圓 有、色 九、〇六封 筆記用紙 一、元、六〇封 三、二八圓 圖書用紙 一、七、五五封 一、三、五〇圓 計 一〇、七四、六六封 七、三、六六圓 包裝及 マツチ用紙</p>	<p>六日、日本製紙聯合會、丸ノ内東京會館に秋季總會開催。廿九日、日本製紙聯合會、印刷用紙類、限産率を五分緩和し、四割五分となし、二年繼續に決定。</p> <p>十一月 ▼静岡縣、大正工業株式會社(資本金一百萬圓、専務取締役佐野貞作氏)第二工場、百八吋通常長網、百八吋長網ヤンキー兩抄紙機、運轉開始。三十日鴨綠江製紙會社、取締役門野重九郎、監査役田中榮八郎兩氏辭任され、相談役に就任。後任とし、取締役に足立正、幸田吉之助兩氏監査役に高島菊次郎氏就任。</p> <p>十二月 ▼日本加工製紙株式會社、新工場建設工事に着手。同工場は鐵筋コンクリート建、建坪四百坪にして完成後は幅五尺二寸の塗工機一臺増設。十一月、山形市小白川町、山形製紙株式會社(資本金五十萬圓)解散す。社長長谷川仁氏。▼十二月、日本板紙同業會(黄板紙)、限産率を三割六分を緩和し、三割として繼續す。▼十五日、機械濾和紙聯合會、限産率を現行通り三割にて繼續に決定。▼滿洲國安東縣六道溝、六合成公記造紙廠、抄紙機の運轉開始。第一號機一四三吋長網變形ヤンキー抄紙機、抄紙月産量五十萬封度、印刷用紙類抄造、第二號機、四二吋圓網ヤンキー抄紙機、抄紙月産量二十萬封度、燒紙類抄造、共に操業開始。主腦者經理高橋芳藏、副經理野原俊輔、技師長小林茂諸氏、顧問幸田吉之助氏(王子製紙朝鮮工場長兼鴨綠江製紙常務取締役)。</p> <p>一月 ▼臺灣興業株式會社、設立計畫具體化す、臺灣紙業の傍系、資本金五百萬圓、鬼堂を原料とする製紙事業を目的とす。▼鴨綠江製紙株式會社、常務取締役中島三代彦氏、東京出張所に轉任、新に取締役に幸田吉之助氏に就任。</p>
<p>抄紙機 一五五 噸</p> <p>輸出高 本年累計 八、五八、三〇八圓 印刷用紙 六、五五、四七封 煙草用紙 六、六五、六〇封 三、三三、三〇八圓 連史紙 一、五五、三三封 一、六、七四圓 包裝用紙 五、四七、二〇封 七〇〇、五八圓 模造紙 一六、四八、二二封 計 一三、八九、七三圓 一三、五〇、五〇圓 雁皮紙及薄葉紙 一、七四、〇〇封 一、〇四、九六圓 吉野紙及典具帖</p>	<p>人絹用バルブ 二八五、三二、二二封 三、九九、九三圓 メカニカル、バルブ 一、〇九、〇〇封 本年累計 四、八三、四四圓</p> <p>印刷用紙 一〇、五七、三三封 六、九、九三圓 アート紙 一、八六封 三、三〇圓 有、色 九、〇六封 筆記用紙 一、元、六〇封 三、二八圓 圖書用紙 一、七、五五封 一、三、五〇圓 計 一〇、七四、六六封 七、三、六六圓 包裝及 マツチ用紙</p>	<p>六日、日本製紙聯合會、丸ノ内東京會館に秋季總會開催。廿九日、日本製紙聯合會、印刷用紙類、限産率を五分緩和し、四割五分となし、二年繼續に決定。</p> <p>十一月 ▼静岡縣、大正工業株式會社(資本金一百萬圓、専務取締役佐野貞作氏)第二工場、百八吋通常長網、百八吋長網ヤンキー兩抄紙機、運轉開始。三十日鴨綠江製紙會社、取締役門野重九郎、監査役田中榮八郎兩氏辭任され、相談役に就任。後任とし、取締役に足立正、幸田吉之助兩氏監査役に高島菊次郎氏就任。</p> <p>十二月 ▼日本加工製紙株式會社、新工場建設工事に着手。同工場は鐵筋コンクリート建、建坪四百坪にして完成後は幅五尺二寸の塗工機一臺増設。十一月、山形市小白川町、山形製紙株式會社(資本金五十萬圓)解散す。社長長谷川仁氏。▼十二月、日本板紙同業會(黄板紙)、限産率を三割六分を緩和し、三割として繼續す。▼十五日、機械濾和紙聯合會、限産率を現行通り三割にて繼續に決定。▼滿洲國安東縣六道溝、六合成公記造紙廠、抄紙機の運轉開始。第一號機一四三吋長網變形ヤンキー抄紙機、抄紙月産量五十萬封度、印刷用紙類抄造、第二號機、四二吋圓網ヤンキー抄紙機、抄紙月産量二十萬封度、燒紙類抄造、共に操業開始。主腦者經理高橋芳藏、副經理野原俊輔、技師長小林茂諸氏、顧問幸田吉之助氏(王子製紙朝鮮工場長兼鴨綠江製紙常務取締役)。</p> <p>一月 ▼臺灣興業株式會社、設立計畫具體化す、臺灣紙業の傍系、資本金五百萬圓、鬼堂を原料とする製紙事業を目的とす。▼鴨綠江製紙株式會社、常務取締役中島三代彦氏、東京出張所に轉任、新に取締役に幸田吉之助氏に就任。</p>	

同 七年	一、三三、七六	六、八
同 八年	一、六六、五九	二、八
同 九年	一、〇五、八四	一〇、八
同 十年	一、六五、〇〇	三、〇

十年度の需要統計中には五月から新しく聯合會に加入した大正工業、巴川製紙兩社の分も加はつてゐる。しかし、この兩社の生産高は月額にして合計百五十六萬ポンドのもので、聯合會の生産高の1%強に過ぎない。この兩社の増加分を差引けば、十年度の販賣増加率は3%くらいとならう。

洋紙の過去二十ヶ年間の毎年平均の需要増加率は一割前後となつてゐる。これに比較すると最近数年間の増加率は、九年度が平均率に達しただけで、大分低くなつてゐる。洋紙の人口一人當りの消費高、その他の諸外諸國の消費と比較すると、日本のそれは未だ著しく低く、前途の需要増加の發展性を想はせる。しかし事實問題として見ると、相當な好景氣となつてゐる。近年において需要の増加率は、過去に比べて甚だしく低下してゐるのだ。この事實は恐らく洋紙相場が比較的高く、消費の躍進を阻んでゐる、といふことによつて説明せらるべきものであらうと思ふ。

需要の増加率は純つて來たが、昭和五、六年ごろのように、消費が實數においても減る、といふようなことは勿論ない。

四十二ヶ所、資本總額二千二百四十餘萬元に達す。内最も盛なる地方は江蘇省にて工場數十四。資本額六百餘萬元。廿二日、東京市葛飾區上千葉町丸吉製紙株式會社(東京電氣の傍系)増設の第二號機六十五吋長網抄紙機運轉開始。抄物マニラ板紙、地券紙。三十一日高崎市八島町高崎板紙株式會社第二工場全焼、外に倉庫三棟及据付の八十四吋板紙機(日産十噸)も共に烏有に歸す。

六月 七日、兵庫縣高砂町、三菱製紙株式會社高砂工場、自家用三千キロワットの大發電所竣工。王子製紙株式會社、専務取締役橋原啓藏氏小切手事件に關聯し同社を辭す。王子製模造紙の東都に於ける統制販賣機關たる、株式會社東信會(資本金二十萬圓)組織さる。役員(代表)岡本彌兵衛氏、西澤榮藏氏、中井三之助氏、川島庄之助氏、大倉邦彦氏、谷野彌吉氏、事務主任星新次郎氏(岡本商店)、營業所を京橋區銀座四丁目、舊富士製紙本社跡に置く。大日本セルロイド株式會社、大阪市神崎川附近に新設の網干工場建設工事に着手、プライタ厚紙の自給を圖るを目的とす。

七月 二日名古屋に於ける王子模造紙の統制販賣機關、中信會組織さる。役員田中國三郎氏、山田惣一郎氏、伊藤常七氏、小島正雄氏、岩田義雄氏、事務主任山本彌之助氏。宇都宮市、東洋濾紙株式會社、鐘紡より供給の落棉を原料とし、醋酸纖維素及び硫酸紙の製造開始。朝鮮群山に朝鮮製紙株式會社創立、朝鮮に産する棉莖皮を原料として朝鮮紙製造を目的。社長樋口虎三氏。京城府黃金町、北鮮製紙化學工業株式會社(未創立)は朝鮮吉州に約二十萬坪の工場敷地を買收し、建設費約五百萬圓を以て建設工事に着手す。十七日、北越製紙株式會社新潟工場長小

國名	昭和十年	對合計
一、加察陀	五、五三、〇〇	九、〇%
二、英國	一、〇三、二、七	三、三%
三、米國	一、八三、二、〇	二、八%
四、獨逸	九、六、〇	〇、一%
五、日本	七、六、〇	〇、一%
六、佛蘭	七、六、〇	〇、一%
七、ニユー	七、六、〇	〇、一%
八、芬蘭	六、六、〇	〇、一%
九、瑞典	六、六、〇	〇、一%
一〇、蘇聯	六、六、〇	〇、一%
一一、波蘭	六、六、〇	〇、一%
一二、智利	六、六、〇	〇、一%
一三、ラトビア	六、六、〇	〇、一%
一四、エストニア	六、六、〇	〇、一%
一五、丁扶	六、六、〇	〇、一%
合計	一、一七、一、〇〇	一、〇〇%

い。財界に反動が來ない限り、今後も一年に四、五%程度の増加を繼續して行くものと思はれる。

輸出洋紙の好況

輸出紙も近年順調に發達してゐる。過去における日本洋紙の主要輸出國は支那で、昭和四、五年ごろには、一年二百萬圓近くの輸出高を示し、總輸出の三分二を占めてゐた。しかるに、その後、日貨排斥その他の影響で、對支輸出は年々衰退し、代つて出現したのが滿洲國で、年々輸出は著増し、最近では總輸出の四割位を占めるまでに發展して來た。對滿輸出は將來もさらに伸びるものと豫期せらる。

最近五年間洋紙輸出高

千ポンド	一ポンド當
昭和六年	二二、一七
七年	八、六六
八年	一〇、一〇
九年	一〇、三三
十年	一三、〇〇

輸出増の増加とともに、輸出相場の高くなつてゐることも注意を要する。三、四年前までは、聯合會が輸出紙に對して、各社の輸出金中から一ポンドにつき一錢または二錢くらいの奨励金を出してゐたもので、これはストック處分のた

林宗作氏(舊藏前高工機械料出身)は故田村文四郎氏の後任として取締役に就任す。十九日、王子製紙株式會社長藤原銀次郎氏は、同社能率課長早房長徳氏、參事福喜多靖之助氏、秘書山形武夫氏を伴ひ北米、カナダ、アラスカの沿岸地方を視察すべくエンプレス・オブ・ジャパン號にて横濱出帆、同廿一日彼地に安着。十二日、日本板紙同業會、六月中の生産過剩に鑑み七月分の限産率を現行率三割五分を五割に擴張す。十三日、茶板紙統制會、六月中の好況に鑑み八月中限産率を現行率一律二割より五分緩和し一割五分とす。十七日、機械濾和紙同業會、六月中の近年稀有の好況に依り八月中の操短率現行、三割を一割緩和し、二割に短縮す。加盟會社、王子製紙、日本紙業、小田原製紙、三菱製紙、昭和製紙、志摩製紙、三浦商工、上田商店、明田製紙の九社加盟。十三日、樺太敷香、日本人絹バルブ株式會社、資本金倍加して二千萬圓に増資、同時に人絹バルブの本格的製造開始、十年中約一萬噸製造。十三日薄葉會、原料の騰貴により従來價より約二割の値上げを即日實行せり。加盟會社、日本紙業、小田原製紙、三浦商工、上田商店、石見製紙、南海紙業、佐野製紙、丸井工場、八社加盟。二十二日、日本製紙聯合會、印刷用紙限産率四割四分を四割三分に緩和す、又輸出製品に對しては限産率を五分とし、現行率より二分五厘緩和す、共に向後滿一ヶ年間繼續に決す。廿六日、大阪市東區備後町株式會社富士洋紙店、専務取締役藤岡貞次郎氏永眠さる。享年六十五、氏は高松市の人幼少より、山田洋紙店に入り、長じて支配人となり、改稱後富士洋紙店専務取締役に就任、大正會の元老紙業界の重鎮、一般よりその死を惜まる。

八月 三日、樺太敷香在日人絹バルブ株式會社、營業開始、高島社長

最近九年間各國新聞用紙製造高

一、本表は米國ニユースプリント、サーヴィス、ビュローの調査による

一、※印を附したるは夫々の國に於ける一九二七年以高を示す。

國名	昭和九年	昭和八年
加察陀	五、五三、〇〇	二、九七、〇〇
英國	九、七〇、〇〇	九、〇〇、〇〇
米國	九、三〇、〇〇	九、〇〇、〇〇
獨逸	九、〇〇、〇〇	九、〇〇、〇〇
日本	七、六〇、〇〇	七、六〇、〇〇
佛蘭	七、六〇、〇〇	七、六〇、〇〇
ニユー	七、六〇、〇〇	七、六〇、〇〇
芬蘭	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
瑞典	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
蘇聯	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
波蘭	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
智利	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
ラトビア	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
エストニア	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
丁扶	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
ウヰラント	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
芬蘭	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
瑞典	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
蘇聯	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
波蘭	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
智利	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
ラトビア	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
エストニア	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
丁扶	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇
ウヰラント	六、六〇、〇〇	六、六〇、〇〇

め犠牲輸出であつた。しかし、輸出相場の高くなるともに、九年から奨励金の交付は停止された。従つて現在では、單位利益としては僅かなものであらう、とも角ダンピングから轉じて、或る程度の採算的輸出となつてゐるのである。

最近五年間洋紙輸入高

Table with 2 columns: Year (昭和六年, 七年, 八年, 九年, 十年) and Amount (千ポンド). Values range from 1,640 to 2,600.

需要増加の結果、操短率は九年、十年にたつて、引續き緩和された。洋紙の操短率は昭和六年以降九年十月まで、公稱生産能力に對して、大會社は五割五分、中會社は四割乃至四割八分、小會社は三割乃至三割五分、平均して四割八分の基本率を固定して來た。

出席のもとに感大なる開業式舉行。現在月産高人絹バルブ二千五百噸▲京都に京信會創立、事務所京都市中京區四條通東洞院富田ビル、九州には九信會組織さる。事務所門司市棧橋通郵船ビル四階、共に王子製紙製品模造紙エスビーロールの販賣機關。▼二日、元内閣印刷局抄紙部長片倉建四郎氏大日本セルロイド會社の社用により去る四月十四日東京を出發、歐洲全國の寫真用バライタ紙製造を視察の上、滯歐約四ヶ月にて本日歸朝さる▼ソ聯邦第二次五年計畫中に極東方面に約七十の製紙工場建設計畫を確立。而してソ聯製紙業本部では北部地方コトラス地區及びウラル地方ベルミ附近に二大セルロイズ工場建設工事に着手。本邦へも北鐵代價物資とし、製紙機械の引合せ盛んに來る。▼滿洲國牡丹江、滿洲バルブ工業株式會社創立計畫。出資者日滿有力實業家を網羅す。工場圖們、敦化、密山に分工場設置の豫定

九月

▼樺太森林材積飛行機調査の結果、七億四千八百三十五萬八千七百五十一石と判明す。従来の推定量より六千八百四十七萬二千石余の増加となる。内製紙用材一千二百六十六萬二千余立方米突▼廿五日、東京市足立區千住本町、甲子製紙株式會社工場。増設の第二號九十七吋圓網抄紙機完成。運轉開始。羅紗紙、ワンプー、文庫芯紙抄造及茶板紙抄造、月産二十萬封度▼十八日、パタヴィア國、包裝紙制限令を公布、即ち一、實施期限十月、二、許可數量、古新聞、古雜誌等以外の包裝用紙五百七十五萬七千疋(風袋共)三、和蘭(割當百七十二萬七千疋、約三割)。▼臺北州羅東郡二結、臺灣紙業株式會社二結工場、増設の第二號中八十六吋長網ヤンキー抄紙機運轉開始、印刷紙抄造(第一號機は九年末より運轉中)▼龍山工作株式會社は朝鮮實業界の有力者田川常次郎氏によつて起工さ

Table with 2 columns: Category (e.g., ポーランド産, メキシコ産) and Amount (千ポンド). Total 7,300.

昭和十年度に於ける日本製紙聯合會以外の製紙會社の洋紙製造量

の目的となるのは、印刷紙、模造紙の主要品二種だけ)もつともこの間において印刷紙、模造紙、筆記用紙等の需要の多い種類については、ストックの封印解除をやつたり、操短基本率は動かさなかつたが、結果においては全く同じである適當の生産増加を一ヶ月単位で斷續的に實行してゐる。そして、九年十一月に至り、需給の前途に確信を得たので、基本率を各社平均五%低下することになつた。さらに十年七月には、内地向には平均基本率一分、輸出向には二分五厘の操短緩和をやることに決し、有効期間は十一年七月末までと定めた。従つて、現在の各社平均操短率は四割二分となつたわけである。

統制強化進展

現在の製紙聯合會は、諸産業中でも最も獨占性の強力のもので、たとへば洋紙生産高から見ると、全國生産高の九割六七分を占めるのであるが、聯合會内において、王子製紙一社がさらにその八割強を占有してゐる。バルブ獨占その他の手段で、王子の獨占が不動の地位を確保してゐることは、周知のごとくである。

十月

▼六日、中國造紙股份有限公司(資本金四百五十萬圓)創立。出資は官民合辦、官廳側中央實業部及び浙江省政府、民間側上海方面の新聞社、及び商務印書館の出版業者。▼十四日、關東軍司令部にて、滿洲林業股份有限公司(資本金五百萬圓)創立す。滿洲林業の統制を計るを目的とす。出資者、二百五十萬圓滿洲國政府、一百萬圓滿鐵、百五十萬圓東拓、王子、大倉の三社各投資

十一月

▼一日、王子製紙株式會社樺太惠須取工場抄紙部技師、磯田清藏氏「抄紙機械解説」を發行。抄紙機の各部に涉り詳細説明す▼北越製紙株式會社新潟工場。増設の中百吋長網抄紙機獨逸ホイット社製据付完成。運轉開始す。製品は新聞紙雑用紙。▼臺灣興業株式會社。新設の中百吋長網抄紙機(大島製鋼所製)据付完成。(印刷用紙及筆記用紙抄造)▼岐阜市外加納町、華陽製紙株式會社。一月資本金五萬圓を廿萬圓に増資後、建設中の第二工場(岐阜驛附近)杉浦鐵工所製一百吋長網抄紙機一臺運轉開始。取締役社長宮島善兵衛氏▼靜岡縣富士郡富士川畔新設の岳陽製紙株式會社(社長齋藤信吉氏)操業開始。同時に製品の市販開始▼山口縣玖珂郡和木村、日本紙業株式會社藤防工場、新設の第五號中百十八吋長網抄紙機(龜有工場より移設、四月に運轉開始)印刷用紙の抄造開始、同時に日本製紙聯合會へ加入▼日本洋紙株式會社資本金一百萬圓)設立す。本店大連市山縣通一四七、支店大阪市東區備後町野村ビル内。同社は大同、富士、中井三洋紙店が滿洲國內に於ける王子、鴨綠江、六合成の三製紙會社製品の販賣統制機關として設置す。取締役(社長)中井三之助氏(専務)谷野彌吉氏(同)島田林太郎氏(同)今村金

栃木製紙所 宇都宮市一八五、二〇〇封度 ケント、襪紙、羅紗紙 岳陽製紙株式會社 靜岡縣 粟、穴封度 印刷、模造(入會前) 右の外、滿洲安東縣に在る鴨綠江製紙株式會社が 昨年中に製出したる有光紙、手邊紙、其他の支那 模造類は、二千一百三十四萬九千二百三十五封度 なり。

機械濾和紙の製造量 日本紙業、三菱、王子 昭和、志摩、三浦、上田 明田の九會社が、昨年中に生産したる機械濾和紙類の合計は之を換算して 三千六百三十六萬一千三百五十封度となる。

昨年のアト紙製造統計 昭和十年に於けるアト紙の製造業者は、日本加工、王子、三菱、北越の製紙會社各製造量左の如し。

相當多量の需要をもつことにならう。最後のステープル、ファイバーは今、明年あたりから本格的發展が豫想されてゐる新産業で、順調に發展すれば、人絹に比肩するバルブ消費者とならうと思はれる。洋紙及び人絹生産高、バルブ生産及び輸入高を參照して見た、バルブ需要統計は左記の通り(單位千トン)

製紙用 人絹用	合計
昭和七年	六五五 三〇〇
同 八年	七〇〇 三〇〇
同 九年	八〇〇 三〇〇
同 十年	八〇〇 三〇〇

結局一年少くとも十萬トンくらゐの需要増加は、將來においても繼續せられるわけである。昭和十年には百トンの消費のうち、二十七萬トンの外國バルブが輸入された。内譯は製紙バルブ十四萬トン、人絹用其他のバルブが十三萬トンである。

バルブ自給問題

前記のように、昭和十年の輸入バルブは約二十萬トンに上つた。(價額にして五千五百萬圓) 昭和四、五ころまでは毎年六、七萬トンに過ぎなかつたから、急激な輸入増加といはなければならぬ。製紙バルブの輸入も増えたが、人絹バルブ需要の急増が、この輸入膨脹の主因である。そして今後は毎年十萬トン以上の需要増加がある事は、前記した通りである。

場、職工側待遇改善問題に端を發し約三十名の職工同盟罷業に入る。約一ヶ月にして業に復す。▼二十日、北鮮製紙化學工業株式會社建設部長青山與一氏同工場長餘田平藏氏、工務課長内山建三郎氏一行二十名 吉州工場下調査のため現場へ赴任▼廿五日、關東板紙株式會社(資本金五十萬圓)設立す。同會社は共同印刷、凸版印刷の共同事業に屬す。取締役本間利雄氏井上源之丞氏、大橋光吉氏、岡本彌兵衛氏、福田兼吉氏、川島一郎氏、森川利衛氏、田村峻氏の八氏、監査役金子福松氏、小佐野佐吉氏

四月▼七日、東京市王子區十條町日本加工製紙株式會社工場、午後八時四十分頃、塗料工場より發火、鐵筋及木造建一棟燒失す▼静岡縣鈴川、大正工業株式會社第二工場、増築中の巾八十八吋長網抄紙機(杉浦鐵工所製)運轉開始▼滿洲國安東縣六合成造紙廠(資本金一百七十萬圓)王子製紙の經營に移る、之は滿洲國が王子製紙に對し、張學良時代の債務を認め其代償として周圍財政部の有せる同造紙廠の株、八割を王子製紙讓渡したるものなり。

五月 樺太敷香、日本人絹バルブ會社クラフト紙工場完成。同時に製品品の市販開始。クラフト獨逸ホイト社製百七十三吋長網抄紙機運轉開始。同機能力毎分八百呎。年産クラフト紙二萬噸▼山梨縣加納岩町、扶桑紙業株式會社(資本金一百萬圓)操業開始す。社長小野耕一氏、専務取締役矢崎廣氏。支配人中込悦策氏。製品販賣は三井物産に委託す。▼新潟市沼垂町新潟板紙株式會社(資本金五十萬圓)開業式舉行。工場敷地四千坪、内建坪九百七十八坪、二枚取り板紙抄紙機一臺製造機一臺設置、日産二十噸。製品販賣店(東京)深山、太田、小室、(名古屋)大同、岡田、(京都)森の各洋紙店。

の規定により、五拾圓新株式三百萬二百四十株に新規に發行すること(一)右新株式中二百九十九萬九千七百六十株は昭和十一年五月一日現在の株主に割當て各株主はその當時の所有株一株につき新株式一株の割合で新株式を引き受けることを得但し十一年四月卅日迄に未拂込株式金の拂込を完了せざる株主は其の未拂込株式に對する新株式引き受の權利を有せざるものとす。

(二)前項により新株式を引受けんとする株主は十一年六月一日までに其の申込みを爲し且つ同日迄に證據金(株十二圓五十錢)を拂込むこと、若し同日迄に其拂込を爲さず又同日迄に證據金を拂込まざる時は其株主は新株式を引受ける權利を失ふべし。

輸入高	輸出高
(十月累計)	(十月累計)
印刷用紙 一四、三、七四封	印刷用紙 一四、三、〇〇封
アートペーパー 八、九、五、四封	煙草用紙 六、四、九、〇封
有 色 三、五、八封	連史紙 三、七、〇、〇封
筆記用紙 一、二、九、〇封	包装用紙 一、二、六、〇封
圖書用紙 三、〇、四、七封	模造紙 九、七、〇、〇封
小 計 一、七、三、六封	計 一、七、八、六、六封
一四、七、五、五封	九、三、五、三封
九、三、四、九封	三、五、〇、四封
包装及燐寸用紙 一、二、四、九、六封	雁皮紙及薄葉紙 一、三、二、〇、〇封
煙草用紙 一、二、四、六、五封	吉野紙及器具帖 九、三、〇、〇封
九、八、五、二封	三、四、四、〇封
七、二、四、七封	四、九、二、四封
一、〇、四、二、六封	鳥ノ子紙 三、〇、〇、〇封

▼静岡縣富士郡原田村、三島製紙株式會社(資本金一百萬圓)大阪府下吹田製紙株式會社(資本金一百萬圓)を合併に決議す。三島製紙は專賣局の指定工場にして、捲煙草用紙、インディア紙専門抄造。吹田製紙は近年休業中なりしもの▼十六日、高崎板紙株式會社(資本金五百萬圓)、増資の爲東京にて設立中の高崎紙業株式會社(資本金五百萬圓)を合併し、同時に資本金一千萬圓(拂込済)に倍額増資す。▼十二日滿洲バルブ四會社、滿洲國政府に對し設立登記申請を終了す。四社名稱、日滿バルブ株式會社(資本金一千萬圓)王子系、東洋バルブ株式會社(資本金五百萬圓)川西系、滿洲バルブ工業株式會社(資本金五百萬圓)寺田系、東滿洲人絹バルブ株式會社(資本金七百五十萬圓)大川系。

六月▼九、十日、岐阜縣美濃町に於て全國和紙業組合設立さる。會長岩本仙吾氏(土佐紙業組合長)副會長松久永助氏(華濃紙同業組合長)副會長大西觀市氏(全國機械漉和紙聯合會長)▼静岡縣駿東郡長泉村特種製紙株式會社業務益々良好なるにより、資本金二十五萬圓を五十萬圓に倍増増資す。主に大倉洋紙店の經營に屬す。▼東京市蒲田區糞屋町仙波製紙株式會社、負債整理の爲休業中なりしが債權者の投資により工場の再開を見る。負債額十萬餘圓

七月▼一日、負債整理中の仙波製紙株式會社、債權者の經營に移り蒲田製紙工業所と改稱し、工場營業開始す。▼静岡縣富士郡原田村駿河製紙株式會社、資本金七萬圓を二十五萬圓に増資す。社長佐野貞作氏、同社は大正工業の傍系にして將來は同社和紙部として合併の豫定。巾七十吋圓網ヤンキー抄紙機一臺設置。▼内閣印刷局抄紙部新築中

(三)第一項により株主に割當せざる新株式四百五十株及前二項により株主の引受けざる新株の處分方法は取締役會に一任すべし事。

(四)第一回拂込金額は一株に付十二圓五十錢とし新株式總數の引受ありたる時は證據金第一回拂込に充當するものとす。但しその新株式に對する十一年下期の利益配當金は十一年六月一日より計算す尙右と同時に同社は五百萬圓を社會公益事業に、三百萬圓は從業員の福利施設に寄附する事となり重役會で正式決定を見た一、金五百萬圓を公益事業に寄附する事、但し右金額は五ヶ年以内に拂込むものとし其の寄附の條件及手續は一切取締役に一任するものとす

一、從業員の幸福増進の爲め金三百萬圓を寄附する事、但し右金額は

七百萬石前後を消費してゐる。今後多少拂下量を増加するとともに、この良質の木材は理想論としては、洋紙パルプに使用し使用價値の大なる人絹またはステール・ファイバー用パルプの増産のために向けなければならぬものである。人絹パルプの相場は一ポンド十六錢餘だが、製品は最近の暴騰相場では一圓餘である。コストのうちに、原料代金の占める割合は、たとへば紡績等に比較して遙かに少ない。かような商品の原料は、輸入品を使つても必ずしも不利ではない。といふやうな議論もあらうと思ふ。だがそれにして、國策上からは無論のこと、事業の安定といふ意味からも、爲替激動の危険を包蔵してゐる現在においては、主要原料を輸入に仰ぐといふことは決して望ましいことではない。況やステール・ファイバーの如く、羊毛または棉花代用品として、國策的意義をもつ商品の原料としては、原料自給策の確立は極めて必要といはなければならない。

出益々旺盛となり、依つて同地方の燒紙製紙會社近年稀なる大活況を呈す。▼二十八日、康徳洋紙株式會社(資本金五百萬圓半額拂込)創立す。同社は鐘紡によつて設立された、葦を原料とするパルプ工場にして、代表者は(鐘紡重役)倉地四郎氏、營口市外三家子に工場敷地七萬三千坪を買収し、建設工事に着手す。工事費三十二萬四千圓にて大倉組に落札す。設立後人絹用パルプ年産額二百九十萬封度の豫定。紡績會社にしてパルプ事業に進出せるは鐘紡を以つて嚆矢とし、各方面の注目を喚起せり。▼東京市王子區浮間町、東京板紙株式會社は約五十萬圓の負債を生じ休業するに至つた。▼静岡縣富士郡今泉村、富士紙業株式會社(資本金六十一萬圓)、増設中の七十六吋圓網抄紙機据付工事完成、運轉開始、上等マニラ板紙抄造。取締役(社長)加藤直吉氏、(専務)鈴木米作氏、(支配人)井出耕作氏。

十月 ▼天皇陛下、北海道陸軍特別大演習御統裁の御砌七日午後五時より行在所御座所に於て、王子製紙株式會社社長藤原銀次郎氏を召され「世界製紙業に於ける日本の地位」に就て約三十分間に亘る御前講演を御傾聴遊ばされたり。▼静岡縣原田村、福富製紙株式會社(久保田春吉氏經營)新築中の瀧川工場落成、七十一吋圓網抄紙機(鈴木製機所製)運轉開始。薄マニラ板紙抄造、月産約四十萬封度、▼内閣印刷局抄紙部新設工場、南千住製作所製六十四吋長網抄紙機の据付完成。運轉開始す。薄葉紙専門抄造▼廿七日、日本製紙聯合會書記長野村氏午前四時頃自宅に於て腦溢血にて死去す。享年五十七、同氏は庶務及會計を擔當、忠實勤勉にして、内外の信頼厚かりし人。▼二十九日、小田原製紙株式會社、小田原工場長兼東京(成増)工場長井上齋次郎氏、同社専務取締

バルブ工業に就ひて 井上憲一氏談

日産間の通商問題を契期として、我國の纖維工業、就中ステール・ファイバー事業に對する世人の關心が、大いに向けらるゝに至つた。此の事業は近年、棉花、羊毛の代用として、各國が競つて研究し、工業化しつつある、新規事業であるが、此の事業にせよ、人絹事業にせよ、製紙業と同様ハルブを原料とするから一轉して、ハルブ事業に對する一般の注意が一層甚大となつたことは當然のことである。而も年々多額の輸入を餘儀なくせらるゝ我國にとり原料國策樹立は、尤も急務と考へらるゝ次第である。聊か我國並に世界主要國のハルブ事業に就て申述べて見やう。

我國に於ける、木材ハルブ事業に就ては、

製紙及人絹用パルプ

取扱パルプ製造會社名

- 王子製紙株式會社
- 日本人絹パルプ株式會社
- 北鮮製紙化學工業株式會社
- 日滿パルプ製造株式會社
- 山陽パルプ工業株式會社
- 日本パルプ工業株式會社
- 旭電化工業株式會社
- 高千穂製紙株式會社
- 蘆水港パルプ工業株式會社

株式會社 安宅商會

大阪本店 大阪市東區今橋五丁目十四番地 電話北濱自111番一至1519番

東京支店 東京市麹町區丸の内八重洲ビル 電話丸の内2181番一至2185番

其ノ他支店及出張所 名古屋・福岡・八幡・京城・大連・奉天 新盤谷・天津・青島・上海・漢口・北平 孟買・倫敦・ブエノスアイレス

本社 東京市麴町區丸之内二丁目六番地
 高砂工場 兵庫縣加古郡高砂町
 中川工場 東京市葛飾區新宿町五丁目

三菱製紙株式會社

關東一手販賣店 柏原洋紙店
 關西一手販賣店 菱三商會
 菱三商會京都出張所
 菱三商會神戶出張所

和洋製紙

總有工場……東京市葛飾區龜有町
 伊野工場……高知縣吾川郡伊野町
 藤防工場……山口縣玖珂郡和木村
 四谷工場……東京市四谷區元町
 大阪工場……大阪市旭區今福町
 其他分工場……四ヶ所

東京市四ツ谷區元町五十九番地

日本紙業株式會社

東京市日本橋區吳服橋一丁目(安田信託ビル内)
 販賣課

電話日本橋(24) 六六六 四四四 八七六 番番番

紙器印刷

大阪支店……大阪市西區西長堀北通三丁目
 高知支店……高知市旭町三丁目
 京城支店……京城市南大門通三丁目
 輸出課……神戸市神戶區江戶町
 其他出張所……伊豫、福岡、名古屋、釜山、大連、天津

代表 八八八八
 長 八八八八
 電話 四四四四
 番番番番
 〇一三三
 四四四四
 番番番番
 振替口座東京七五七二番

段ボール用各種巻取原紙

(黄巻取・片茶巻取・クラフト外皮)

段ボール用シリケートソーダ

黄
ポ
ー
ル
各
種
ポ
ー
ル

美高伏北岡
作崎木越山
製板板製製
紙紙紙紙紙
株株株株株
式式式式式
會會會會會
社社社社社
輸輸輸輸輸
出出出出出
販販販販販
賣賣賣賣賣
店店店店店

東京出張所 東京市四谷區新宿一ノ三
電話 四谷七〇一三番

大阪出張所 大阪市北區堂島中通一ノ一
電北一三五六番

合資 二見商會

神戸市神戸區中山手通二丁目一〇六
電話 葦合 (代表) 七二八〇番
七二八一番
七二八二番

斯界ノ最高峰

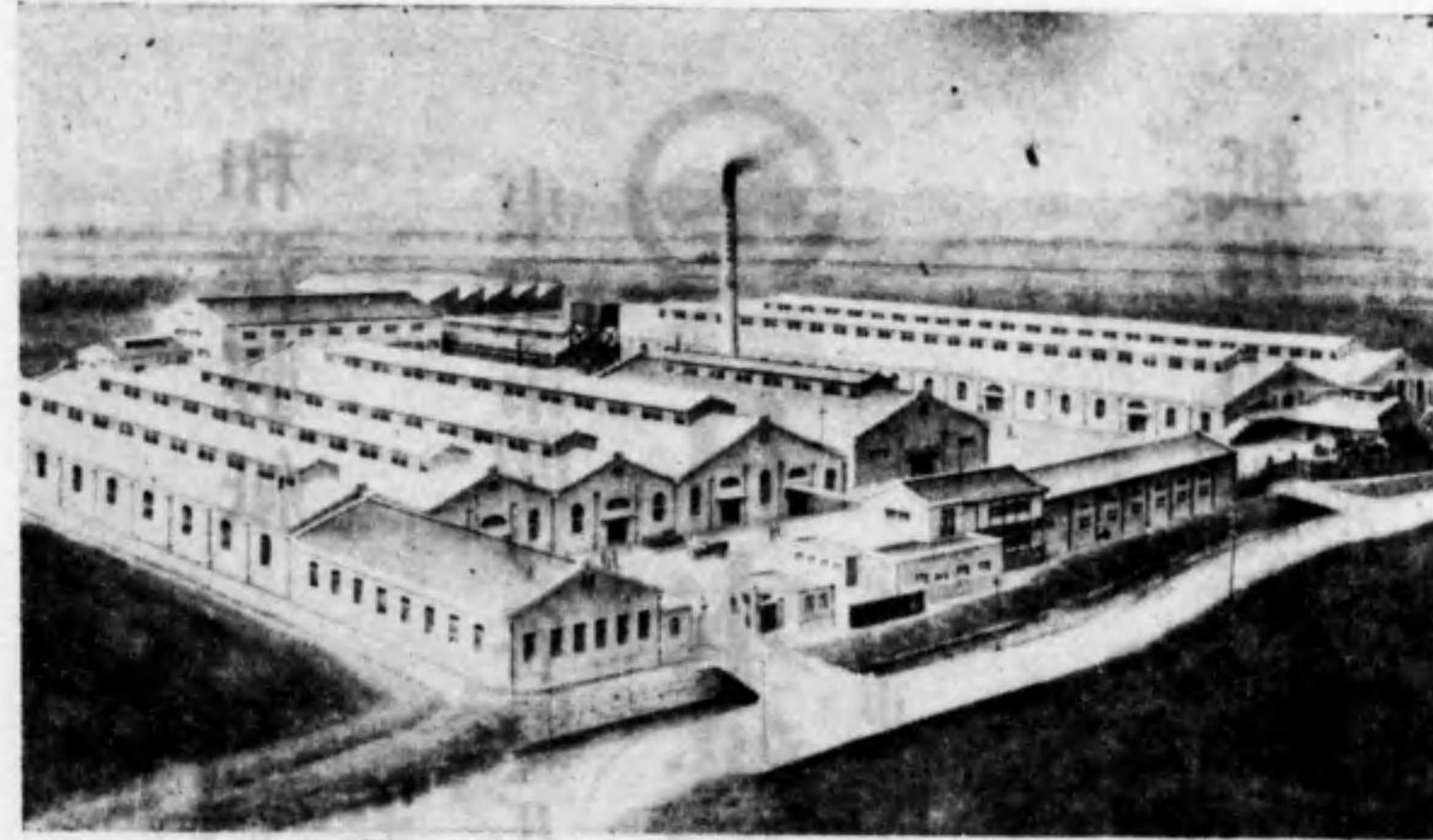
マニラポール
ナニワポール
黄ポール

浪速製紙株式会社

輸出一手販賣店

煙草用紙 富士川製紙株式会社販賣店
製紙用金網 日本金網株式会社販賣店
製紙用毛布 日本フェルト株式会社販賣店
製紙用紙屑・木綿ボロ・麻ボロ販賣
古鐵・古ゴム販賣

其他支店、出張所一横濱、四日市、八尾、木浦、大連、奉天、新京、天津、青島、上海



景全社曾式株業工スロク本日

海軍省指定工場
大藏省御指定
鐵道省御指定

ダイヤモンド印、ラクダ印、キング印
ブツクバインディング・クロス
サカフライト印
ブライインド・クロス
サカフライト印、ダイヤモンド印
トレーシング・クロス
サカフライト印、ラストロンク印、オールインワン印
タイプライターリボン
商工省選定優良國産品製造工場

日本クロス工業株式会社

京都市右京區西京極
電話 下 五二七〇番
桂 一五七七一番
七六番

東京支店 京都支店 名古屋支店



株式會社 大同洋紙店

本店 大阪市東區安土町二丁目卅七番地

電話本町(24)代表 七四〇番(2)
振替口座 大阪 三二七番

京都支店 京都市下京區綾小路通烏丸西入

電話下(5)代表 八六六〇番
振替口座 京都 二四六番

名古屋支店 名古屋市西區下園町三丁目

電話本局(自)二六五・四四九三番
振替口座 名古屋 二九五番

東京支店 東京市京橋區銀座三丁目四番地

電話京橋(66)自 四四三・四一四〇
振替口座 東京 六〇〇六六番

九州支店 福岡市上西町十八番地

電話東(8)三〇六四七番
振替口座 福岡 二〇七六番

出張所 濟南 天津 北京 青島 上海 廣東 香港

本店 大阪市東區備後町三丁目二十九番地

電話本町(24)長
一一三四番
一七六五番
一九〇一
一九〇二番



株式會社 富士洋紙店

名古屋支店 名古屋市西區傳馬町七丁目十四

代表 二二五二番
電話本局(2) 二二五三番

神戸出張所 神戸市海岸通四丁目十六番地

電話三宮 八八八五番

大阪市東區南久寶寺町二丁目



株式會社 大一洋紙店

電話 船場 (83)

長一八三番
三一八五番
三〇〇五番
三〇〇五番

振替口座大阪七五四七番

本 部

大阪市東區南久寶寺町二丁目

衛生有効消毒劑
特製香水入 壽キレ一紙

創業明治廿五年

東京市小石川區氷川下町

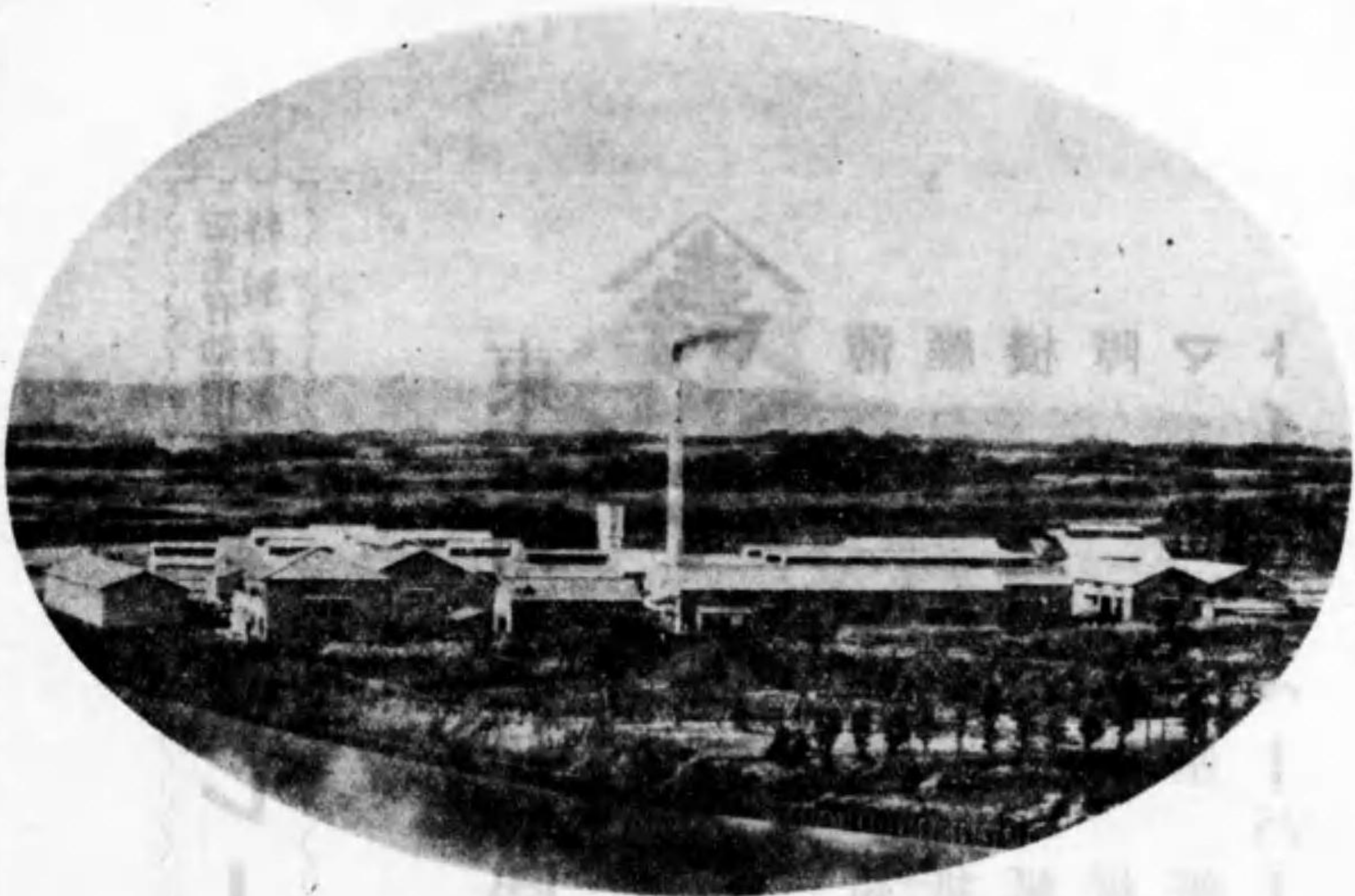
壽キレ一紙堀内製紙株式會社

電話大塚 (86) 一七五八番
二〇一九番

振替東京七四二〇七番

薄葉紙 雁皮紙 機織紙 障子紙 馬尼拉塵紙 トイレットペーパー

大平加工製紙株式會社



大平皮革紙
大平紙クロス
中等教科書用表紙
高級模樣紙
大平カパーペーパー
色ケント

東京市王子區浮間町

大平加工製紙株式會社

社長 久保田壽朗

電話赤羽 二〇八八番
三三〇五番
電話大塚 六九一九番

製紙用金網

抄紙用金網一式各種一般金網
各種合金製線各種ダンテロール

日本金網株式會社

本社・淀橋工場
世田谷工場
大阪工場

東京市淀橋區角筈二丁目二四四
電話四谷(35)七八八七八九七九〇
東京市世田谷區池尻町二〇四
電話青山(36)九六一番一六九二番
大阪市東淀川區長柄東通二丁目四三
電話堀川(35)九四一番二二六二番

各國製紙會社・官廳御用達

東京市麴町區麴町一丁目八番地

製紙原料問屋 株式會社 丸久商店

代表取締役 杉山榮藏

電話九段 一〇〇八八七番
電信 電略〇八七番
受信略號 コウジマチマルキスギ

廣撰分工場 埼玉縣蕨町新國道電話蕨二〇四番
大阪出張所 大阪市外吹田町電話吹田五七四番
清水出張所 清水市驛前電話清水三五九番
網代出張所 靜岡縣網代驛前電話網代六九番
大連出張所 大連市彌生町二電話本局八〇四八番
安東出張所 安東市四番通一ノ四電話六九番

辨柄



岡山縣特産 製紙用

赤口辨柄 黄口辨柄

日本辨柄工業資合會社

本社 岡山縣和氣郡山田村 電話 佐伯局一三番 振替 大阪壹六三八番

支店 第一工場 岡山縣和氣郡山田村
 支店 第二工場 岡山縣後月郡共和村
 支店 東京市日本橋區濱町三ノ三九番
 支店 大阪市北區末廣町一三番
 電話 堀川一三六二番



合資會社

朝田洋紙店大阪支店

(卸部・小賣部) 電話 船場四二三番 四二三番 八〇九番 振替 口座 大阪 四九六一五番

大阪市東區北久太郎町三丁目

三菱艶紙特約店。共和レザ―製品關西一手販賣店
 各板紙會社特約店。高級表紙。型紙。小間紙類發賣元

東京市神田區松永町二七
 奉天市鐵西區中央街一段

東京朝田洋紙店(本店)
 滿洲朝田洋紙店(支店)

粉末包裝紙袋



紙袋の主なる用途

重包裝 (石灰、鹽素、硫安、晒粉、澱粉)

封筒類、各種中袋、ロール袋

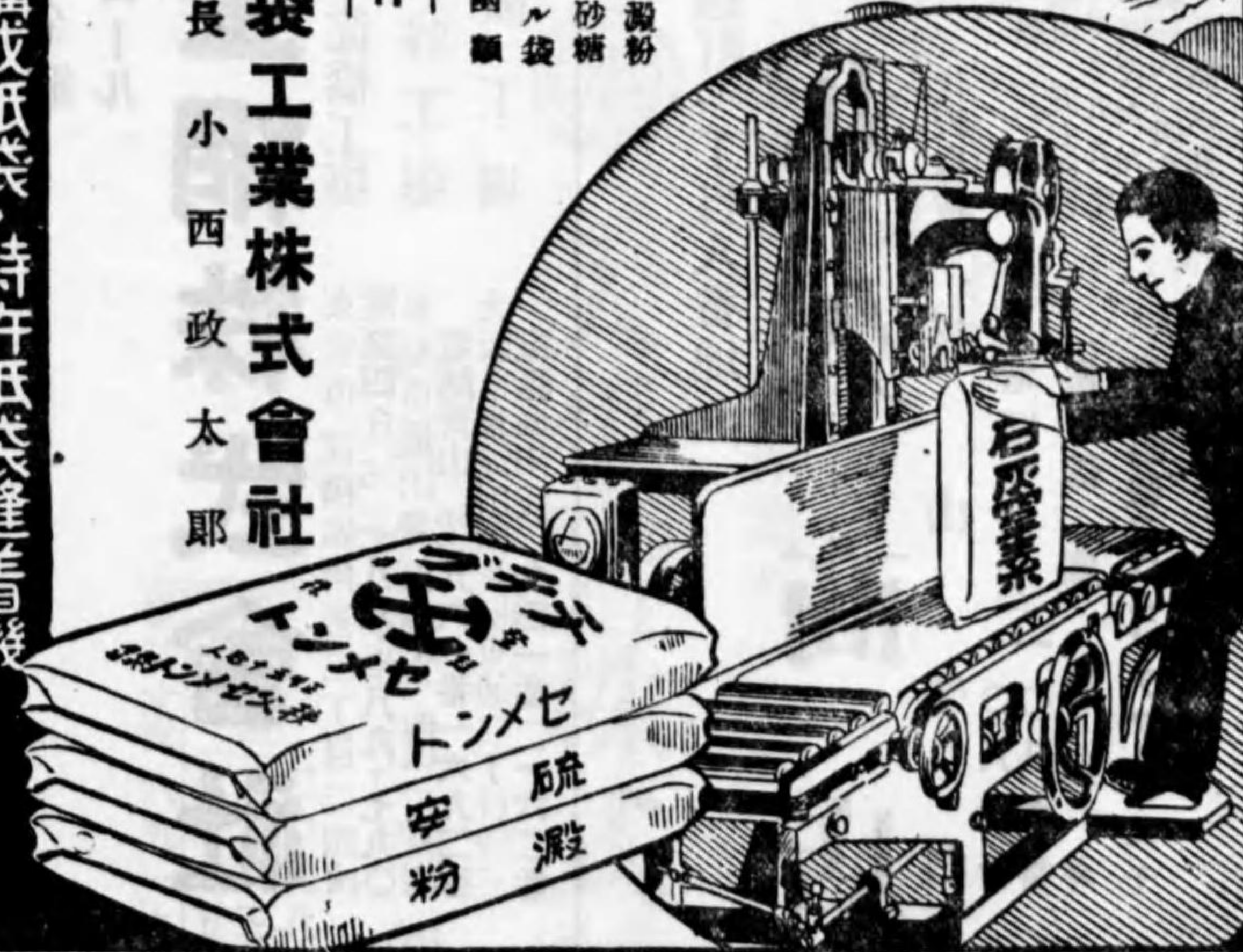
輕包裝 (セメント、グアノ肥料、砂糖、砂糖、化學、紙函類)

特許權所有百二十餘件

日本製袋工業株式會社

社長 小西政太郎

MK式・特許二段構成紙袋・特許紙袋縫着機



加奈陀パルプ
加奈陀フェルト
其他製紙工場
納品一式

大阪市北區宗是町大阪ビル内

直輸商 會社 永田商店

代表社員 永田吉徳

電話 土佐堀長 五四一
六四〇 五二番
六六二 二番
受信電略オサカ、セイシナガヨシ
發信電略 (ナ) 又ハ (ナヨ)

中國製紙 岡山製紙 阿波製紙 田島化學 美作製紙場
新川製紙 日本建築 江戶川工業 各社製製品代理販賣

岡山縣西大寺町

山陽板紙株式會社
製品販賣部

大森紙商店

大阪荷扱所 西區幸町通二丁目八 電話櫻川一八二三番
東京出張所 本所區東兩國四丁目七 電話本所七八七三番
電話 二〇番 二三六番
電話市內專用 四七二番

日本紙業株式會社 三島工業株式會社
大昭和製紙株式會社 田岡製紙所
筑後京花紙株式會社 井出製紙所

販賣店

東京市日本橋區橫山町五番地十

會社 丸山正太郎商店

電話 浪花 七七・二一八・三七五番
振替 東京 八二二二番

料染用紙製

主取 染料其他顏料
要品 製紙用藥品
金網機械類



會社 福大洋行

獨逸 I.G. 染料工業株式會社 グリースハイム部 特約代理店
米國 I.A.I. デューポイント・デ・ニューマース 會社 販賣店
合資會社 大平工業 所製紙用 辨柄 一手取扱
大日本油脂株式會社 製サボジン(松脂代用) 特約販賣
大阪市西區阿波堀通五丁目四五番地

出張所

電話 新町 一六七八番
電話 大區 八八五番
電話 小石川區 三〇九六番
東京市小石川區 三〇九六番

製紙機械

附屬機械其他設備
 パルプ製造機械
 加工紙製造機械

煙草製造機械

除塵裝置
 乾燥冷却裝置
 濕霧調和裝置
 傳動裝置
 運搬裝置

大阪市東淀川區長柄濱通二丁目一番地

株式旭鐵工所

電話堀川
 一〇二五番
 二〇二六番
 二六二四番
 五三七一番

洋紙商

東京市日本橋區江戸橋二丁目

株式矢島商店

電話日本橋(24)
 八八八六三番

關州代用 機械製改良半紙、マニラ半紙
 其他美濃紙、障子紙、コツビー紙、姫紙

島根縣鹿足郡津和野町

石見製紙工場

工場主 新藤 五一
 電話一九番

洋紙十六年史表解

昭和拾五年八月十五日印刷
 昭和拾五年八月二十日發行

定價金壹圓

不許複製

著者 西嶋東洲
 大阪市東區北國分町九六〇

印刷人 西井幾藏
 大阪市北區川崎町七番地

印刷所 ナニワ印刷所

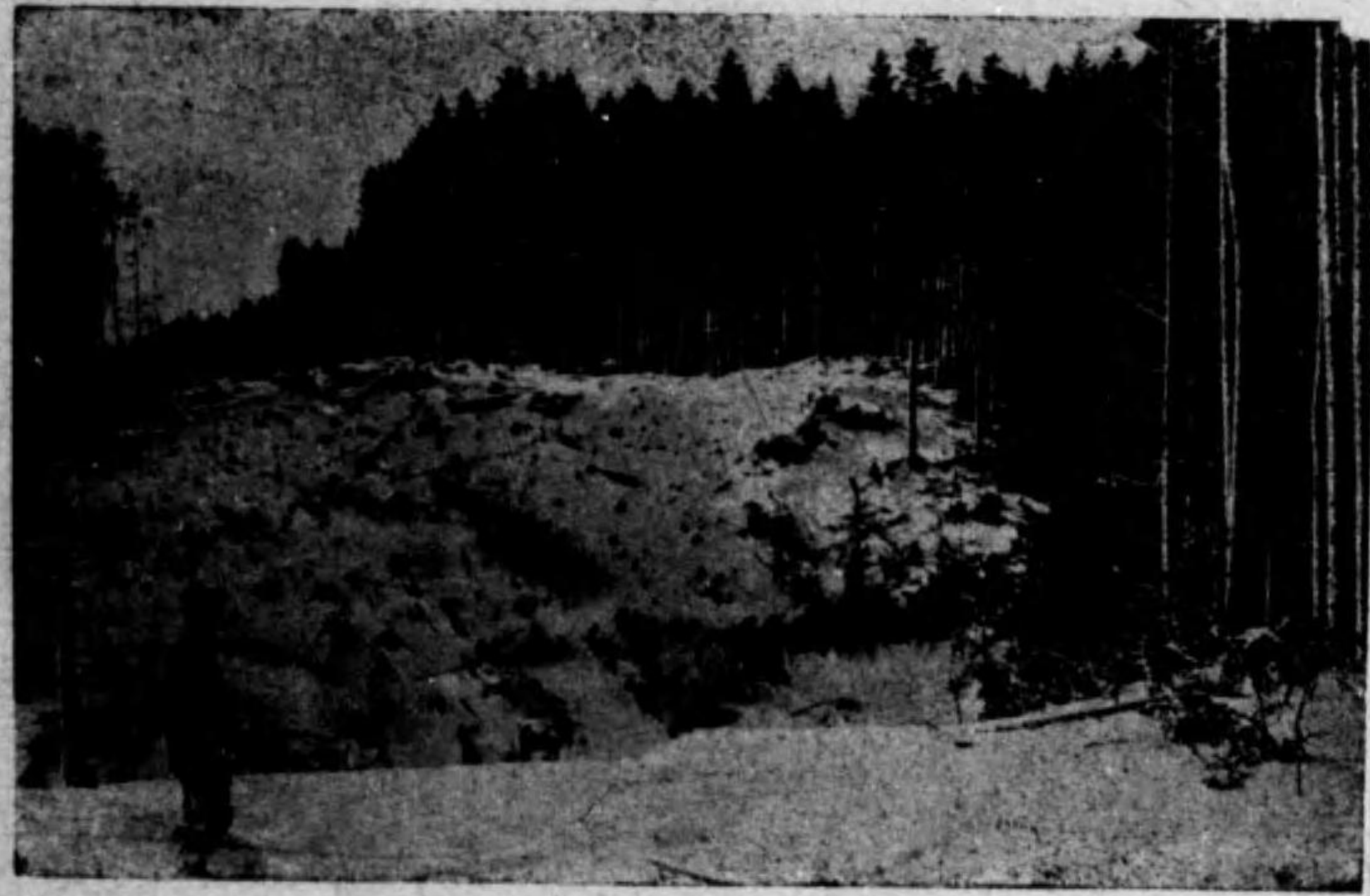
大阪市東區北國分町九六〇

發行所 紙業新聞社

電話東三六五九番
 大阪六六九四一番
 振替東京三九四七九番

907
61

907
61



樟 太 の 森 林

終